Ⅰ.「全国川サミット in 江戸川」実施概要

1.「全国川サミット」とは

「全国川サミット」とは、下表に示す１級河川名を自治体名とする全国の市区町村 51 団体が「全国川サミット連絡協議会」を組織し、未来に向けて“川と流域の係わり”や“より良い川との共生”を探り、川の素晴らしさを全国に向けて発信していく年１回の貴重な大会である。

この全国川サミットは、平成４年に富山県庄川町からはじまり、11 回目を迎える今回は関東地方、そして都市部で初めての開催となった。

「全国川サミット連絡協議会」参加自治体一覧

No.	都道府県	市区町村名		平　成　（年）											No.	都道府県	市区町村名		平　成　（年）										
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14					4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	北海道	鵡川町	むかわちょう	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	27	岐阜県	白川町	しらかわちょう				○					○		
2	岩手県	衣川村	ころもがわむら												28	岐阜県	蛭川村	ひるかわむら											
3	秋田県	雄物川町	おものがわまち	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	29	静岡県	芝川町	しばかわちょう											
4	山形県	真室川町	まむろがわまち			○		○	○						30	静岡県	富士川町	ふじかわちょう	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
5	山形県	鮭川村	さけがわむら			○	○	○	○						31	静岡県	大井川町	おおいがわちょう	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
6	福島県	湯川村	ゆがわむら												32	静岡県	菊川町	きくがわまち	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
7	茨城県	桜川村	さくらがわむら												33	愛知県	豊川市	とよかわし											
8	茨城県	緒川村	おがわむら												34	愛知県	新川町	しんかわちょう											
9	茨城県	小川町	おがわまち												35	愛知県	木曽川町	きそがわちょう											
10	群馬県	粕川村	かすかわむら												36	三重県	宮川村	みやがわむら	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○
11	埼玉県	滑川町	なめがわまち					○	○	○	○	○	○		37	滋賀県	安曇川町	あどがわちょう											
12	埼玉県	荒川村	あらかわむら	○	○	○	○	○	○						38	滋賀県	愛知川町	えちがわちょう											
13	埼玉県	都幾川村	ときがわむら												39	大阪府	寝屋川市	ねやがわし				○					○	○	
14	東京都	江戸川区	えどがわく			○	○	○				○	○	◎	40	兵庫県	加古川市	かこがわし	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
15	東京都	荒川区	あらかわく												41	兵庫県	猪名川町	いながわちょう										○	
16	山梨県	早川町	はやかわちょう												42	兵庫県	吉川町	よかわちょう				○						○	
17	山梨県	境川村	さかいがわむら			○									43	兵庫県	揖保川町	いぼがわちょう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○
18	山梨県	芦川村	あしがわむら												44	奈良県	十津川村	とつかわむら		○	○			○	○	○	○	○	○
19	新潟県	荒川町	あらかわまち	○	○	○	○	○	○	○	○			○	45	和歌山県	貴志川町	きしがわちょう											
20	新潟県	西川町	にしかわまち												46	和歌山県	熊野川町	くまのがわちょう											
21	富山県	庄川町	しょうがわまち	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	47	岡山県	加茂川町	かもがわちょう		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	長野県	奈川村	ながわむら												48	徳島県	那賀川町	なかがわちょう	○	○	○	○	◎	○	○	○			
23	長野県	松川町	まつかわまち												49	愛媛県	肱川町	ひじかわちょう	○	○			○	○	○	◎	○	○	
24	長野県	中川村	なかがわむら												50	福岡県	広川町	ひろかわまち											
25	岐阜県	中津川市	なかつがわし												51	宮崎県	北川町	きたがわちょう			○	○	○	○	◎	○	○	○	○
26	岐阜県	揖斐川町	いびかわちょう				○	○	○	○	○		○	○															

◎：開催自治体

○：参加自治体

全国川サミット連絡協議会会則

（名称及び目的）

第１条　この会は、全国川サミット連絡協議会（以下「協議会」という。）と称し、全国の川と流域との係りや２１世紀に向けてのより良い川との共生の方向を探るとともに、川を利用したイベントを行い、全国へ向けて川の理解を深め、啓発普及を図ることを目的とする。

（事務所）

第２条　協議会の事務所は、全国川サミットの主催地に置く。

（事業）

第３条　協議会は、次の事業を行う。

1　全国川サミットの開催

2　その他協議会の目的達成に必要な事項

（会員）

第４条　協議会は、次の者をもって会員とする。

1　一級河川名を名にする市区町村

2　協議会の目的に賛同するもの

（役員）

第５条　協議会に次の役員を置く。

1　会長１名（全国川サミット主催地の市区町村長とする。）

（経費）

第６条　協議会の経費は、会費及び補助金その他の収入をもって充てる。

（細則）

第７条　この会則に定めるもののほか協議会の運営に必要な事項は、会長が定める。

附則

この会則は、平成４年８月８日より施行する。

これまでの開催地とテーマ

	開 催 地	テ　　ー　　マ
第 1 回	富 山 県 庄 川 町	川は未来に夢はこぶ
第 2 回	北 海 道 鵡 川 町	きらめきリバータウン －川と人の未来を求めて－
第 3 回	静岡県大井川町	夢と希望あふれる川づくり －川は命、未来の子供たちへ引き継ごう－
第 4 回	兵庫県加古川市	川は友だち －ひと・まち・川・ちょっと素敵な物語－
第 5 回	徳島県那賀川町	未来へ語ろう！私たち川家族
第 6 回	秋田県雄物川町	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」
第 7 回	宮 崎 県 北 川 町	思いでいっぱい　不思議がいっぱい －川を彩るホタルの光が子供たちへの贈り物－
第 8 回	愛 媛 県 肱 川 町	21 世紀へのメッセージ －それは川から始まる－
第 9 回	三 重 県 宮 川 村	川に愛される人になりたい －ちょっとすてきな川家族－
第 10 回	兵庫県揖保川町	歴史に学び明日を見つめる川づくり －ともに創ろう川の未来水の未来－

2．江戸川区開催の意義

平成４年より始まった全国川サミットは、今年で 11 回目を数え、はじめて首都東京の江戸川区で開催されることとなった。

行政面積の２割が水面である江戸川区は、江戸川の下流域に位置しているという地形的特長から、かつては、水害から生活を守るための街づくりを区民とともに積極的に進めてきた。その結果、水害に対する安全性は格段に向上したことから、今度は逆に水を利用した親水公園や親水緑道をいち早く整備するなど、「遊水都市」を宣言するまでになり、今では水辺を活かしたまちづくりを展開している。

今日、社会経済の発展や時代の変化に伴い、人々の自然環境に対する社会的意識や、ボランティアへの参加意識が高まりを見せている。そうした中で、河川の自然を通した豊かな人間形成や、ふれあいの輪を広げていくことは大変重要なことである。

この「全国川サミット in 江戸川」では、大都市の中に位置する河川の役割を改めて認識するとともに、その利用をさらに高めていくための絶好の機会として捉え、未来へとつながる貴重な資産である河川を全国に発信していく。

3. 開催目的

① 江戸川を舞台に、住民の多様な活動を推進する。

「全国川サミット in 江戸川」を契機に、住民主体の活動を推進するとともに、活動を通した住民同士の交流を図り、流域連携の新しいパートナーシップを確立する。

② 自然やレクリエーションの場である、江戸川の恵みを再認識する。

地球の大切な宝としての自然環境である「川」を守る心を養うとともに、多様な可能性を秘めた都市の中の貴重なオアシスである江戸川を流域住民とともに再認識する。

③ 「遊水都市江戸川区」を全国にアピールする。

水との戦いの時代から、区民と区の長年の努力により、水を活かした街づくりを進めてきた本区の姿を、広く PR する絶好の機会と捉え、都市河川のあり方を全国に広める。

4. テーマ

「第 11 回全国川サミットｉｎ江戸川」のテーマは、江戸川区での開催意義や開催目的などを踏まえ、以下のように設定した。

【テーマ】

暮らしにとけ込む、にぎわいの川
～都市の中の川を考える～

５．開催概要

「第 11 回全国川サミットｉｎ江戸川」の開催概要および３日間のプログラム、会場概要は、以下のとおりである。

【開催概要】

◆名　　　称：第 11 回　全国川サミット in 江戸川

◆主　　　催：全国川サミット連絡協議会・江戸川区

◆実施主体：全国川サミット in 江戸川実行委員会

◆テ　ー　マ：暮らしにとけ込む、にぎわいの川
　　　　　　　～都市の中の川を考える～

◆会　　　場：江戸川区総合区民ホール
　　　　　　ホテルシーサイド江戸川　等

◆日　　　程：平成 14 年 10 月 11 日（金）、12 日（土）、13 日（日）

◆後　　　援：・国土交通省関東地方整備局江戸川工事事務所
　　　　　　・東京都　・・飾区　・松戸市　・市川市
　　　　　　・(財)東京都公園協会
　　　　　　・第３回世界水フォーラム事務局

◆協　　　賛：・(財)河川環境管理財団　・(社)関東建設弘済会
　　　　　　・(社)日本建築学会

【プログラム】

10 月 11 日（金）

「江戸川流域視察」

- 13：00～
  - ① 新川地下駐車場
  - ② 一之江境川親水公園
  - ③ 小松川千本桜　（車中）
  - ④ 荒川ロックゲート　（車中）
  - ⑤ 文化センター（中央図書館）
  - ⑥ 水上視察（小岩菖蒲園～・西臨海公園ステーション）
    （屋形船 2 艘）
    ・江戸川水閘門　・旧江戸川緩傾斜堤防
    ・投網保存会による実演
  - ⑦ ・西臨海公園〈パークトレイン乗車〉
  - ⑧ ・西臨海水族園

「全国川サミット連絡協議会総会」　ホテルシーサイド江戸川

- 17：40～18：00
  - ・ 第 10 回揖保川大会の事業報告および決算の報告
  - ・ 第 11 回江戸川大会の事業計画および予算案の承認

「参加自治体歓迎会」　ホテルシーサイド江戸川

- 18：30～20：00

10 月 12 日（土）

「江戸川ワークショップ」　江戸川区総合区民ホール

- 9：30～　ワークショップ開会挨拶　会場：太陽の間（2F）
  金沢大学教授（東京大学名誉教授）玉井信行

- 10：00～　ワークショップ分科会　会場：各会議室（4F）
  - ①　流域の住民連携
  - ②　江戸川の生き物考察（生き物グループ）
  - ③　ビオトープをつくろう（遊びグループ）
  - ④　水上レクリエーションのすすめ（カヌー·ボートグループ）
  - ⑤　環境学習における河川敷の活用（小中学校）
  - ⑥　誰もが利用できる川づくり（バリアフリー）

● 10：20～　演劇上演〔劇団彩〕　　　会場：小ホール（5F）
「かっぱの恩返し」：笑いとともに、江戸川の歴史や名称を紹介。
小中学校を通じ、興味のある親子を招待

● 10：20～　親水まちづくりシンポジウム　（社）日本建築学会
会場：研修室（4F）

「全国川サミット in 江戸川」　会場：太陽の間（2F）

す ま か づ え
総合司会：須磨佳津江（「趣味の園芸」キャスター、元ＮＨＫアナウンサー）

● 13：00～　全国川サミット in 江戸川　開会式
- オープニングビデオ
- 参加自治体紹介
- 開会宣言
- 会長挨拶　　　　江戸川区長　多田正見
- 来賓挨拶　　　　国土交通省、東京都

● 13：40～　基調講演
- 世界水フォーラム事務局長　尾田栄章（元建設省河川局長）
  「世界の川では今・・・・」

● 14：30～　意見発表
- 夏休み親子江戸川探検ツアー報告（ビデオ）
- 江戸川を考えるワークショップ発表
  （6分科会　×　10分）
- 分科会発表のおさらい（キーワードの整理）
  ≪コーディネーター：エコ・コミュニケーションセンター代表　森　良≫
  ≪コメンテーター：金沢大学教授（東京大学名誉教授）玉井信行≫

● 16：00～　「江戸川未来図」創作

- 会場全体会議
  （グループ発表のキーワードを参考に、10名程度のグループで「川をこうしたい」という具体案を作図）
- 「江戸川未来図」披露（全員で江戸川を表現）
- 意見交換

● 16：50～　総　括
エコ・コミュニケーションセンター代表　森　良
金沢大学教授（東京大学名誉教授）玉井信行

● 17：10～　全国川サミット閉会式
- サミット宣言　江戸川区長　多田正見　他
- 川サミット旗受渡
  江戸川区長　⇒　岡山県加茂川町長（次回開催地）
- 閉会宣言

「参加者交流会」

● 18：00　～　19：30
- ゲスト：橘家圓蔵（江戸川区在住）
- 余　興：・西囃子

10 月 13 日（日）

【関連イベント】

「第 25 回江戸川区民まつり」会場：篠崎公園
- パレード視察　12：00～13：00
- 式典参列　　　13：00～13：30

※「全国川サミット in 江戸川」ブース
【特産品、紹介パネルにより、参加自治体を紹介】

【会場概要】

◆ 江戸川区総合区民ホール

① ２階太陽の間（メイン会場）
- 特設ステージの設置
- ビデオ映像の放映設備（２機）
- 音響・照明設備
- 椅子５００～７００席（予定）

② ２階ロビー
- 参加自治体紹介パネル（流域自治体を含む）
- 参加自治体特産品の展示
- ポスターセッション
- 受付、案内

③ １階展示ホール（10 月 10 日～12 日）
「江戸川体験コーナー」
- 活動グループ（生き物・遊び・カヌー・ドラゴンボート）
- 江戸川流域のイベント
- 世界水フォーラム
- 江戸川工事事務所
- その他

④ ５階小ホール

- 演劇上演

⑤ その他

- 懸垂幕等や施設周辺の装飾によりイベント効果を高める

江戸川区総合区民ホール全景

総合区民ホール 2F ロビー

太陽の間

６．組織体制

当サミットの開催にあたり、組織体制は、以下のとおりとした。また、実施主体となる「第 11 回全国川サミット in 江戸川実行委員会」は、次ページに示すメンバーで構成した。

主　催
全国川サミット連絡協議会
東京都江戸川区

実施主体
第 11 回全国川サミット in 江戸川
実行委員会

幹事会
（担当部長級）

事務局：江戸川区土木部計画課
：(財)江戸川区環境促進事業団

後　援
国土交通省
東京都
（財）東京都公園協会
・飾区
松戸市
市川市
第 3 回世界水フォーラム事務局

協　賛
（財）河川環境管理財団
（社）関東建設弘済会
（社）日本建築学会

組織体制

第 11 回全国川サミット in 江戸川実行委員会メンバー

所　属　名	職　層	氏　　名	摘　要
江戸川区	区　長	多田　正見	委員長
国土交通省関東地方整備局 江戸川工事事務所	所　長	加納　敏行	
東京都建設局河川部	部　長	鈴木　進	
(財)東京都公園協会	理事長	佐藤　一夫	
・飾区	区　長	青木　勇	
松戸市	市　長	川井　敏久	
市川市	市　長	千葉　光行	
江戸川区土木部	部　長	倉嶋　明彦 髙橋　久志	会計（監事）（～7/14） 会計（監事）（7/15～）
(財)江戸川区環境促進事業団	局　長	髙城　徳幸	会計監査（監事）

幹事会メンバー

所　属　名	職　層	氏　　名	摘　要
江戸川工事事務所	副所長	佐藤　元樹	
東京都建設局河川部管理課	課　長	三浦　紀子	
(財)東京都公園協会総務部	部　長	柳川　修	
・飾区建設部	部　長	宮崎　一男	
松戸市建設担当部	部　長	及川　忠	
市川市水と緑の部	部　長	中山　千代和	
江戸川区土木部	部　長	倉嶋　明彦 髙橋　久志	実行委員会兼務（～7/14） 実行委員会兼務（7/15～）
(財)江戸川区環境促進事業団	局　長	髙城　徳幸	実行委員会兼務

検討会メンバー

所　属　名	職　層	氏　　名	摘　要
江戸川工事事務所調査課	専門職	井野　和彦	
江戸川工事事務所調査課	専門調査員	樋口　淳司	
経営企画部企画課	課　長	浅野　潤一	
経営企画部企画課企画係	係　長	植草　恒夫	
広報文化部広報課	課　長	野崎　勇三	
広報文化部文化課	課　長	小室　斉	
広報文化部文化課	係　長	飯山　誠治	
生活振興部	参　事	山内　健治	
生活振興部生活課コミュニティ係	係　長	高梨　圭一	
(財)江戸川区区民施設公社	次　長	原野　哲也	
(財)江戸川区区民施設公社庶務課	課　長	加藤　晃一	
土木部庶務課	課　長	谷口　政男	
土木部庶務課庶務係	係　長	千葉　次雄	
土木部計画課	課　長	髙井　聖	事務局
(財)江戸川区環境促進事業団	次　長	深野　将郎	事務局

☆　事務局

江戸川区土木部計画課　　　５６６２－８３９３

(財)江戸川区環境促進事業団　　　５６６２－５５４２

「全国川サミット in 江戸川」実行委員会規約

（名称）
第１条　この会は、全国川サミット in 江戸川実行委員会（以下「委員会」という。）と称する。

（目的）
第２条　委員会は、全国川サミット in 江戸川（以下「川サミット」という。）の実施に関し、必要な準備及び川サミットの企画・運営にあたることを目的とする。

（所掌事務）
第３条　委員会は、前条の目的を達成するために次の事項を所掌する。
(1)　川サミットの計画及び実施に関すること。
(2)　川サミットの開催に伴う関係機関との連絡調整に関すること。
(3)　川サミットの普及・啓発に関すること。
(4)　その他川サミットの開催に必要な事項に関すること。

（組織）
第４条　委員会は、別表に定める者（以下「委員」という。）をもって組織する。

（役員）
第５条　委員会に委員長１名、監事２名を置く。
２　委員長は、江戸川区長をもって充てることとする。

（役員の職務）
第６条　委員長は委員会を代表し、会務を総括する。
２　監事は、会計事務を監査する。

（会議）
第７条　委員会の会議は委員長が招集し、その議長となる。
２　委員会は、委員の過半数の出席で成立するものとする。
３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
４　委員長は、必要に応じ委員以外の者に会議への出席を求めることができる。

（幹事会）
第８条　委員会は、第２条に掲げる事業の目的を達成するために幹事会を置く。
２　幹事は、委員会において意見を述べることができる。

（任期）
第９条　役員、委員の任期は、委員会の目的が達成されるまでとする。但し、特別の理由があるときは、この限りではない。

（事務局）
第１０条　江戸川区土木部計画課内に事務局を置き、事務等を処理する。

（補足）
第１１条　この規約に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

（附則）
この規約は、平成１４年５月１７日から適用する。

7．関連事業

住民参加によるサミットとするため、開催当日まで以下に示すような区民の多様な活動を推進する。

①「江戸川で遊ぶ仲間づくり」の推進

自然観察や水辺利用など、各分野のリーダーを中心に一般参加者を募り、江戸川を中心とする活動グループとして育成する。

≪月１回程度の活動≫

○生き物グループ‥‥・・　水生生物、植物、昆虫、野鳥の観察　等
○遊びグループ　　‥‥・・ザリガニ釣り、ネイチャーゲーム　等
○カヌー･ボートグループ‥‥・・・初心者への指導、いかだ作り　等

②学校との連携

江戸川流域の小中学校および高校との連携のもと、地理、生物等の授業や、総合学習、グラブ活動など、学習活動の教材として河川敷の利用を促進する。

○「えどがわ生き物ガイド」の活用（環境促進事業団）
○環境リーダー等の派遣

③各種イベントの開催

⑴　夏休み親子江戸川探検

小学校高学年以上の親子を対象に、自然観察、川くだり等を楽しむ、１泊２日の江戸川探検を開催する。

⑵　視覚障害者による２人乗り自転車試乗会

河川敷での２人乗り自転車試乗による体験を通して、河川への親しみや川に触れ合う機会を提供する。

⑶　初心者のためのカヌー教室

16 歳以上を対象に、水上スポーツを通して河川利用の拡大を図る。

⑷　リハビリ自主グループによるバリアフリーＤＡＹキャンプ

障害者の方と河川敷でのバリアフリーを体験し、誰もが利用しやすい河川環境について探求する。

Ⅱ.「全国川サミット in 江戸川」に向けた活動実績

「第 11 回全国川サミットｉｎ江戸川」の開催を契機として、江戸川を見直し、その素晴らしさを感じながら多様な可能性を追求するため、住民による川を利用した各種事業を展開した。

また、それぞれの活動は、サミット当日にワークショップを行い、活動の成果、課題、意見を発表することとした。

1．江戸川で遊ぶ仲間づくり

江戸川を活動の場とする住民活動を推進するため、江戸川区民に広く呼び掛け活動グループを設立した。

活動グループの設立に際しては、「江戸川で遊ぶ仲間づくり」に関する説明会をワークショップ形式で行い、参加した住民が自主的にグループを立ち上げた。

以下に、説明会の概要を記す。

【「江戸川で遊ぶ仲間づくり」説明会】

●開 催 日：平成 14 年５月 19 日（日）

●会　　場：グリーンパレス

●開催状況：

説明会は、“川大好きな人、みんな集まれ！”を合言葉に、江戸川での活動を希望する区民を募り開催した。

当日は、各方面ですでに活動しているリーダーによる他の河川での活動状況等の説明後、参加者自身が江戸川で何をやってみたいか考え、それぞれのテーマについて全員で検討した結果、以下の３グループに編成された。

生きものグループ （江戸川の水生生物や、植物、昆虫などを観察調査する）

遊びグループ （草あそび、ゲーム大会、ザリガニつりなど広大な河川敷を利用し、自然にふれながら遊

カヌーボートグループ （カヌー、ドラゴンボート、E ボートなど、水面利用を行う）

各グループは、月１回程度、休日を中心に活動を行うことを目安とした。

また、この活動の成果をサミット当日に発表すること、また、各グループは区民が主体であり、いつでも、だれでも参加できることを確認した。

説明会会場のグリーンパレス

まずは受付

自分の家を地図にマークしよう！

はじめは挨拶から

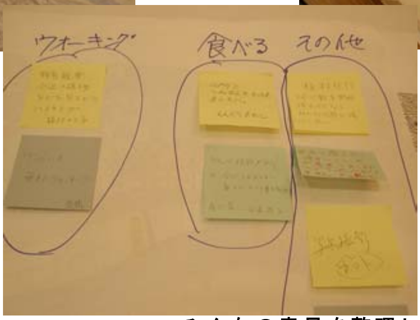
川でどんな活動があるのか説明を聞こう

ゲームで少しリラックス

「江戸川で遊ぶ仲間づくり」説明会の様子（1/2）

11 JAPAN RIVER SUMMIT in EDOGAWA

江戸川で何がしたいか書こう！



みんなの意見を整理してみました

みんなの意見からグループ分けをしました

生きものグループ・遊びグループ・カヌーボートグループの３つのグループができました

「江戸川で遊ぶ仲間づくり」説明会の様子（2/2）

① 生きものグループ

生きものグループは、江戸川河川敷の各地点を拠点として、江戸川に棲み生息している生きものについて調査、観察を行った。

サミット当日までの活動実績は、下表に示すように、計４回活動を行い、延べ 120 名の人が参加した。

生きものグループ活動実績

活　動　日	場　　所	参加人数
6 月 9 日 （日）	江戸川水門	20 名
6 月 30 日 （日）	小岩菖蒲園	35 名
7 月 28 日 （日）	南坂樋管	45 名
8 月 25 日 （日）	江戸川三角州	20 名

この活動の結果、以下の生きものを江戸川で見つけることができた。

江戸川で見つけた生きもの

分　　類	種　　　　名　　　　等
魚・水生生物	アキアカネ、アサリ、アシシロハゼ、アジャイトトンボ、アマガエル、マメボヤ、アメリカザリガニ、イソコツブムシ、ウシガエル、エビジャコ、オオタニシ、オキシジミ、オタマジャクシ、ガガンボ科（区内では珍しい）、クロベンケイガニ、ゴカイの仲間、コミズムシ、シオカラトンボ、テナガエビ、ドジョウ、トビハゼ、ニスリカ（アカムシ）、ハマトビムシの仲間、ヒメタニシ、ホトトギスガイ、マハゼ、ムラサキガイ、メダカ、モツゴ、ヤドカリ、ヤマトシジミ、ユビナガスジエビ、ヨコエビの仲間、
野　　鳥	アオサギ、カルガモ、カワウ、コチドリ、スズガモ、スズメ、ダイサギ、ツバメ、ハクセキレイ、ムクドリ、
昆　　虫	ゴミムシ類、カメムシ類、ショウリョウバッタ、ハムシ類、モンキチョウ、
植　　物	アカザ、アジサイ、アメリカセンダングサ、アレチギシギシ、イグサ、ウラジロチチコグサ、エノキ、オオバコ、オオブタクサ、オオマツヨイグサ、オナモミ、カヤツリグサ、ギシギシ、クワモドキ、ゲンノショウコ、コヒルガオ、サンゴジュ、シロツメグサ、シロバナサクラダテ、シロザ、ススキ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、タカサブロウ、タガラシ、タマスダレ、チドメグサ、ツメクサ、ツユクサ、ツルマメ、ニワゼキショウ、ネジバナ（もじずり）、ネズミモチ、ノイバラ、ハキダメグサ、ハルジョオン、ヒメジョオン、ヒメムカシヨモギ、ヒルガオ、フサモ、ブタクサ、ブタナ、ヘクソカズラ、ヘビイチゴ、ヘラ、マメグンバイナズナ、ムラサキサキゴケ、メドハギ、ヤナギ、ヤナギタデ、ヤブガラシ、ヨシ、ヨモギ、など 国土交通省「ビオトープ」にて幻の生物「ホウネンエビ」発見

また、“江戸川を食べよう”をテーマに、江戸川で見つけた生きものをその場で食した。食べたもの、食べなかったものは、以下のとおりである。

天ぷらにして食べたもの

・野草：ヤブガラシ、ギシギシ、シロツメグサ、ヨモギ、セイヨウタンポポ、セリ、エノコログサ（ネコジャラシ）⇒軽くあぶって
・水生生物：テナガエビ、フッコ、マハゼ、ヌマエビ、ギンブナ、モツゴ、アメリカザリガニ、ブルーギル

見つけたが食べなかったもの

ヘクソカズラ、イヌビユ、マコモ、ミゾコウジュ、オタマジャクシ、ヒメタニシ、ドブネズミ、アオダイショウ、他

生きものグループの活動の様子（1/2）

生きものグループの活動の様子（2/2）

② 遊びグループ

遊びグループは、“とにかく江戸川で楽しく遊ぼう”をコンセプトに、多様な活動を展開した。

サミット当日までの活動実績は、下表に示すように、計５回活動を行い、延べ234名の人が参加した。

遊びグループ活動実績

活　動　日	場　　所	参加人数	活動内容
6月30日（日）	篠崎コミュニティ会館	45名	雨天のため、室内で「はじめまして、よろしくの会」として、アイスブレーキングゲーム、ネイチャーゲーム、絵本の読み語り　等を実施。
7月14日（日）	南坂樋管	55名	葦を使った釣竿にたこ糸を結びつけたスルメをえさにザリガニ釣りを実施。また、樋管のまわりに生えている草花を使って「草笛・草鉄砲」を作り遊んだ。昼食後、ネイチャーゲーム。
8月18日（日）	北篠崎町会会館	39名	雨天のため、室内で活動。竹や木の棒を使って、自分達の手で水鉄砲をつくり、近隣の都立篠崎公園で試し打ち。次回、河川敷で「水鉄砲大会」を計画。
8月31日（土）	南坂樋管	55名	「全国川サミット in 江戸川実行委員長杯水鉄砲大会」を実施。午後、樋管を中心に、四つ手網、投網等により「生き物探検」を実施。
9月16日（祝）	南坂樋管	30名	南坂樋管を中心に生き物探検を実施。午後、ネイチャーゲーム等で遊ぶ。

遊びグループの活動の様子（１/2）

遊びグループの活動の様子（2/2）

③ カヌーボートグループ

カヌーボートグループは、江戸川カヌークラブと東京龍舟（ドラゴンボートクラブ）が中心となったグループで、これまでそれぞれの活動を行ってきたが、川サミットを機会にともに協力しながら活動し、利用愛好者の増大を図ることを目指した。

サミット当日までの活動実績は、カヌーボートグループとしては下表に示すように1 回のみであるが、このグループは、後述する「夏休み親子江戸川探検」や「初心者カヌー教室」等の活動のサポートも行った。

カヌーボートグループ活動実績

活 動 日	場 所	参加人数
6 月 9 日（日）	旧中川	41 名

カヌーボートグループの活動の様子

２．江戸川を利用した小学校の環境学習

江戸川を利用した小学校の環境学習は、江戸川流域の小学校に呼び掛け、総合的な学習活動の一環として環境学習の絶好のフィールドである江戸川河川敷の利用を推進した。

学習内容は、「水生生物」、「植物」、「水質」の３つの調査を全員が体験できるよう、グループに分かれ、時間内にローテーションで行った。また、指導員については、（財）江戸川区環境促進事業団職員、江戸川区環境部環境推進課環境調査係職員、および環境リーダー（一般）の３者から人材を派遣した。

なお、江戸川区の内河川については、親水化計画により５つの親水公園と 18 の親水緑道が整備されている。これらを利用した環境学習は、年約 30 校が取り組んでいるが、江戸川を学習活動の場として利用するのは初めてである。

これらの小学校については、今後、江戸川での学習活動を続けていくこととなった。

活動実績

活　動　日	学　校　名	場　所	参加人数
7 月 8 日（月）	上小岩第二小学校 4 年	善兵衛樋管	55 名
7 月 17 日（水）	中小岩小学校	小岩菖蒲園	60 名
9 月 13 日（金）	南小岩第二小学校	南坂樋管	80 名

環境学習の様子

３. 夏休み親子江戸川探検

夏休み親子江戸川探検は、カヌー、ボートによる川下りや河川敷での体験キャンプを通じ、江戸川の河川環境の素晴らしさを再認識するとともに、河川の多様な可能性を探求することを目的に実施した。

実施概要は以下のとおりである。

◆日　　時：８月 24 日（土）～25 日（日）一泊二日
◆場　　所：・飾区柴又公園～篠崎水上バスステーション（キャンプ）
　　　　　～篠崎ポニーランド
◆参 加 者：一般参加者 16 組 31 名、江戸川カヌークラブ、東京龍舟、青年リーダー、
　　　　　ボーイスカウト　　計 120 名
◆内　　容：江戸川川下り、河川敷での体験キャンプ

夏休み親子江戸川探検の実施状況（1/2）

夏休み親子江戸川探検の実施状況（2/2）

４．視覚障害者による２人乗り自転車試乗会

２人乗り自転車試乗会は、視覚障害者が江戸川河川敷（江戸川サイクリングロード）で２人乗り自転車を体験することにより、川の風を感じ川にふれあう機会を多くすることを目的に実施した。

実施概要は、以下のとおりである。

◆日　　時：９月５日（木）
◆場　　所：江戸川河川敷サイクリングロード（小岩菖蒲園～江戸川区北小岩四の区間）
◆参 加 者：江戸川区盲人福祉協会 15 名　ヘルパー15 名　計 30 名

視覚障害者による２人乗り自転車試乗会の実施状況

５．初心者カヌー教室

水面を利用した身近なレクリエーションであるカヌーを江戸川で普及するため、初心者教室を実施した。

実施概要は、以下のとおりである。

◆日　　時：９月７日（土）
◆場　　所：江戸川区スポーツランド
◆参 加 者：一般参加者 30 名　協力：江戸川カヌークラブ 30 名　計 60 名

なお、初心者教室の会場となった「江戸川区スポーツランド」は、夏は大プール（30m×60m）、冬はアイススケートリンクとなる施設である。今回のカヌー教室は、夏のプール営業が終了し水を抜く前に実施したもので、このプールをカヌー教室として利用したのは初めてのことである。

初心者カヌー教室の実施状況（1/2）

初心者カヌー教室の実施状況（2/2）

６．バリアフリーＤＡＹキャンプ

バリアフリーＤＡＹキャンプは、江戸川河川敷でのＤＡＹキャンプなどを通じて、障害を持つ方々と一緒にバリアフリーについて考えて、河川環境の改善と障害者とのふれあいを目的に実施した。

実施概要は、以下のとおりである。

◆日　　時：９月 18 日（水）
◆場　　所：篠崎ポニーランド河川敷馬場およびその周辺
◆参 加 者：リハビリ自主グループ 35 名、
　　　　　　一般ボランティア４名、
　　　　　　福祉専門学校 10 名　　　　計 60 名

バリアフリーＤＡＹキャンプ実施状況（1/2）

バリアフリーＤＡＹキャンプ実施状況（2/2）

Ⅲ.「全国川サミット in 江戸川」実施状況

「全国川サミットｉｎ江戸川」は、前述のように、１級河川名を自治体名とする全国の市町村の参加を得て３日間開催された。今回の川サミット参加自治体は以下の 14 自治体で、参加者数は、首長・職員・議員など 54 名が出席された。

なお、愛知県豊川市は、今回オープン参加となっている。

「全国川サミットｉｎ江戸川」参加自治体一覧

No.	都道府県	市　町　村	
1	北海道	鵡川町	むかわちょう
2	秋田県	雄物川町	おものがわまち
3	新潟県	荒川町	あらかわまち
4	富山県	庄川町	しょうがわまち
5	岐阜県	揖斐川町	いびがわちょう
6	静岡県	富士川町	ふじがわちょう
7	静岡県	大井川町	おおいがわちょう
8	三重県	宮川村	みやがわむら
9	奈良県	十津川村	とつかわむら
10	兵庫県	加古川市	かこがわし
11	兵庫県	揖保川町	いぼがわちょう
12	岡山県	加茂川町	かもがわちょう
13	宮崎県	北川町	きたがわちょう
	愛知県	豊川市	とよかわし

＊愛知県豊川市は、オープン参加

また、実施にあたっては、計画段階より江戸川下流地域ネットワークを形成する以下の３自治体の協力をいただいた。

江戸川下流地域ネットワーク自治体

No.	都道府県	市　町　村	
1	東京都	・飾区	かつしかく
2	千葉県	松戸市	まつどし
3	千葉県	市川市	いちかわし

以下、第一日目より日を追って、「全国川サミットｉｎ江戸川」の実施状況を報告する。

1．第一日目〔平成 14 年 10 月 11 日（金）〕

1) 江戸川流域視察

江戸川区は、・西地区等における埋立事業や都営新宿線の開通に伴う駅周辺整備を、積極的な土地区画整理事業の導入により都市基盤の整備を行ってきた。特に、公園、緑地等の整備は生活環境の主要な柱として取り組み、今日では良好な居住環境が形成されている。

一方本区は、荒川、江戸川、新中川、旧中川等の大河川と東京湾に囲まれ、下流部の低地に位置する地理的な特徴を有することから、度重なる水害に見舞われてきた。このため、その対策として放水路の開削、堤防の強化、下水道の整備を積極的に行ってきた。その結果、水に対する安全性は格段に向上した。さらに、下水道の整備により不要になった河川を全国で初めて親水公園としてよみがえらせるなど、豊かな水と自然を活かした街づくりを進めている。現在、親水公園 5 路線、親水緑道 18 路線が整備され、都市の中の潤いのある環境として区民に広く親しまれている。

このような江戸川区を参加自治体の方（参加者数：67 名）を対象に視察を行った。

視察ルート図と主な視察地およびその概要を次ページ以降に示す。

JR 武蔵野線
小岩菖蒲園
京成本線
京成小岩駅
えどがわ駅
JR 総武線
小岩駅
総合文化センター
江戸川水閘門
新小岩駅
視察コース
小松川千本桜
都営新宿線
一之江境川親水公園
東大島駅
船堀駅
新川地下駐車場
西・西駅
・西駅
地下鉄東西線
JR 京葉線
・西臨海公園駅
ホテルシーサイド江戸川
・西臨海公園
旧江戸川緩傾斜堤防

視察ルート図

主な視察地とその概要（1/4）

	概　　要	写　　真
ホテルシーサイド江戸川	・西臨海公園内に江戸川区直営ホテルとして、平成元年 12 月オープンした。一流ホテル並みの豪華さと低料金で人気が高い。年間利用人数約 30,000 人。江戸川区民以外の方でもだれでも利用できる。 今回は、参加自治体の方の宿泊先として利用した。	
新左近川親水公園（新左近川マリーナ）	区内 5 路線の親水公園の中の 1 つで平成 6 年 3 月に全面完成した。 延長 750m、総面積 109,840 ㎡ 施設：ボート乗り場 2 箇所、バーベキュー広場、芝生広場、マリーナ、地下駐車場 管理：(財)江戸川区環境促進事業団	
新川地下駐車場	1 級河川の地下に駐車場をつくった初めての事例で平成 11 年 5 月に完成した。 延長：484m、幅員 17m、高さ 3.4m 収容台数：200 台 総事業費：87 億円 ＜新川＞ 延長 3 km。旧江戸川と中川を結び、古くは塩を運ぶ運河として利用されていた。現在は両端を水門で閉められ、親水河川として東京都による整備が進んでいる。	

主な視察地とその概要（2/4）

	概　　　要	写　　　真
小松川千本桜	区内を流れる大河川の１つである“荒川”の緩傾斜護岸に平成４年度から 1,000 本の桜の植栽を実施。総延長約２km で今年度事業完成見込み。 ＜荒川＞ 江東地域の水害の軽減を図るため、明治 44 年北区岩渕～江戸川区臨海町までの 22km を開削。平成９年より水上バスの運行が開始され、右岸ではスーパー堤防事業が進んでいる。	
総合文化センター	江戸川区民の文化の殿堂として、昭和 58 年３月オープン。管理主体を(財)江戸川区区民施設公社におき、年間を通じてコンサート等の自主事業を開催している。 施設：大ホール・小ホール・展示室・会議室・研修室・和室	
小松川境川親水公園	区内で２番目の親水公園として、昭和 57 年より順次完成し、平成６年３月に全面完成した。 総延長：3,930m　面積：34,815 ㎡	

主な視察地とその概要（3/4）

	概　　　要	写　　　真
江戸川水上視察	区の伝統産業である屋形船を利用し、小岩菖蒲園から・西臨海公園までを水上より視察。江戸川区内には現在 18 軒の船宿があり、屋形船や東京湾での釣り舟を営んでいる。 ＜細川流投網＞ 江戸川の下流域に江戸時代から伝わるもので、投げた網が広がると直径が 10m から 20m の大きさになる。舟の大型化に伴い自然と消えてしまった投網であるが、伝統的な漁法を残そうと、2 代目船宿経営者が集まり「江戸投網保存会」を発足した。	
小岩菖蒲園	江戸川河川敷内の回遊式の庭園として昭和 57 年 6 月に開園。約 5,000 ㎡の菖蒲田に 100 種 9,000 株 5 万本の花菖蒲が咲く。また、菖蒲田の周辺は、菜の花、ポピー、コスモスなど、四季を通して楽しめる花畑がある。毎年 6 月には「菖蒲園まつり」が行われる。	
江戸川河川敷の利用	昭和 42 年に共用開始され、野球場 36 面、サッカー場 9 面、ラグビー場 2 面を有する。この広大な空間を利用し、7 月に「江戸川区総合防災訓練」、また、8 月に開催される打ち上げ総数 14,000 発の「江戸川区民納涼花火」には約 140 万人が訪れる。	

主な視察地とその概要（4/4）

	概　　　要	写　　　真
江戸川水閘門	塩分遡上防止、流水貯留、用水適正供給、舟運確保を目的に、昭和 18 年に完成。 閘門沿いの桜並木とともに、情緒ある名所ともなっている。	
篠崎ポニーランド	「区内で馬に乗りたい」という子供達の希望をかなえるため、昭和 50 年に開園。 ポニー乗馬（小学生以下）・馬車の乗車など無料で体験できる。また、小中学生を対象に馬の手入れ、餌づくり、乗馬、小屋清掃などが体験できる「ふれあい体験」も実施している。	
都立・西臨海公園・ ・西臨海水族園	昭和 60 年から・西沖開発土地区画整理事業の一環として着手し、平成元年 6 月に一部オープン。その後、園内に、鳥類園、展望ハウス、水族園、ホテルシーサイド江戸川など次々にオープン。総面積約 80ha	

2) 全国川サミット連絡協議会総会

◆会場：ホテルシーサイド江戸川（まつかぜ）
◆司会：渡辺真紀（江戸川区土木部区画整理第二課）

① 会長あいさつ

◆全国川サミット連絡協議会会長　江戸川区長多田正見
（あいさつ要旨）

『ようこそ江戸川区へお越しくださいました。視察を終えて、江戸川区の印象はいかがでしたでしょうか。本日より３日間川サミットを行ってまいります。明日が江戸川区総合区民ホールで「第 11 回全国川サミットｉｎ江戸川」を開催し、明後日が 25 回目の江戸川区民まつりをご覧頂く予定です。３日間、職員をはじめ区民をあげて歓迎しますので、宜しくお願いします。』

② 参加自治体

総会には、全国川サミット連絡協議会参加自治体として、下表の 14 自治体の首長および助役が出席した。

全国川サミット連絡協議会総会出席者名簿

No.	自 治 体 名	役 職	氏 名
1	北海道　鵡 川 町	町 長	山 口 憲 造
2	秋田県　雄物川町	町 長	佐 々 木 孝 志
3	東京都　江戸川区	区 長	多 田 正 見
4	新潟県　荒 川 町	町 長	金 子 好
5	富山県　庄 川 町	町 長	藤 森 栄 次
6	岐阜県　揖斐川町	助 役	堀 敏 広
7	静岡県　富士川町	町 長	坪 内 伸 浩
8	静岡県　大井川町	助 役	池 田 鐸 朗
9	三重県　宮 川 村	村 長	尾 上 武 義
10	兵庫県　加古川市	市 町	樽 本 庄 一
11	兵庫県　揖保川町	助 役	岸 野 茂 樹
12	奈良県　十津川村	助 役	竹 内 輝 明
13	岡山県　加茂川町	町 長	片 山 舜 平
14	宮崎県　北 川 町	町 長	盛 武 義 美

③　「第 10 回全国川サミットｉｎ揖保川」の事業報告および決算報告

昨年開催された、「第 10 回全国川サミットｉｎ揖保川」の事業報告および決算報告が、兵庫県揖保川町　山村茂人企画財政課長より以下のとおり報告され、満場一致で承認された。

報告第１号

第 10 回全国川サミット in 揖保川　事業報告書

平成 **13** 年 **10** 月 **19** 日（金）

時　　間	内　　　　容	会　　場
15 時 00 分～	受付	JR 姫路駅
16 時 00 分～17 時 15 分	全国川サミット連絡協議会総会	重要文化財「永富家住宅」
18 時 00 分～20 時 00 分	参加自治体歓迎会	国民宿舎「赤とんぼ荘」

平成 **13** 年 **10** 月 **20** 日（土）

時　　間	内　　　　容	会　　場
8 時 45 分～11 時 30 分	揖保川中上流域視察	SPring-8・北村頭首工
12 時 00 分～12 時 45 分	昼食	国民宿舎「志んぐ荘」
13 時 00 分～13 時 10 分	全国川サミット開催記念碑除幕	揖保川正條桜づつみ堤防
13 時 30 分～14 時 30 分	全国川サミット in 揖保川開会式 ・開会宣言 ・会長挨拶 ・来賓挨拶、来賓紹介 ・参加自治体紹介	アクアホール
14 時 30 分～17 時 00 分	シンポジウム ・基調講演 休憩（絵画・写真・パネル展） ・パネルディスカション	アクアホール ｱｸｱﾎｰﾙｷﾞｬﾗﾘｰ
17 時 30 分～19 時 30 分	川ライブ薪狂言（揖保川町制 50 周年記念）	揖保川せせらぎ公園
20 時 00 分～21 時 30 分	参加自治体交流会	国民宿舎「新舞子荘」

平成 **13** 年 **10** 月 **21** 日（日）

時　　間	内　　　　容	会　　場
8 時 00 分～ 8 時 45 分	揖保川下流域視察	多自然型河川
9 時 00 分～10 時 30 分	子ども川サミット ・子どもミュージカル ・揖保川探険隊調査発表 ・揖保川流域子ども川サミット	アクアホール
10 時 45 分～11 時 15 分	全国川サミット in 揖保川閉会式 ・川サミット宣言 ・旗受渡式 ・閉会宣言	アクアホール
11 時 15 分～12 時 00 分	揖保川フェスティバル参画	揖保川せせらぎ公園
	解散（ｵﾌﾟｼｮﾝ視察）	世界文化遺産「姫路城」

報告第2号

第10回全国川サミットin揖保川　決算報告書

【収　入】

（単位：円）

項　目	予 算 額	補 正 額	決 算 額	摘　要
参加負担金	2,150,000	0	2,150,000	10万×17自治体＋5万×9流域
国土交通省	13,000,000	−700,000	12,300,000	国土交通省負担金
兵庫県	3,000,000	0	3,000,000	兵庫県分担金
河川環境管理財団	2,000,000	0	2,000,000	河川整備基金助成金
近畿建設協会	1,000,000	0	1,000,000	公益事業支援助成金
揖保川町	12,100,000	605,083	12,705,083	揖保川町委託料、物産展収益等
合　計	33,250,000	−94,917	33,155,083	

【支　出】

項　目	予 算 額	補 正 額	決 算 額	摘　要	
会議費	500,000	−33,356	466,644	総会・実行委員会・幹事会費	
調査研修費	800,000	−25,130	774,870	流域視察バス代 流域視察昼食代 子ども川サミット事前研修	446,250 167,070 161,550
交流会費	2,500,000	−508,144	1,991,856	歓迎会費 交流会費 郷土芸能謝金	839,444 932,412 220,000
広告宣伝費	5,150,000	−267,825	4,882,175	ポスター等広告物作成費 揖保川風土記印刷製本費 新聞広告掲載料	3,035,225 447,300 1,399,650
事業費	13,250,000	963,308	14,213,308	シンポジウム出演関係費 会場設営装飾、運営進行関係費 出版物、ビデオ制作等	1,248,643 5,614,665 7,350,000
関連事業費	9,550,000	684,937	10,234,937	絵画写真展、物産展等 開催記念碑建立等 町制50周年記念事業費（薪狂言）	1,367,687 630,000 8,237,250
事務費	500,000	91,293	591,293	通信運搬費、消耗品費、写真代等	
予備費	1,000,000	−1,000,000	0	事業費、関連事業費に流用	
合　計	33,250,000	−94,917	33,155,083		

④　「第 11 回全国川サミットｉｎ江戸川」の事業計画および予算案

「第 11 回全国川サミットｉｎ江戸川」の事業計画および予算案が、実行委員会事務局　江戸川区土木部高井聖計画課長より以下のとおり報告され、満場一致で承認された。

議案第１号

第１１回全国川サミット in 江戸川　事業計画（案）

平成 14 年 10 月 11 日（金）

時　　間	内　　　　容	会　　場
12：00～	受　付	ホテルシーサイド江戸川
13：00～17：30	江戸川下流地域視察	小岩菖蒲園・・西臨海公園等
17：40～18：00	全国川サミット連絡協議会総会	ホテルシーサイド江戸川
18：30～20：00	参加自治体歓迎会	〃

平成 14 年 10 月 12 日（土）

時　　間	内　　　　容	会　　場
9：30	ワークショップ開会式	江戸川区総合区民ホール
10：00～12：00	・ワークショップ分科会	同時開催：江戸川体験ｺｰﾅｰ
10：00～12：00	・演劇上演（カッパの恩返し）	
10：00～12：00	・親水まちづくりシンポジューム	
12：00～13：00	昼　食	
13：00～13：37	全国川サミット in 江戸川 開会式 ・オープニングビデオ ・参加自治体紹介 ・会長挨拶 ・来賓挨拶（国土交通省、東京都）	江戸川区総合区民ホール
13：37～14：30	基調講演 （第 3 回世界水ﾌｫｰﾗﾑ事務局長 尾田栄章）	
	休　憩	
14：30～16：10	意見発表 ・夏休み親子江戸川探検ツアー報告 ・江戸川を考えるワークショップ発表	
16：10～17：15	「江戸川未来図」創作	
17：15～17：30	全国川サミット in 江戸川 閉会式 ・流域代表講評 ・サミット宣言 ・川サミット旗受渡式 ・閉会	
18：00～19：30	参加自治体交流会	江戸川区総合区民ホール

平成 14 年 10 月 13 日（日）

時　　間	内　　　　容	会　　場
9：00～10：30	江戸川下流地域視察	柴又スーパー堤防等
11：00～14：00	第 25 回江戸川区民まつり視察	篠崎公園
14：00	解　散	

議案第2号

第11回全国川サミットin江戸川　収支予算（案）

【収　入】　　（単位：千円）

項　目	予算額	補正額	決算額	摘　要
参加自治体負担金	2,150			10万×20自治体＋5万×3流域
国土交通省	7,100			国土交通省負担金
(社)関東建設弘済会	1,000			協賛金
(財)東京都公園協会	1,000			協賛金
(財)河川環境管理財団	2,000			助成金
江戸川区	7,100			
雑収入	400			物産展売上等
合　計	20,750	0	0	

【支　出】

項　目	予算額	補正額	決算額	摘　要
会場関係費	1,707			連絡協議会総会 実行委員会 流域視察バス・船代等
交流会費	2,934			歓迎会費 交流会費 昼食代等
記念品謝礼費	2,010			講師・司会者等謝礼 記念品等
広告宣伝費	2,809			チラシ・ポスター・プログラム 懸垂幕等
通信運搬費	40			郵券代等
委託費	5,500			企画委託 会場設営委託 音響委託等
イベント費	3,250			ワークショップ関連費用等
事務費	1,500			現像代・消耗品代等
予備費	1,000			
合　計	20,750	0	0	

3) 参加自治体歓迎会

◆会　場：ホテルシーサイド江戸川（レストラン）
◆参加者：参加自治体 45 名、実行委員会 11 名、江戸川工事事務所３名、
　　　　　江戸川区幹部職員 16 名、江戸川区議会議長他４名、計 79 名
◆司　会：田中孝則、向原はる美（江戸川区土木部計画課）

① 歓迎あいさつ　江戸川区長　多田正見

（要旨）

参加自治体、流域自治体、国土交通省、東京都、公園協会、他多数ご列席頂き、ありがとうございます。

ささやかではありますが、心をこめて歓迎致します。

ここ､ホテルシーサイド江戸川は、・西臨海公園という、都内最大の庭を備えたホテルです。どうぞ、おくつろぎ頂き、明日に備えて頂ければ幸いです。

② あいさつ

国土交通省関東地方整備局
江戸川工事事務所所長　加納敏行
（代理　副所長　佐藤元樹）

③ 乾杯　東京都建設局河川部長　鈴木進

④　流域自治体紹介
・飾区建設部計画調整課長　石田秀紀
松戸市都市整備本部清流ルネッサンス担当室長　島田旭三
市川市建設局水と緑の部水と緑の計画課　田口修

⑤　歓迎アトラクション
軽音楽「エドリバーズ」（江戸川区職員クラブ）

⑥　中締め　江戸川区区議会議長　花島貞行

2．第二日目〔平成 14 年 10 月 12 日（土)〕

３日間開催された今回のサミットで、この第二日目がメインとなっている。この日は、都営新宿線船堀駅前にある「江戸川区総合区民ホール」を会場として、延べ 1,000 人もの参加者を集め盛大に会合が開催された。

二日目のプログラムは以下のとおりである。

プ ロ グ ラ ム

◆午前の部　「江戸川を考えるワークショップ」

●09:30～　**ワークショップ開会あいさつ**　**太陽の間**（2F）
金沢大学教授・東京大学名誉教授　**玉井信行**

●10:00～　**ワークショップ分科会**
★ビオトープをつくろう　401 会議室（4F）
★流域の連携を考える　402 会議室（4F）
★江戸川生きもの考察　406 会議室（4F）
★水上レクリエーションのすすめ　407 会議室（4F）
★環境学習における河川敷の利用　303 会議室（3F）
★だれもが利用できる川づくり　バンケットルーム・蓬莱（3F）

●10:20～　**演劇上演**（同時開催）　**小ホール（5F）**
「カッパの恩返し」（劇団彩）

●10:00～　**親水まちづくりシンポジウム**（同時開催）　**研修室（4F）**
（社）日本建築学会
講演内容：親水施設と人間、海浜利用と親水、
まちづくりと親水、これからの親水施設の展望

◆午後の部　「第 11 回全国川サミット in 江戸川」
総合司会：須磨佳津江

●13:00～　**開会式**　**太陽の間**（2F）
★オープニングビデオ「都市と川と人と･･･～遊水都市江戸川区～」
★参加自治体紹介
★会長あいさつ　江戸川区長**多田正見**
★来賓あいさつ　国土交通省関東地方整備局長**渡辺和足**
東京都建設局長**小峰良介**

●13:40～　**基調講演**
「世界の川では今･･･」　第 3 回世界水フォーラム事務局長**尾田栄章**

●14:30～　**意見発表**
★夏休み親子江戸川探検報告
★江戸川を考えるワークショップ発表

●16:10～　**「江戸川未来図」創作**
コーディネータ：ECOM 代表**森　良**
コメンテーター：金沢大学教授・東京大学名誉教授**玉井信行**

●17:15～　**閉会式**
★サミット講評　流域自治体　他

1） 展示等

「第 11 回全国川サミットｉｎ江戸川」の二日目が開催中の９時～18 時まで、江戸川区総合区民ホールの展示ホールやメイン会場である“太陽の間”前のロビー等を利用し、各種展示や物産品の販売を行った。

展示等の概要は、以下のとおりである。

展示等の概要

展 示 等 の 内 容	場　　所	写　　　　真
■　参加自治体の紹介パネルの展示	“太陽の間”前ロビー	
■　河川活動グループ（他河川含む）によるポスターセッション	“太陽の間”前通路	
■　参加自治体特産品の販売	“太陽の間”前ロビー	
■　江戸川体験コーナー 『われら江戸川に集う仲間』 ・生きものｺｰﾅｰ ・遊びグループｺｰﾅｰ ・ボートカヌーｺｰﾅｰ ・環境学習ｺｰﾅｰ ・江戸川工事事務所ｺｰﾅｰ ・第３回世界水フォーラムｺｰﾅｰ	１Ｆ展示コーナー	

2)　江戸川を考えるワークショップ開会

江戸川を考えるワークショップは、川サミットを契機として設立された江戸川で活躍する各グループが、この日まで行ってきた活動を通して、都市の中における川について６つのテーマごとにワークショップ形式で話し合った。

なお、各グループの活動やワークショップおよびサミットの実施に際し、各々の場面で適切な助言、指導をいただくコメンテーターおよびコーディネーターとして次の２名の方に協力を願った。

◆玉井信行（金沢大学教授・東京大学名誉教授）

1941 年愛知県生まれ。専門分野：河川工学、河川生態環境学。

河川環境管理財団理事、河川技術検討委員会委員（国土交通省)、「川の自然再生」国際シンポジウム実行委員会委員長、第 5 回河川環境展実行委員会委員長、水門管理施設基本計画委員会委員長（東京都）など歴任。

著書：河川生態環境評価法(東京大学出版会)、河川工学(オーム社)など。

◆森　良（NPO 法人エコ・コミュニケーションセンター代表）

江戸川区に生まれ育つ。江戸川や荒川、新中川でよく遊んだ。30 歳を過ぎてから子どもの自然教室のボランティアを 10 年、環境教育の NPO を運営して 10 年、今後は持続可能なアジアと地域を担う人作りに振り向ける予定。現在、ECOM 代表、学習院大学非常勤講師。

著書:「地球となかよしはじめの一歩(フレーベル館)、「コミュニティ・エンパワーメント」(ECOM) など。

玉井先生と森氏によるワークショップ開会のあいさつ

3)　江戸川を考えるワークショップ分科会

分科会は、以下の６つのグループに分かれて行われた。
その概要は、次のとおりである。

ビオトープをつくろう　　参加者 50 名

子供から大人まで、安全に自然に親しめる環境作りの一つの指標となる、具体的なビオトープを考えた。

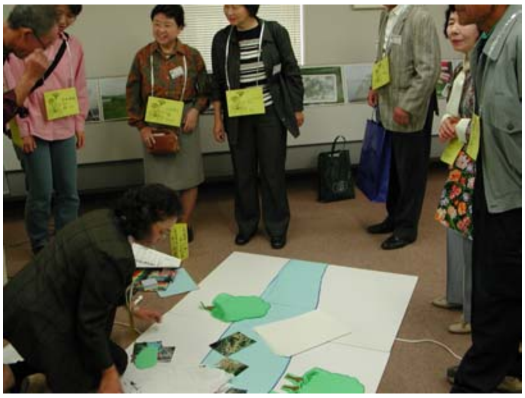
流域の連携を考える　　参加者 20 名

川は一つで上流から河口まであるべき姿があり、その理想をつくるためには「川」を通じて交流を広めていく事が大切である。川に対する流域住民の関わりや、連携の進め方について考えた。

江戸川生きもの考察

参加者 40 名

これまでの生物観察を通じて、現在の生態系の状況を把握し、これからの川の生態系のあるべき方向性を考えた。



水上レクリエーションのすすめ

参加者 30 名

水上スポーツの楽しさを通して、様々なイベントの提案や、川から見た風景の素晴らしさ、人とのつながりが広がっていく可能性を考えた。さらに、だれもが安全に安心して、そして楽しく水上レクリエーションを進めていくためのルールづくりや環境整備を考えた。

環境学習における河川敷の利用 参加者 120 名

河川における総合的な学習の活性化に向けて、様々な協力の方法について考えた。さらに、様々なジャンル（環境、スポーツ、文化活動 etc）での活動を示しながら、学校が郷土研究の拠点となりうる可能性を考えた。

だれもが利用できる川づくり 参加者 80 名

河川施設のバリアフリーを考えながら、あらゆる人々が気軽に利用できる川であることが、地域コミュニティを広げ、良い社会づくりの拠点となりうることを提案した。

4)　演劇上演（同時開催）

演劇は、江戸川を考えるワークショップと同時開催された。

河川の大切さや役割を子供たちに認識してもらうため、新たに脚本を作成し、劇団彩により江戸川の歴史や名所をわかりやすく上演された。また、会場となった小ホールは、およそ300名の参加者で満席であった。

【あらすじ】

江戸川開削の時、それを応援したカッパ一族とそれを妨害しようとした「ガマテロリスト」との闘いがあり、カッパのおじさんは危ないところを３人の人間に助けられた。その恩返しを３匹のカッパの兄弟に頼み、３匹の兄弟は、おじさんを救った人間の子孫探しの旅に出た。

恩返しはカッパの３つの「お宝」を渡すことだ。ところが、その「お宝」を狙って、ガマ仙人や歌人カワウソ男、毒エビガニ娘たちが３匹の兄弟の前に立ちふさがる。そこへ現れた海女のおばさんと釣り好きな男の子にカワウソ男とエビガニ娘もやられてしまう。実はその２人は、カッパのおじさんを救った大恩人の子孫だったのだ。

無事恩返しに「お宝」を渡すことができたカッパの３兄弟の前にあのガマ仙人が出現、江戸川のクイズには勝ったが、ずるいガマ仙人にいまにもやられそうになったとき、カッパのおじさんが現れ、川の大切さを訴え、ガマ仙人と仲直りする。そしてみんなで大切な川を汚さないようにしようと約束をする。

5) 親水まちづくりシンポジウム（同時開催）

親水まちづくりシンポジウムは、（社）日本建築学会の主催により開催され、50 名の参加者があった。

冒頭、主催者として畔柳昭雄（日本大学、建築学会環境工学委員会）氏より、当シンポジウムの趣旨説明が以下のように行われた。

【趣旨説明】

親水という概念が 1970 年代初めに提起され、30 年以上経過した今日、親水という言葉がかつての行政用語から市民用語として定着してきた。この間に、親水施設もアメニティの象徴として多くの区市町村でつくられてきたが、この親水公園、親水河川が果たしてどのような意味をもってきたのだろうか。これらの点を踏まえ、親水ワーキングで議論してきた結果を「親水工学試論」としてまとめた。今回はこの内容の中から 4 つのテーマを取り上げシンポジウムという形で開催することになった。

講演は、次の 4 つのテーマで行われた。

【講演】

ｱ)「親水施設と人間」・・・村川三郎（広島大学）

水際建築物が居住者に及ぼす心理的・生理的効果、河川景観に対する被験者の注視特性、河川空間における快適感の評価、から親水施設と人間との関係について述べた。

ｲ)「まちづくりと親水」・・・上山　肇（江戸川区）

大きく次の三点について触れた。①土地利用と建物計画に及ぼした影響：小松川境川親水公園や古川親水公園沿線での土地利用変化・建物計画の事例から周辺都市環境に及ぼしてきた影響について説明した。②コミュニティ形成に及ぼした影響：各親水公園に組織されている「親水公園を愛する会」の活動等から、親水公園を中心とするコミュニティ形成の可能性について説明した。③計画への反映：「街づくり基本プラン（都市マスタープラン）」や「水と緑の行動指針」、さらには地区計画等への反映といった、諸計画への展開の可能性について述べた。

ｳ)「海浜利用と親水」・・・久　隆浩（近畿大学）

「海浜利用と親水」について、海浜利用の歴史、都市や地域における海浜公園の位置付け、公園施設の種類、水辺景観の配慮、生態系への配慮、水辺の特性に配慮した施設配置、多様性・複雑性の確保、の観点から海浜公園の具体的事例を示しながら述べた。

ｴ)「これからの親水施設の展望」・・・土屋十圀（前橋工科大学）

この研究グループでは、親水の対象が、河川、池・湖沼、海浜にまで広がった親水事業、親水施設をもう一度振り返ってみることから始め、次の世代に引き継ぐべき新しい親水とまちづくりの関係を、人間と生き物等との視点からも考察し、住民とともにつくりあげることの必要性について述べた。また、親水を工学の分野と社会をつなぐ体系化したものに近づけたいという抱負も述べた。

6) 第 11 回全国川サミット in 江戸川

① 開会式

「第 11 回全国川サミット in 江戸川」は、10 月 12 日（土）午後 1 時より、江戸川区総合区民ホール“太陽の間（2F）”において開催された。

◆総合司会：須磨佳津江（「趣味の園芸」キャスター、元ＮＨＫアナウンサー）

東京女子大学卒業。日本放送協会（NHK）にアナウンサーとして入社。朝のニュースショーなど、報道番組を中心に担当し、結婚を機にフリーランスとなる。その後も「ニュースの窓」、「テレマップ」など、NHK を中心としたキャスターを務め、現在「趣味の園芸」9 年目キャスターとして活躍中。

◆オープニングビデオ：「都市と川と人と･･･　～遊水都市江戸川区～」の上映

◆参加自治体紹介：参加自治体 14、流域自治体 3

満員の会場

登壇した参加自治体

◆会長あいさつ：江戸川区長　多田正見

（あいさつ全文）

『皆さんこんにちは。ご紹介を頂きました江戸川区長の多田正見でございます。この度、第 11 回目を迎えました「全国川サミット」が、私ども江戸川区を開催地として催す事になりまして、誠に光栄でございます。そして、今日は国土交通省の関東地方整備局渡辺局長さん、東京都建設局小峰局長さんをはじめといたしまして多くのご来賓の方々にもお出ましを頂きまして、またこんなに多くの方々にご参加を頂いて誠に嬉しく思っているところでございます。

この催しを開催するに当たりましては、国土交通省の皆様や、あるいは東京都建設局、あるいは東京都公園協会、また近隣の今ご紹介のありました東京都・飾区、そしてまた千葉県の松戸市や市川市の方々、多くの自治体の皆様にもご協力を賜っておるわけであります。またそれぞれの地域の各種団体でありますとか、あるいはいろんな活動グループがございますが、そういった方々のご協力、また学校関係の教職員の皆様や児童・生徒の方々にも大変たくさんのご参加を頂きました。

この３日間の開催でありますけれども、半年ぐらいにわたりまして、様々な活動を繰り広げましてこのイベントでその成果を発表していただくと、こういうことにもなったわけでもございまして、こんな嬉しいことはございません。ご協力を頂きました方々に心から御礼を申し上げたいと思っておるところでございます。

そして今ご紹介がありましたように、北は北海道から南は九州まで多くの自治体のご参加を頂きまして、江戸川区を入れまして 14 団体でございますが、遠方からはるばるお越しくださいまして本当に私も心から歓迎を申し上げているわけでございます。

この江戸川区とこの川とのかかわりにつきましては、先ほどのビデオで簡単にご紹介をいたしましたが、大変内容のある歴史と申しましょうか深いかかわりを持ってきたわけでございます。

つまり何回かの大変な災害もございましたし、またそれを克服するための並々ならぬ努力、国家的な努力が払われてきたわけでもございます。そういった歴史を振り返って参りますと、大変にこの川とのかかわりというものは、ずっしりと重いものがあるなと改めて実感するわけであります。

会長あいさつを行う多田正見江戸川区長

しかしながら、この川というものは、私たちにとりましても流域の住民にとりましても真に大いなる恵みでございまして、これを将来に向かってどのように、さらによいかかわりとして向上させていくかということが、私たちに与えられた永遠のテーマではないかというふうにも思っているわけでございます。

このサミットはまさにそういうことをお互いに考え、深く極めていこうという一つの努力、営みでございまして、これからもずっと毎年続けられていくわけでありますけれども、今回この江戸川区で開催いたしましたこのサミットが、本当に皆様方に取りまして有意義なものとなりますように、心から願っているわけでもございます。今日は大勢の方々にお越しいただきましたけれども、皆様方のこれからのますますのお幸せそしてまた、それぞれのご発展を心からお祈りをいたしまして私の開会のご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。』

◆来賓あいさつ：国土交通省関東地方整備局長　渡辺和足

（あいさつ全文）

『ただいまご紹介いただきました国土交通省関東地方整備局長の渡辺でございます。私どもの関東地方整備局では、関東地方を流れます一級水系の８つの川を担当してございます。この江戸川が属します利根川をはじめといたしまして、荒川でありますとか、多摩川でありますとか関東の主要な河川を私どもの関東地方整備局が担当しているとこういうわけでございます。

この「全国川サミット」でございますけれど、第一回の庄川から始めまして 11 回を迎えると伺っておりますけれども、関東で開かれるのは今回が初めてということでございまして、大変私どもとしましては待ち望んでいたことでございまして、是非この会場の皆様方、全国からおいでになっていると思いますけれども、歓迎をさせていただきたいというふうに思っております。

私ども、河川管理者といたしましては、今、川を改修するなり、川を管理するなりする時にどういうふうに考えているかということを少し皆様方に、ご紹介させていただきたいというふうに思っております。

来賓あいさつを行う渡辺和足国土交通省関東地方整備局長

国土交通省の一つの考え方として「安全で美しい国土作り」と言うようなキャッチフレーズで、国土をいろんな意味で管理しているわけでありますけれども、安全であるということは当然河川が氾濫しないようにと、美しいというのは川が美しい川でありますようにと、川だけの意味ではありませんけれども大変、川にかかわりのあるようなキャッチフレーズで、私ども仕事をしているわけでございます。どちらかと言いますと戦後の河川改修の中で、安全を優先するあまりに、たとえばコンクリートの川で固めてしまったのではないかとか、それから住民の皆様方に親しまれない、近づけない川作りをしてしまったのではないかと、いろんなこれまで皆様方からご批判やご意見

を頂戴しているところでございますけれども、最近の私どもの川作りの取り組みといたしましては、先ほど申し上げました安全で美しい、その安全で美しいためにはどうするかと言いますと、やはり自然豊かで、またそれから地域の皆様方に親しまれる川というものを目指して、今、一生懸命私どもも努力しているところでございます。こういう「川サミット」ということで川を実際の名前に持つ市町村がお集まりになりましてこういう場でいろいろな運動を展開し、また議論を進めていくというのは、非常に重要なことではないかなというふうに思っているところでございます。

私どもすこし調べてみたのですけれども、何故、川の名前が自治体についたのかというところをすこし私たちの目でちょっと調べてみたのですが、いろいろ調べてみますと、合併のときに市町村になって、昔非常に多くの市町村がありましてそれが合併するときにどんな名前にするかという中で、近くを流れている川の名前をつけようということで川の名前がついたということがかなり多いように伺っております。これはどういうことかといいますと、とりもなおさずその川が地域にとってシンボルであると、地域にとって非常に親しまれている川であるということを表しているのではないかな、というように思っております。その川がここ近年、少し住民の皆様方の関心から少し離れてきたということにつきましては、大変反省するところでございますけれども、近年の川作りの中では先ほど申しましたように、自然豊かなそしてまた親しまれる川作りということで、どちらかといいますと河川管理者が川を作るというよりは、地域の皆様方が川作りをすると、その中で私どもの河川管理者がお手伝いをすると、そんな気持ちで川作りを進めておるところでございます。

こういう運動の中でさらに地域の皆様一体となりまして川作りが進められるというのは、非常に大事なことと思っておりますので、私どもとしても是非この運動を期待したいと思っております。この運動がますます続きますようにお願い申し上げましてお祝いのご挨拶とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。』

◆**来賓あいさつ：東京都建設局長　小峰良介**

（あいさつ全文）

『ただいまご紹介いただきました東京都建設局長の小峰でございます。本日は「全国川サミットｉｎ江戸川」にお招きいただきまして誠にありがとうございます。全国からこのようにたくさんの方々が参加され、盛大にサミットが開催されますことに心からお祝い申し上げます。

河川は地域の公有財産でございます。とりわけ都市におきましては身近な自然空間として潤いややすらぎをうる大変貴重な空間でございます。

また河川は水循環の要でございます。河川を再生し都市の魅力を高めるために、行政と地域住民とが共同して守り育てていくことが求められております。そうした中で今回のサミットが「暮らしにとけ込むにぎわいの川・都市の中の川を考える」をテーマとされましたことは、誠に時宜を得たことだというふうに思っております。

東京都におきましても河川の改修に当たりましては今回のテーマの精神と同じく、地域の方々が川に近づき親しめるように関係者の堤防やテラスなどを整備するとともに、地元区市町村とともに連携して水辺の生き物などの環境に配慮した川作りに取り組んでおります。

江戸川区は都内でも早くから川を生かした街づくりを行ってまいりました。全国に先駆けまして親水公園を整備するなど多くの成果を挙げられ、その先見性と実行力が高く評価されております。そういう意味でこのサミットで江戸川から全国に向けて都市の中の河川のあり方を発信されることは、誠に意味深いものだと思っております。また江戸川区は、ディズニーランドやディズニーシーに近く、また都立・西臨海公園などの観光拠点もあります。水上バスに乗りますとお台場やパレットタウンという東京の臨海副都心にも気軽に行くことが出来ます。千客万来の世界都市を今、東京都は一生懸命作ろうと思っていますが、その一翼を担っているわけでございます。全国からお集まりの皆様方もこの機会に、東京の多様な顔を見ていただければというふうに思っております。

来賓あいさつを行う小峰良介東京都建設局長

終わりに「全国川サミットｉｎ江戸川」の成功と、本日ご参加の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。どうもありがとうございました。』

② **基調講演**

開会式に引き続き、基調講演が行われた。

基調講演は、第３回世界水フォーラム事務局事務局長尾田栄章(おだ　ひであき)氏により、「世界の川では今‥‥」と題して行われた。

◆尾田栄章（第３回世界水フォーラム事務局　事務局長）

1941 年奈良県生まれ。昭和 42 年建設省入省。平成 7 年建設省中部地方整備局長。平成 8 年建設省河川局長。平成 10 年退職。
現在、2003 年 3 月開催の「第 3 回世界水フォーラム」に向けて多忙な日々を送る一方で、「この川を春の小川に戻そう」と NPO 渋谷川ルネッサンス代表としても活躍中。

（基調講演全文）

『私ただいまご紹介いただきました尾田でございます。「全国川サミット」におきまして「世界の川は今」、要するに日本の川の問題、あるいは皆さん方、自分の川を考えて頂くときに世界の川がどうなっているかということをお考え頂くことが、自分の川を本当の意味で知るその一つの助けになるのではないかなと、そんな思いでこれからお話をさせていただきたいと思います。この会場、川の流れのように非常に広い会場でございます。そういう意味ではちょっと話しにくいのですが、精一杯ご紹介をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

「世界の川では今」ということで、たぶん皆さん方、川・水という言葉を聴いて頭に浮かべられる景色はこういう景色ではないかと思います。要するに自然の中にある水、自然の中にある川、あるいは都市の中の川ということで言えば、これはこのまえのワールドカップで日本が勝ったときに若い人たちが飛び込んだ川、道頓堀川でありますが、この江戸川なんかとは比べものにならないくらい汚い川ですけれども、この川に 2,000 人を越える人が飛び込みました。我々日本人にとってはまさに川、水というのはそういう自分と一体化するそういう対象でもあるわけです。ところが、地球上では川という言葉を聞いても全くイメージをできない人がおられます。そして、水という言葉を聞いてイメージするものというのは、要するに人間よ水を飲め、美しくなるために、という飲む水としてしか水を意識できない。川の水というようなものはとても意識できない。川という言葉を聞いてもなんらイメージが湧かないと、こういう方が地球上にたくさんおられます。そして、そういう人たちにとって水というのはどういうものかといいますと、この世にたった一つ決して盗んではならないものがある。それはたとえ夢の中であろうとも、それがたとえ人の命を救うためであろうとも。それは水だと。それは泉の水だと。ですからこういう人たちにとってはまさに水というのは、泉の水であって、ここで大事なことは懇々と湧き上がっている泉の水一滴一滴にすべて使い道が決まっているということです。ですからその水を誰かが盗むということは、誰かの命を盗んでいるということになるわけです。

しからば、その地球上にどれだけの水があるかということはこれよく言われますが、14 億立方キロメートル。地球上にずっと流しますと厚さが 2,800 メートルあります。非常に、無限といってもいいほどの水があるわけですが、このうちの大部分 97.5%は海水です。そして、残りの水の大半も南極と北極に閉じ込められた氷です。ですから、地球温暖化の議論で問題のあるのは、地球が温暖化して南極と北極に閉じ込められた氷が溶けて海面が上昇すると、こういう問題が非常に大きな問題になります。実際、明後日からパラオでそういう島国における水問題の議論がありますが、そういうところでの一番大きな関心事は、海面上昇によって自分の国がなくなってしまうとこういう問題です。そして、よく持続ある発展サスティナブル・デヴェロプメントという言葉が使われます。持続可能な、とそういう意味で水資源を考えれば、持続可能な水というのは非常に限られた水になります。要するに雨として降ってくる水、この限度を超えて水を使いますと、必ずどこかに問題が起こります。ですから、地下水だからいいというわけではありません。要するに地下水に供給される量を超えて地下水を汲み上げれば地盤沈下が起こるわけですし、ですから

我々人類が持続可能な形で水を使える量は何かというと、雨として供給される水の量でしかないということです。どれだけの量が地球上に降るかといいますと一年間に降る雨の量は 38 万立方キロメートル、それで、陸地で降る雨の量といいますと 11 万立方キロメートルです。このうち３分の２はその流域から何らかの形で蒸発散で失われます。海に流れ込んでくる量というのは約３分の１ですから降った雨のうちの３分の２は直接陸地から蒸発散で大気に戻り、３分の１が海に流れ出る、ですから逆に言いますとこの３分の１の水しか我々は使えないとこういうことになります。

ところが、ここで御覧頂いていますのは、地球上で上位 10 個の川を集めました。上位 10 個といいますか、大きな川 10 個といっても、なかなか難しい。長さが長いのでいうのか、流域面積でいうのかとかいろいろあるわけですが、そういうところは別にしてここで注目いただきたいのは、アフリカの真ん中に色の変わった河川流域があります。この河川流域は何かといいますと、海への出口のない川です。先ほど言いましたが、普通地球上全体で降った雨の３分の１は海へ流れていくはずですけれども、流れていく水の量が全くないと、要するに降った雨の分だけ流域から蒸発していると、こういう河川流域があると、それが世界の 10 大河川の中の一つとしてあると、こう一つで終わるかといいますとそうではありませんで、上位 30 までいきますと４つに増えます。ですから海への出口のない川というのはそんなに不思議な川ではない、ですから逆にいいますと降った雨と蒸発散で失われるのが非常に微妙なバランスをとっているとこういうことでもあります。その上位 10 個に入っているチャド湖の流域が、今御覧を頂いているこのアフリカのちょうど真ん中にありますが、ここに示していますのは、そのチャド湖の湖水面の変動です。一年に一回雨季のときに高くなって乾季のときに下がります。こういう動きを毎年繰り返すわけですが、雨の降り方が少なくなりますと、たとえば 1960 年下の段の真ん中あたりで 1960～1970 年にかけてずっとこう面積が下がっているのが御覧いただけようかと思います。これは、例のサハラ沙漠の沙漠化がどんどん進んでいることが世界中で大きな問題になった、丁度その時期にあたります。要するに雨の降り方がちょっと少なくなりますと、チャド湖の水位がどんどん下がると、こういうことにもなってしまいます。それを、示しているのがこの衛星の写真ですが、チャド湖というのは雨季のときには非常に広がります。そして、乾季のときにはずっと小さくなります。乾季のときに、その水面が小さくなるのに合わせて、そこで草が生えてきます。その草を羊とか、要するに家畜が食べて、それが生産手段になります。ですから、雨の降り方が少なくなるということは、そういう地域における生産手段がなくなると、こういうことにつながるわけでして、それがまさにこの地域の問題です。ですから、この地域で水がなくって困ると、いかにもアフリカの砂漠地を考えますと、飲み水がなくて困るというようなイメージを我々持ちがちですが、そうではありません。こういう生産手段との関係で問題が起こっているということであります。

今、御覧頂いたのは自然現象によっているわけですが、これに微妙なバランスの上に成り立っているそういう湖といいますか、そういう河川流域に人間がうかつに手をつければ何が起こるかという事例がこのアラル海の事例です。ちょうど御覧頂

きますと、グリーンの線で書いていますのが 1960 年代の線です。ちょうどこの当時は東北地方ぐらいの大きさがありました。それが 2000 年時点では、半分、あるいは半分以下に縮んでいます。これはこのアラル海に注ぐふたつの川の上流で、ソ連邦時代に農作物に水を使ったからです。

今、このほとんどアラル海への流入水がなくなってしまって蒸発散で、失われる分だけさがっています。いずれこのままほっておけば、アラル海は消滅してしまうと、こういうことになります。この今日のテーマに則してしていいますと、アラル海の問題というのはある意味では、流域全体で水を考えることの重要さにもつながります。今、日本でもアフガニスタンの復興会議が開かれましたが、アフガニスタンの３分の１の面積の水はアラル海に注いでいます。逆に言いますとアラル海の流域面積の 20%、５分の１はアフガニスタンから来ています。ですから、アフガニスタンでは、今までこれはいろんな説があって、あの動乱の間も農業生産はそんな落ちていないという話もありますが、もし今後、アフガニスタンの復興に合わせて、その農業用水に水が使われると言うことになれば、アラル海の消滅の時期というのは、どんどん早くなってしまうと、こういうことになりかねません。ですから、アフガニスタンの復興の問題を考えるときも、アラル海の流域全体でものを見ないと、本当の解決策は見えてこないということにもなります。

また、川でも同じことが起こっていまして、黄河の流域で、黄河断流という言葉を皆さん方よくお聞きかと思います。黄河では 1997 年に最大 700 キロメートルにわたって水がない。先ほど水があるから川だと、こう申しましたが、そういう意味では黄河はもうすでに川ではない、そういう部分があるということでして、その部分の延長が 700 キロメートルです。一番水がないときです。この江戸川区から言いまして 700 キロですと京阪神を通り越してさらに先まで行きます。それだけの区間に渡って水がないと、こういうことが起こっております。ただ、この水がないという問題は、なにも黄河だけではありません。日本でもたとえば今日、大井川町からおいでですが、大井川は本当に水がありません。要するに敗戦後、日本が経済復興するために大井川の水は一滴残らず電力に使うということで、すべての水を電力に使い、そして電力に使った後の水は管路で流域の中の農業に使い、そして飲み水に使います。その結果何が起こっているかというと、大井川に水が流れません。かつて、「越すに越されぬ大井川」と呼ばれた大井川に水がないということが起こっているわけです。ですから、この黄河の問題というのは決して他人事ではない、まさに我々自身の問題だということでもあります。一方、量の問題だけではなしに質の問題も大事です。逆に言いますと、質の問題こそ、より大事、難しい問題であるかもしれません。

御覧頂いておりますのはチサ川、ドナウ川、ダニーブ川の支川のチサ川で起こった水質の事故ですが、ここではルーマニアですが、ルーマニアから流出したシアン

化合物が下流のハンガリー、セルビアいう所にも影響していると、そういうところで、御覧頂くように大きな魚が死に、そこでは水道が取れないと、こういうことが起こっております。ですから、まさに流域は一つでして、あるところで起こったことというのは、上下流両方に行きます。この水質事故では、確かにシアン化合物が流れていくのは下流だけですが、こういうことによって魚が死ねばその魚が本来上流に運んでいたであろういろんなものが、運ばれないということにもなります。ですから、上下流両方に影響が及ぶということでもあります。ここに御覧頂いておりますのは、発展途上国の大都市で起こっている、どこででも起こっていることのほんの一例であります。これはマニラの川の状況でありますが、御覧頂きますように、河川に張り出して不法建築物がずっと並んでおります。これは、かつてマルコス時代にエメルダ夫人が大マニラの市長といいますか、長官をやっておられるときに、不法占拠を全部退治するということで全部撤去しました。ところが、いまやこのようにその不法占拠の建物が並んでいます。これが、アジアに限らず世界の、今、発展途上国における大都市の現状であります。こういう建物では使う水は目の前の川の水であり、使った水はそのまま川に排出されます。この川の水質は、先ほどご覧いただいた道頓堀川の比ではありません。我々ですと、とても手を突っ込む気にもなれない、そんな水です。そんな水の中で、ご覧を頂くように子供たちが遊んでいます。これを案内してくれた人が言った言葉が、「あの子どもたちの命がそんなに長くないんだ」と、「本当は禁止したいんだ」と、「だけど、それを禁止してどうなるというものなのか」と、こういう言葉であります。これは私が聴いたわけではありませんが、私どもの事務局の人間がその言葉を聞いて、本当にその言葉を我々が教えられたときに、まさにそれが地球上の現状だなと思ったしだいであります。そんなことで今、地球上でどういうことが起こっているかといいますと、60 億といわれる地球上の人口のうち、二人に一人、半分の人たちは非常に不衛生な、先ほどご覧を頂いたような、ああいう水環境のもとにおかれ、五人に一人は安全な水を利用できないという現状にあります。そしてその結果として、毎年 500 万から 1,000 万人余りの命が失われています。その命は、ほとんど全部が、発展途上国における幼い命です。この世に生を受けたばかりの命が、そういう形で生まれているというのが現状です。

　もう一方、水がないといったときに欧米の人にとっては、今私がお話したところで切れてしまうわけですが、そうではなしに、水が有り余って困る問題、洪水の問題というのも非常に大事です。これはロシアが、今年の 6 月被害を受けたところですが、中国も今年の 6 月、470 人以上の死者が出ていますが、ある意味ではこの辺は毎年起こっていることです。アメリカでもテキサスで 12 人死んでいますし、インド、バングラディッシュでも今年の 7 月には、まあこれはもう 7 月の最初のデーターで、今はもっともっと多くなっていると思いますが、今ご覧頂いておりますのは韓国です。今年の 8 月に非常に大きな災害を受けました。約 200 人にも及ぶ死者、行方不明が出た大水害、大洪水が起こりました。ところがこの情報があまり日本には流れてないのではないでしょうか。隣の国で起こっている情報が、ほとんど日本にも入ってきていないというのは、私はいかがなものかと思いますが、いずれにしても、北朝鮮でも同じようなことが起こっているはずですが、こちらの情報は

全くさらに分からないということです。そしてまた、フランスで今年の９月に入って、昨日フランスのテレビを見ていましたら、フランスの南の方では水害が起こっているそうですが、例の「アビニョンの橋で」というローヌ川で大水害が起こりました。20 人を超える死者がでました。水害なんてめったに起こらないと思っているフランスで、20 人を超える死者がでたというのは大問題です。そういえば、日本でもこの前の水害で亡くなった方は 10 人にも達しない。それも感電とかそういう事故ですから、直接には水害だということはないということから考えれば、非常に大きな数字ではありますが、あるいはポーランド、ドイツにおける水害というようなことが起こりました。ヨーロッパでも水害の問題、これを水問題として捉えるという方向が出てまいりました。ですから、ヨハネスブルグで開かれました地球サミットでも、ここでは水の問題が非常に大きなテーマであるということが世界の共通認識になったわけですが、水問題の一つとして、洪水問題を考えなければならないということを世界の人が認め始めました。そういう意味では、大きな一歩が記されたのではないかと思っています。

いずれにしても、こういう水が余って困る問題というのも非常に大きな問題であります。そして、ここで一つ注目いただきたいのは、こういう水害というのは毎年のように増えているということです。このグラフでご覧頂きますと、赤が洪水による被災者数、洪水の被害にあった人の数を表しています。30 年前では約 2,000 万人、1 年間で 2,000 万人です。ところが最近ですと、1 億 5,000 万人を越える人が水害を受けるようになりました。1 億 5,000 万人と言いますと 60 億人が地球上の人口ですから、40 人に一人が水害を受けるというところまできました。別に喜んでいるわけでは全くありません。そういう事態に追い込まれています。どうしてか。何が変わったか。要するに、1970 年から今までの 30 年間で人口が 20 億人増えました。この増えた人口は、相当部分が発展途上国です。そういう増えた人口が住み着いたところはどこかと言えば、河川の氾濫域です。先ほどの江戸川区のほうでご説明がありましたように、あの写真がありましたように、大きなアパートがずっと河川の氾濫域に立ち並んでいます。日本で起こったことが今、世界規模で起こっているわけです。そういうことを端的に表しているグラフがこのグラフです。

別の水がもっている、川がもっている問題で言いますと、ここにお示していますように 1999 年にモザンビークでは、非常な災害を受けました。ところが、災害の被災地で、これは被災地で避難民の方たちが一時的に避難をされているところですが、こういうところでの一番の問題は水問題なのです。いかに水を確保するか。ご覧頂きますように地下水を掘って井戸で汲んでいます。そして、汲まれた水はご覧頂くように、女性が頭の上に乗せて自分のところまで運ぶわけです。この写真が示していますように水問題の相当部分は女性の問題とも絡んでいます。今まで労働時間の相当部分は、この水の確保に地球上で使われています。それは女性の仕事であり、子供の仕事になっています。こういうことがま

さに、水問題を女性の問題であり、子供の問題だということにもつながっています。

それから別の面ですが、これはネパールのカトマンズを流れている川、ガンジス川の支川です。最上流部でしてヒンズーのお寺です。ここでご覧頂きますように亡くなった方の遺体はここで焼きます。焼かれたその残骸物は、この川に捨てられます。ですから、異教徒にとってこれはこういうことによって、川の水が汚染をされたというふうにも見えますが、ヒンズーの人たちにとっては、これによってまさに川の水は聖なる水に変わっているわけです。ですからこういうところで、この川の水を汚すようなことはけしからんからと、こういうことはやめようとバカなことを言えば、それだけでその人は排除されてしまう。当たり前のことですが、そういうことにもなりかねません。ですから、水の問題を考えるときには物理的なそういうことだけではなしに、人とその水との精神的なつながりということも、決して捨てることは出来ないということでもあります。

これから少し流域連携という面でお話をしたいと思います。これからお話しようとしていますのは、ユーフラテス川です。これはトルコから流れていまして、シリアを流れて今問題のイラクと、イラクとイランの国境を流れて、紅海に流れると、こういう古代四大文明が発祥したところの川ですが。この上流トルコで、ここでご覧頂くような、こういうダムが作られます。本当にダムといいましても、このダム一つで、490 億立方メートルの水がたまります。約 500 億立方メートルの水がたまるわけですから、日本が今まで作ったダムは 3,000 を越えるダムを作っているはずですが、その貯水容量を全部合わせましても 200 億と少々ですから、3,000 を超えるダムの倍ぐらいの水がここにたまっています。それだけの能力といいますか、もったダムをここに作ります。トルコ政府は作ります。水を溜め込みます。このダムを作るに際して、下流のシリア、イラン、イラクと協議をしたかというと協議はしていません。シリア、イラン、イラクと協議しろと言うほうが、ある意味では無理かもわからない、そういう世界情勢にあるわけですが、いずれにしても、そういうことなしに作ります。ですから、トルコ政府に言わせますと、下流の水利用に支障がないような本当に余った水、洪水だけを溜め込んでいるのだとこういう風に言っていますが、いずれにしても下流との協議もないままにこのダムが作られています。このダムは将来ある意味では、国際紛争の火種になるかも分からない、そういうダムでもあります。ただ、こんな非常に大きなダムと言いますか、皆さんが日本のダムをご覧になったのと全く違うダム、このダムの低体積一つで日本のダムが溜める水の量よりも多い、そのくらいばかでかいものなのです。

ここで一つ、私がすばらしいなと思いましたのは、このダムを作って、そしてこの地域の復興といいますか開発、発展を図ると、それに際して地域センターをずっと作りました。地域センターの中で、その地域センターのトップに女性の方を据えています。まさに水問題がその女性問題だということを十分認識してこういうことをやっているんだというお話でしたが、そのトルコの現在の国情においては、女性の方が自分がたとえ病気になっても、一人で病院に行けないそういう地域です。そういうところで若い女性の人を、そういう地域センターのトップに据えるということの意味を考えますと、これはやはり本腰を入れてやろうとしているな、というふうに思います。ですから、その大きな流域の中での連携といえば問題はあるにして

も、この地域の開発というその部分では、非常に注意を払っていると、ある意味では非常に不思議な気がするわけですが、そういうことがあります。

一方、これは全く、今のは上下流といいますけど、そういう話ですが、これは、左右岸の話です。ここに流れています川は、アルゼンチンの方に流れていく南アメリカの川です。ブラジルとパラグアイの国境を流れている川にダムを造ります。要するに国境を流れている川にダムを造るわけですから、ここでご覧いただくのが、造られたダムです。イタイップダムというダムでして、世界一の発電量を誇っています。それはともかくとして、私がここで是非皆さん方に注目していただきたいのは、この発電をどういう形でやっているかということでして、ブラジルとパラグアイでは周波数が違います。片一方が 50 で片一方が 60Hz です。どっちがどっちだったかちょっと忘れましたけれど 50 と 60 なんです。それで全く別々に発電機を据えて、同じ発電量を確保しています。ところがパラグアイでは、そんなに電力の需要がないわけでして、発生した電力量の大部分をブラジルに売っています。売電をしているわけです。ですから、そういうことをするくらいなら、何も始めから 50 と 60 に分けずに一つのブラジルの周波数で発電をすればよさそうなものなのですが、そうではなしに全く同じ発電量、違う発電機を据えてそれぞれ自分の必要な周波数に合わせた発電をしている。これはある意味では、川がもっている左右岸の特性を端的に表している事例ではないかと思います。そして、このダムがあるということは逆に言えば、この二国、パラグアイとブラジルはたぶん戦争することは非常に難しいのではないかと思います。いずれにしても、もしそういう状態になればこのイタイップダムの管理をどうするか大問題でもあります。そういう意味では、水というものが国際紛争を防ぐ、あるいは国際的な紛争を融和する、そういう役割を果たしているということにもつながっているのではないかと思います。

それから全く別の面ですが、ここに示していますのはフランスのパリでして、セーヌ川が流れています。そのセーヌ川に注ぎ込んでいる川でビウェーブルという川があります。このビウェーブル川も日本の多くの川と同じように蓋をされます。ですから川に蓋をしたのは何も日本人だけではなしに、先進国全部どこでもやっていることでして、そのパリではセーヌ川本川に蓋をしようというこういう動きすらあったわけですから、我々別に恥じることはないといいますか、あまり胸張る事でもないのですが、世界で起こっていることなんです。ところが、その蓋をされたビウェーブル川の蓋を取っ払おうという運動が起こります。これがこういう川にしたいという絵ですが、実際にこういう形で実現しました。そして、こういうプロジェクトを動かしたのは、もちろん工事そのもの、事業そのものはパブリック、この場合は下水道事業団に相当するようなフランスの機関がやっているわけですが、そういうことを実現化させたのは住民運動です。ここにご覧頂いていますのは、そういう住民運動に取り組んだ人たちでして、これはビウェーブル川のそういう小さないろんな必ずしも

川に関わらない、そういう住民団体のトップの人が集まられて、「ビウェーブル川を太陽の元に戻す会」というのを作って、運動された結果です。まさに女性パワーによって実現したということですが、ただ、ご覧頂きましたように実現したのは本当に田舎の部分、これはパリの郊外でして、そういう意味では先ほど江戸川区の中で、これは蓋をされた川ではなしに、蓋をされようとしている川をとどめて、その今に残されたと、そういうこととどちらが価値が高いかといえば、江戸川のほうが高いのかもわかりません。いずれにしても、今後まさにこういう形で水辺を大都市の中に確保するということが、大きな流れになろうとしています。

これは日本の川の状況の一端ですが、日本橋川の上は高速道路が走り蓋をされてしまい、そしてまた、コンクリートの三面張りの川に変わっていると、渋谷川は変わってしまっていますが、これは洪水対策。渋谷。要するに谷ですから、常に洪水を繰り返していた川でして、昭和 10 年ごろに、本当に当時世界の最先端の技術を持ってやった事業ということで、コンクリートの三面張りに変えたわけです。ところが、今この川が本当にこれでいいのかということになれば、決してそうではないはずです。どうすればいいのかと、こういうことですが、これは私どもの、私は別に渋谷川ルネッサンスというＮＰＯ活動にも取り組んでいるのですが、これは別にこういうことで全部しようということではなしに、要するに渋谷川により東京都民の、あるいは渋谷川流域の皆さん方の関心を引こうということで、少しでもより自然を感じられる護岸に変えようよということで、こういうことを提案して実現化しました。ただ、これは３日間ということで撤去してしまわざるを得なかったわけですが、こんなコンクリートの三面張りのこんな川でも、この川を使っていろんな試みをしようという運動をやっています。ところが残念ながら行政サイドの取り組みというのは、必ずしもそういう取り組みと一緒になって楽しもうというところに来ていないように私は感じています。これは、今日お集まりの全国のそれぞれの川で、行政と一緒になったり、行政を使ったりいろいろしながらこういう問題に取り組んでおられると思いますが、是非、行政サイドにおられる方たちには、そういう住民運動と一緒になってやるという方向に是非展開していただければありがたいなというふうに思います。

ちょっと大分時間が過ぎました。これから来年３月に開かれます「第３回世界水フォーラム」とこの川の連携といいますか、そういう問題との関係を、ごく簡単にお話したいと思います。要するに、ご覧頂いたように水の問題、川の問題というのはあらゆる人間に関わります。ですから、あらゆる人間、あらゆる人が一緒になって水の問題を考えようよ、ということで始まったのが「世界水フォーラム」。1997 年に第１回が開かれ、３年ごとに開かれますので、第２回がオランダで開かれました。ですから、アフリカ、ヨーロッパときたので次は日本ということになるわけであります。そして、「第３回世界水フォーラム」は、来年の３月 16 日から 23 日まで８日間開かれます。どういう内容かといいますと、フォーラムそのもの、こういうフォーラム、あるいは閣僚級国際会議、あるいは水に関するフェア、これは江戸川流域で草の根運動として水の問題を考えていただこうと、こういう試みです。31 のテーマが選ばれて、すでに活動が始まっています。水と平和の問題、いかに水を収めていくか、あるいは住民参加の問題、気候変動の問題、水と都市の問題まさ

に川の中の都市というそういう問題、それから水質汚染の問題、世界的規模で見ましても水の７割は農業に使われています。この問題。水の問題は教育の問題、子供の問題と密接過分だということ、あるいは洪水の問題、あるいは先ほどご覧いただいたような精神的な問題、文化の問題、情報の問題、あるいは誰がフォーラムの中で分科会を開くかという中では、たとえば子供さん、ダムと開発の問題、誰が水を管理するのがいいのかというような問題、これは江戸川流域での草の根レベルでの取り組みが開かれようとしているということですが。まさにこういう形でいろんな取り組みが開かれようとしています。

どうして世界の水フォーラムを日本でやるのかということで申しますと、日本が輸入をしている食料品、これを生産するのにどれだけの水が使われているかといいますと、年間で 440 億立方メートルの水が使われている計算になります。この水はどれだけの量かといえば、我々日本人が使う水の使い方で言いましても約４億人の人が使える水の量です。発展途上国の人たちの水の使い方で言えば、10 億を超えるそんな人たちの水です。そう意味で、来年３月 16 日から 23 日の「世界水フォーラム」まであと 155 日になります。是非、今日この場にご参集の皆様方にも「第３回世界水フォーラム」にご参加を頂いて、世界の人たちと直接意見交換をし、自分たちの川の問題に対する見方を深めていただき、そしてまたそういう人たちと交流をしていただければ大変ありがたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

③　意見発表

【夏休み親子江戸川探検報告】

８月 24 日・25 日に実施した「夏休み親子江戸川探検」について、参加者親子がビデオによる活動報告をした後に、次のような感想を発表した。

- 川のそばに住んでいるが、こんなに近くに素晴らしい環境があることを知らなかった。
- 川下りはとても楽しかった。
- はじめてのキャンプは楽しかった。
- 「川へは近づくな」と言われてきたが、安全性に十分注意すればとても楽しいと思った。

夏休み親子江戸川探検の感想を発表する参加者

【江戸川を考えるワークショップ発表】

江戸川を考えるワークショップ発表は、６ つのテーマに分かれて、これまでの活動の様子や午前中に行った分科会の内容について発表した。また、発表の最後により良い川にするためのキーワードが各グループから発表された。

◆江戸川の生きものグループ

〈これまでの活動を通してわかったこと〉

鹿本小学校　高野雄大

〃　　　　高野千春

- 思ったよりとても多くのいろいろな生きものがいた。
- なにげない場所が生きもののすみかだった。
- 珍しい動植物が多く生き残っていた。
- 食べられる植物や魚、貝も多くいた。
- 外国から入ってきた問題のある魚がいた。
- ゴミがあったり、危険な場所も多かった。

〈分科会での意見〉

- 川の生きものにつては、大きな自然のサイクルの中で、バランスよく生き残っている。環境条件に合致すれば定着する生きものが増えるはず、長い時間をかけて見守っていくことが必要である。
- 江戸川での大きな問題は外来種についてである。ブラックバス、ブルーギルは大量の魚を食べ大繁殖する恐れがある。従来から保ってきた生態のバランスがくずれてくる。
- 今後、葦、マコモという湿地を復元することが必要。江戸川の特徴である、淡水域、気水域、海水域の３つの生物層をバランスよく保つことが必要である。
- ガイドブック、リーダー、が必要である。
- 水際のコンクリート護岸を改良することが必要である。

キーワード
「江戸川を生きもの大国に！」

生きものグループの発表

◆江戸川で遊ぼうグループ

〈これまでの活動を通してわかったこと〉

これまでの活動を全員で寸劇により紹介

- 大人子供一緒になって遊んで感じたことは、ホタルの住む川にしてほしい。
- ゴミのないきれいな川にして欲しい。
- 虫が住めるように、木や草を増やして欲しい。
- 川がきれいになって欲しい。

〈分科会での意見〉

みんなが安全で夢のある遊び場となるように、樋管のビオトープ化について話し合った。

- 緑の楽園ビオトープ
- 里川ワンダーランドビオトープ
- パステル村ビオトープ
- 安心な家出ができるビオトープ
- 昔子供だった人たちが考えたビオトープ

キーワード
「水と緑と思いっきり遊ぶみんなが集う」「里川ビオトープ」
「命のゆりかご」

遊びグループの発表

◆ボート・カヌーグループ（水上レクリエーション）

〈分科会での意見〉

親水市民になる（川に親しむ仲間づくり）ための４つの柱

- 子供達の夢、思い出づくりができる川
- きれいな川
- 川を利用したお祭りやイベントの開催
- 行政の支援

“良い子が江戸川で遊ぶ江戸川区”にするために

- 江戸川の水質向上
- 川探検やレースのできる場所づくり
- 舟の置き場所、トイレ、シャワー、安全に乗り降りできる場所等の河川敷整備

分科会での意見発表後、カヌー・ドラゴンボートの実演パフォーマンスが行われた。

キーワード
「安全に舟を楽しむ川づくり」

ボート・カヌーグループ（水上レクリエーション）の発表

◆環境学習における河川敷の利用

発表者：江戸川区立中小岩小学校　高橋教諭
　　　　江戸川区立上小岩第二小学校　高木教諭

〈分科会での意見〉

江戸川は環境学習の絶好のフィールドである

- 豊かな自然・整備された河川敷・希少生物と出会える場がある。

ところが江戸川は子供達にとって近いんだけれども遠い川である。

- 「危険な川である」という認識が子供達にある。
- 保護者に「子供達を江戸川に近づけたくない」という潜在的な意識がある。
- フィールドワークを充実させるためのサポートが不足している。
- ポテンシャルの高い江戸川であるという意識が教師に不足している。

身近な川にするための３つの整備

- 行政の支援体制の整備（地域講師、人材派遣人材協力、資材援助、情報の提供、東京都環境リーダーの活用）
- 学校間ネットワークの構築（教員研修の充実、夏休みの活用、インターネットの活用、学校間同士の学習発表会の開催）
- 安全への配慮（安全マップの活用、子供が自信で考えて危険回避できるような安全教育の推進、保護者の協力：自分の子供は自分で守る）

〈実践事例の報告〉

上小岩第二小学校 ４ 年　「江戸川を探る」各自で課題を追求､区の支援により､生きもの調査、植物調査、水質調査、また、釣り人や地域でのインタビューにより江戸川の認識を深める。

〈まとめ〉

- 江戸川を教材としたため江戸川を身近に感じられるようになった。
- 区役所や NPO との連携により活動が深まった。
- 河川敷の活用方法がわかり、安全性について考えるようになった。

キーワード
「近くて遠い江戸川を子供たちにとって本当に近い江戸川にしよう」

環境学習グループの発表

◆バリアフリーグループ

〈分科会での様子〉

・ 総勢 50 人によるでこぼこマップを作成

〈これまでの活動〉

映像による報告

・ これらの活動により「心の健康」に役立つことがわかった。
・ さまざまな発見はボケ防止になった。
・ 新しい友達ができ喜びを共有できた。

今後も自然観察、ゴミ拾いなど、幅広い活動をしていきたい。そのための提案

・ 土手に手すりのついたスロープを作る
・ 車椅子でも入れる水辺に沿った散歩道をつくる。
・ 土手から水辺までの安全な道をつくる
・ スロープのある、入り口の広いトイレをつくる。
・ 疲れたときのために、ベンチや屋根付きの休憩所をつくる
・ 点字ブロック、100mごとトイレの音声表示装置を設置
・ 川辺まで車でいける駐車場整備
・ 船着場のスロープ化

〈今後の取り組み〉

・ 河川バリアフリーマップの作成
・ 河川環境移動円滑化ガイドラインの作成

キーワード
「みんな楽しい心のリハビリ、バリアフリーの川づくり」

バリアフリーグループの発表

◆流域連携を考えるグループ

発表者：佐藤正平

〈各活動グループの活動報告〉

・ ヒヌマイトトンボの生息地である可動堰の改修にかかる計画
・ ナゴヤサナエの観察
・ 新八水路の調査活動
・ 市川国府台河畔林を残す活動　等

〈提言〉

・ 流域住民の連携により大人も子供も憩えるふるさとの川にしよう。
・ 新しい水ガキを育てよう。（先生、行政職員）
・ 安全でおいしい水をみんなで作ろう。
・ 環境保全のために市民育成型調査活動の推進。
・ 市民の知恵を集めよう。（企業、自治体の連携、小中高大学生の活動推進）
・ 水、生きも、ゴミの調査ネットワークの構築（ホームページの立ち上げ）

キーワード
「流域市民がつくるふるさとの川」

流域連携を考えるグループの発表

【分科会のおさらい】

◆金沢大学教授（東京大学名誉教授）玉井信行

・　１～３は具体的な活動。
・　４は総合学習で密接な関係がある。
・　５のバリアフリーも子供との連携が大切。
・　６の流域連携に子供が入るか。分科会にもうすこし江戸川区の活動が入る事が大切である。

◆エコ・コミュニケーションセンター代表　森　良

・　みんなが楽しく活動していくことが和を大きく広げていくことである。
・　それぞれの活動を知ったのは今日がはじめてではないか、活動している者同士のネットワークが大切、企業や行政の連携ネットワークが必要である。

６つのグループの発表を終えて

④　**江戸川未来図創作**

江戸川未来図創作は、会場全員の意見を出し合い、みんなで「江戸川未来図」をつくるため、すでに発表された６つのグループのキーワードを参考に､｢川でもっとこうしたほうがいい｣､｢私達はこうしている｣､｢こんな夢がある」など全員が自分の意見や考えをポストイットカードに記入した。記入したポストイットカードは、６ グループとそれ以外の計７つに分類されたボードに貼った。それぞれのボードに貼られた意見は、各ボードの担当者が大きく３つに集約し、それぞれ発表した。

各ボードで集約された３つの意見は、次の　　表のとおりである。

ボードに貼られた意見を集約

集約された参加者全員の意見

グループ	キーワード	集約したみんなの意見
① 生きもの	「江戸川を生きもの大国に！」	・生きものに学び ・生きものとふれあい ・生きものと共に生きる
② ビオトープ	「水と緑と思いっきり遊ぶみんなが集う」 「里川ビオトープ」 「命のゆりかご」	・安心な家出が出来るほどやさしい河川敷 ・人も動物も憩える樹木 ・里川ビオトープ
③ 水上ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ	「安全に舟を楽しむ川づくり」	・水上レクリエーションのための水辺の環境を整備 ・水上レクリエーションのための設備が欲しい ・体験の場、機会の創出
④ 環境学習	「近くて遠い江戸川を子供たちにとって本当に近い江戸川にしよう」	・川辺のゴミ拾いも環境学習の第一歩 ・小魚、小さな生きものたちとたわむれる冒険大国に ・自己責任のもとで良い子も普通の子も悪い子も楽しく遊べる川にしたい
⑤ バリアフリー	「みんな楽しい心のリハビリ、バリアフリーの川づくり」	・誰でも川の風を感じられる（気軽に） ・カフェテラスのような ・自然をうまく残しながらバリアフリーに
⑥ 流域の連携	「流域市民がつくるふるさとの川」	・自然の連携、流域の連携で更なる水質改善 ・人の連携、江戸川流域のネットワークづくり ・利用の連携、楽しく遊べる川にする
⑦ その他		・遊べる楽しめる川にしよう ・世界の川と友達になろう ・川の伝統を伝えよう

第11回全国川サミットin江戸川

キーワード

生きもの	ビオトープ	水上ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ	環境学習	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ	流域の連携	その他
・江戸川を生きもの大国に！	・水と緑と思いっきり遊ぶみんなが集う ・里川ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟ ・命のゆりかご	・安全に舟を楽しむ川づくり	・近くて遠い江戸川を子どもたちにとって本当に近い江戸川にしよう	・みんな楽しい心のﾘﾊﾋﾞﾘ、ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰの川づくり	・流域市民がつくるふるさとの川	

集約したみんなの意見

生きもの	ビオトープ	水上ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ	環境学習	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ	流域の連携	その他
・生きものに学び ・生きものとふれあい ・生きものと共に生きる	・安心な家出が出来るほどやさしい河川敷 ・人も動物も憩える樹木 ・里川ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟ	・水上ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝのための水辺の環境を整備 ・水上ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝのための設備が欲しい ・体験の場、機会の創出	・川辺のゴミ拾いも環境学習の第一歩 ・小魚、小さな生きものたちとたわむれる冒険大国に ・自己責任のもとで良い子も普通の子も悪い子も楽しく遊べる川にしたい	・誰でも川の風を感じられる（気軽に） ・ｶﾌｪﾃﾗｽのような ・自然をうまく残しながらﾊﾞﾘｱﾌﾘｰに	・自然の連携、流域の連携で更なる水質改善 ・人の連携、江戸川流域のﾈｯﾄﾜｰｸづくり ・利用の連携、楽しく遊べる川にする	・遊べる楽しめる川にしよう ・世界の川と友達になろう ・川の伝統を伝えよう

全員で創作した江戸川未来図

【江戸川未来図へのコメント】

◆金沢大学教授（東京大学名誉教授）　玉井信行
◆エコ・コミュニケーションセンター代表　森　良
◆第３回水フォーラム事務局長　尾田栄章
◆江戸川区長　多田正見

〈感想〉

尾田：今日の会合は、準備をされた皆さんは、楽しみながら準備されたのではないかなと思う。そのことが良くわかる会である。行政に対する要望がいくつかあった。
これからは、そのような時代ではなく「我々はこうしたい。そのために行政はこういうことをやれ。」という時代になっていると思う。まさに自己責任のもとでの提案、自分自身が悩みながらやっていく時代だと思う。

多田：未来図には、たくさんの人の川に寄せる思いが感じた。川があってよかったなあと思う。

森　：みんなで作ってこうということが感じられる未来図になった。今日が始まりである。

玉井：未来図は、午前中のワークショップから引き継いでいて、一貫した形になったと思う。川は源流から河口までつながっている、そのまわりには人がいて生活がある。上流域と下流域では生活が違うが、全体としてつながっているという認識が大事で、この図に良く表れていると思う。これが始まりで、今日概念的な整理は出来たと思う。ここに集まった皆さんの熱気を続けていけばアクションにつながるものと思う。

〈これから始めるためのアドバイス〉

尾田：ひとりひとりの思いの深さによるのであろう。持続して初めて形になっていく。そのためには、楽しくやること、まさに今日の会はそうなったと思う。

多田：いろんな衝突はバランスをよく進めていけばよい。やはり川とお友達になること、人とお友だちになることが大切である。

〈何からスタートするとうまくいくのか〉

森　：学校の発表にあったように学校はやりたいと思っている。しかし、学校だけではできない。そこで、今日集まった方々、行政、地域、みんなが一緒にやらなければできない。そこで、相互乗り入れをやるべきである。
次に、これまでは、要望するという形しか出来なかったけれど、自主的に活動するという形が出てきている。協議する場を常設で作ることが考えられる。

玉井：今まで使われていた樋管などの用途が変わってきた。これをビオトープや水上レクリエーションの場に利用するとか、広い河川敷があるためポテンシャルは高い。１つの場所で活動することから、具体的な目標に向けた協働や連携が生まれてくる。今日の会議で具体的な目標が出てきていると思われる。

江戸川未来図へのコメント

⑤　閉会式

◆流域代表講評

● 東京都・飾区助役　八木原利勝

今、川自体が「近くて遠い川」になっているのではないかと思う。私も子供のころよく遊んだ思い出がある。川での遊びが難しくなってきたかなという感じがする。

川は、人間の手を加えないと親しめないのが現状であろうが、極力自然の温かみを残しながら親しめる川になってほしいと思う。

● 千葉県松戸市助役　宇田川正

細川たかしの「矢切の渡し」が有名であるが、「矢切の渡し」のあるのが松戸市です。

どちらかというと、松戸の対岸の・飾柴又が有名であるが、矢切の渡しは松戸市です。

松戸市は江戸川の中下流部であり、古くから舟運が栄え、「かし」の名残が残る町である。今は、高度経済成長に伴い水質が悪くなった枝川の浄化に取り組んできている。

松戸市の長期構想では、ふるさとを感じることが出来るものの中で１番は江戸川であった。これからも、住民と行政が力をあわせて取り組んでいきたいと思う。

● 千葉県市川市助役　尾藤勇

河川の役割、利用方法をわかりやすくご提示していただいた。住民の皆さんご苦労様でした。特に江戸川区の住民のパワーには圧倒されました。市でも、たくさんの活動グループがあるが、今日の会をかわきりに、流域のたくさんの団体と協働していただくことによって、もっと素晴らしいアイデアが生まれるのではないかという思いでいっぱいである。自治体も団体等への支援ですとか、自治体間の連携が必要であると痛感した。これからは、行徳可動堰の問題などバランスを考え取り組んで行きたい。

● 国土交通省関東地方整備局江戸川工事事務所所長　加納敏行

行政は限られた法制度の中で仕事をしているという話があったが、どこまでかという線ははっきりしていない。今日の話を聞いて私達もいろいろな発想が広がってきた。これからも、新しい分野に取り組んでいきたい。

流域代表による固い握手

◆サミット宣言

サミット宣言は、6 つの分科会のキーワードを基に会場全員で創作した江戸川未来図を実現していくために、目指すべき川の姿とそのための取り組みについて、これまでの活動や当日の意見なども踏まえて、サミット当日に、玉井先生と森氏に作成をお願いした。

そのサミット宣言は以下のとおりで、これを江戸川区長をはじめ、参加自治体、分科会リーダーなど全員で宣言した。

サミット宣言

私たちは、これまでの取り組みをもとに、よりよい江戸川としていくために、以下のような川となることを目指し、宣言します。

一．多様な動植物が生息し、健康で自然環境豊かな川にします。

一．あらゆる人々が、気軽にこの広大な空間を共有でき、みんなの思いやりにあふれ、楽しく遊び、学べる川にします。

一．都会にあって、子供たちが「ふるさとの川」と胸を張って誇れ、次の世代へと受け継がれていく川にします。

そのために、私たちは、次の取り組みを行います。

一．江戸川を舞台に、さらに活動を進め、交流の輪を広げていきます。

一．住民と行政の信頼のパートナーシップを築きながら、より良いきれいな川づくりにつなげていきます。

一．来年もみんなで集まり、活動を盛り上げていきます。

2002 年 10 月 12 日

第 11 回全国川サミット in 江戸川　参加者一同

サミット宣言を全員で唱和

◆川サミット旗受渡

多田正見江戸川区長より、次回開催地の岡山県加茂川町　片山舜平町長へ川サミット旗が引き継がれた。

川サミット旗受渡

7)　交流会

◆司　会：内藤勇（江戸川区職員）

◆余　興：・西囃子

・西囃子

①　開会あいさつ

◆全国川サミット連絡協議会会長　江戸川区長　多田正見

（要旨）

『今日は一日ありがとうございました。ただ今御覧いただきましたのは、当地に古くから伝わる伝統芸能の「・西囃子」です。これから、本区在住の橘家圓蔵師匠もおこし下さる予定です。この会場には、自治体の皆様と、参加された多くの住民の皆様がおられます。おくつろぎ頂き、一層交流を深めて頂ければ幸いです。』

多田正見江戸川区長によるあいさつ

② 乾杯

◆国土交通省関東地方整備局河川部長　青山俊行

青山俊行河川部長による乾杯

③ 余興

◆橘家圓蔵

橘家圓蔵師匠とそのお弟子さんによる余興

④　閉会あいさつ

◆東京都建設局江東治水事務所所長　水川智雄

水川智雄江東治水事務所所長による閉会あいさつ

３．第三日目〔平成 14 年 10 月 13 日（日)〕

1)　「第 25 回江戸川区民まつり」

江戸川区では毎年 10 月の第２日曜日、「江戸川区民まつり」が開催される。

江戸川区民まつりは、各種団体によるさまざまな催し物、物産展、模擬店が繰り広げられるとともに、多くのボランティアが活躍する江戸川区民総参加のまつりであり、今年は６０万人の人出でにぎわった。

実行委員会では、「全国川サミット in 江戸川」のブースを設け、サミット参加自治体の特産品をまつり参加者に振舞うとともにパネルを展示し、それぞれの自治体を紹介した。

区民まつりの会場に設けられた「全国川サミット in 江戸川」のブース

サミット参加自治体の皆さんについては、区民まつりのメインイベントである“3,000 人による大パレード”を御覧いただくとともに、記念式典に参列いただいた。

式典では、各自治体の首長および江戸川工事事務所長にご登壇いただいた。区長のあいさつの中で、今回の全国川サミット in 江戸川、ならびに登壇者の紹介を行った。

パレードおよび記念式典に参加した各自治体の方々と区長、江戸川工事事務所長

４．結果

1） 成果

本区の特長である河川においては、治水の時代から利水の時代を迎え、快適な水辺環境を目指し整備に取り組んでいるところである。

特に「江戸川」では、その広大な河川敷等の河川空間を活用し、「江戸川納涼花火大会」や「総合防災訓練」など、区を代表する大規模イベントが開催されている。さらに、野球場、サッカー場などのスポーツ施設が充実し、休日は多くの人々で賑わっている。

しかし、近年、時代の変化とともに人々が利用しやすい整備と併せ、河川に残された自然が見直され、自然との共生、環境保全という概念が加わり、新たな住民活動の舞台となってきている。

今回の川サミットではそのことにスポットをあて、住民活動を中心に、都市の中に位置する川の役割を改めて検証した。その成果について次の４点にまとめた。

新しいアクションの高まり

河川を活動の場とするグループは、公園、緑等で活躍するボランティアに比べ、依然少ない現状である。

そこで、今サミットを契機に江戸川で活動する仲間を募集したところ、予想を越える人数が集まり活動することができた。このことは、“川をもっと身近に感じたい”、“川に近づきたい”という、住民のポテンシャルの高さをうかがうことができる。（一方で、週休二日制が定着し、余暇を身近な場所で家族と過ごそうという方が増えてきたことも要因の一つであろうと推測ができる。）

参加者からは、“毎回が新たな発見の連続”、“これからも活動を続けて欲しい”という声が多く、サミット後も自主的グループとして活動を続けていくことになった。

さらに、活動を通して、ビオトープや艇庫などの施設、環境保全地帯、自然に配慮した護岸整備など、さまざまな施設構想を、自分達の活動からつなげていくという気持ちが高まりをみせており、今後も多くのグループが形成され、多様な活動が高まるもと期待される。

また、親子江戸川探検など、サミットに向けた各種イベントの開催により、これまで経験できなかったことを体験したことで、川に対する親近感と、身近な河川環境の素晴らしさを実感することができた。参加者からは今後も引き続き、河川を利用した各種イベントの開催を希望する声が大きい。

新たなパートナーシップの構

今回の川サミットには、江戸川区民はもとより、近隣自治体のグループや、多くの河川関係者のご参加を得て開催することができた。特に「江戸川を考えるワークショップ」では、全国からお集まりいただいた参加自治体の方々にも議論に加わっていただき、川を愛する者の新たな出会いを創出することが出来た。

また、多様な住民活動の取り組みを推進したことにより、今後、行政が区民とともに進めていく河川環境整備の方向性を示す結果となり、そのことが、新たな住民とのパートナーシップによる街づくりにつながるものである。

近年、コミュニティが気薄になりつつある中で、川が新たな拠点となり、人と人、人と自然など、これらのつながりをさらに広めていくことができることが確信できた。

川を中心とした自治体連携の高ま

今回の川サミットでは、国土交通省、東京都、ならびに東京都・飾区、千葉県市川市、千葉県松戸市の江戸川を中心とする下流地域の自治体にも計画段階からご協力をいただき開催することができた。このことにより、河川行政における取り組みの方向性を共有化することができ、あわせて、川を中心とした行政間のネットワークが広がり、協働体制の構築を図ることができた。

江戸川から発信された都市の中の川の役割

江戸川は、千葉県関宿を基点に東京湾までの約 60km の河川であり、上流、中流、下流とその表情を変える。開催地である江戸川区は最も下流に位置し、その川幅は広く、河川敷を含めた面積は大きな割合を占めている。都会の中にあってこのような広大な空間と自然環境は本区の貴重な財産である。

今回のサミットにおいて、河川の新たな利用、川と人と地域の役割、住民と進める整備の方向性など、江戸川を題材に都市河川のあり方を全国に向けて発信することが出来た。

また、訪区された区市町村や、当日会場にお越しいただいた多くの来場者の方々に、江戸川区が取り組んできた河川整備の歴史の紹介と、住民活動を中心としたプログラム構成により、住民パワーと活力を広く PR することができた。このことは、本区のイメージアップにつながる大変意義深いことになった。

2) これからの取り組み【「江戸川未来図」の実現に向けて】

江戸川区では、今回打ち出された「サミット宣言」を尊重し、住民および流域自治体とのさらなる連携のもと、以下の取り組みを推進し、「江戸川未来図」の実現を目指す。

① 「江戸川で遊ぶ仲間づくり」の継続、および自主グループの育成

- 生きものグループ
  理想とする生態系の実現に向けて、環境調査の継続によりデータの収集を行う。
  また、「生きもの博士」となる地域環境リーダーを育成する。
- 遊びグループ
  区民みんなで作るビオトープの実現を目指す。
- カヌー、ボートグループ
  水面利用人口の増大を目指す。
  また、行政との連携によりイベントの運営および調整を行う。

② 江戸川水面利用協議会の設置

- 水面利用の安全性を高めるため、原動機付きボートとの共存を図りながら、利用モラルの向上に努める。
- 水面利用の拠点となる艇庫等施設の整備を促進する。

③ 河川イベントの開催（啓発活動）

- 親子江戸川探検
- 盲人協会との連携による江戸川サイクリングロード２人乗り自転車試乗会
- バリアフリーデイキャンプ

④ 流域交流会の開催

- 縮小版江戸川流域サミット開催による流域住民の交流

⑤ 流域連携の強化

- 各自治体の既存イベントへの参加協力
- 流域自治体連携による施設整備の検討および要望

Ⅳ. 広報の実施状況

1．参加自治体紹介

次ページ以降に、参加自治体および江戸川流域自治体の街の特徴や自治体の取り組み、川を利用した取り組みなどを整理したものを紹介する。

なお、この自治体紹介は、サミット当日に総合区民ホール 2F ロビーおよび江戸川区民まつりの全国川サミット in 江戸川のブース脇に、パネルにして展示したものである。

北海道

鵡川町（むかわちょう）

緑と川と海とで織りなす 夢はぐくむまち 鵡川町

【データ】
・人口：7,213 人　　世帯数：2,906 世帯
・面積：166.43km^2
・市町村の花：ツツジ　木：イチイ
　町魚：柳葉魚（ししゃも）
・名産、特産物
　柳葉魚、ホッキ貝、ほたて貝、
　ほうれん草、大豆、花卉
・主な祭り、行事など
　たんぽぽフェスティバル（５月）
　鵡川地蔵祭り（８月）
　ししゃもあれとぴあ（１１月)

【街の特長】
勇払平野の東端、日高の玄関口に位置する。「ししゃものまち」をキャッチ・フレーズにしていますが、基幹産業は農業です。特に稲作を中心としながら、夏は涼しく冬は比較的雪が少ないという気候風土を生かし、蔬菜や花卉栽培に力を注いでいます。
また、黒毛和牛や軽種馬（競走馬）の繁殖地としても知られ酪農も盛んなことから、町のいたる所では草を噛む牛や馬が多く見られます。
漁業は例年、名産柳葉魚の孵化事業をはじめホッキ、ホタテの稚貝の放流と資源量調査を実施するなど「育てる漁業」にも積極的に取り組んでいます。
柳葉魚が獲れる１０月上旬からは、柳葉魚のすだれ干しが店の軒先を彩り、街中は観光客で賑わいます。

【自治体の取り組み】
明年夏に待望の日高自動車高規格道路鵡川ＩＣが開通する予定です。
北海道経済の中枢都市札幌市や、空の玄関口新千歳空港、フェリーターミナルのある苫小牧市から近いこともあり、休日には日高沿岸をドライブする観光客が大勢訪れます。ＩＣが開通すると、今まで以上に多くの車が直接街中を走り抜ける予想とあって、訪れる観光客を快くお迎えしながら、町経済の活性化につながる事業の取組を今、町民一丸となって検討しています。
鵡川町最大のイベントは、一級河川鵡川の河川敷で開催する「たんぽぽフェスティバル」です。鵡川の右岸約１０ha に広がるたんぽぽの群生は日本一と言われており、たんぽぽにこだわった町おこしのひとつとして昭和６３年から開催しています。毎年５月下旬に黄色い絨毯を敷きつめたようなたんぽぽの上で直径５mのジャンボ鍋でこしらえた豚汁を食べるのが呼び物のひとつになっています。

【川を利用した住民の取り組み】
「鵡川」は、北海道でも柳葉魚が遡上する数少ない川のひとつですが、町民生活に関わる大切な川としての意識が高まり、「川を育てる心」をさらに子供たちに受け継いでいこうという意識が広まってきました。
そのため、川に関連した活動を推進する団体が多くなり、河川の清掃をはじめ、環境に関する学習、カヌー教室の開催、植樹や生物調査などが積極的に行われています。
また、河口付近に広がる干潟は渡り鳥などの休憩地点でもることから、保全と観察なども盛んに行われています。

秋田県

おものがわまち
雄物川町

町民すべてが笑顔で豊かに
暮らせるまち　おものがわ

【データ】
・人口：11,483 人　　世帯数：3,024 世帯
・面積：73.38km^2
・町の花：れんげ草　　木：あかまつ
・名産、特産物
　あきたこまち、まつたけ、スイカ
・主な祭り、行事など
　まつたけマラソン　（10 月）
　ほらふき大会　（ 1 月）
　出逢い・ふれあい in おものがわ（10 月）

秋田県の南部に位置する雄物川町は、夏は暖かく冬は厳しい寒さにみまわれる盆地型気候で、全面積の４０％が水田という穀倉地帯です。
農業では良質米“あきたこまち”の生産が行われており、町の西側はあかまつ林が広がる出羽丘陵の一角で、まつたけの産地として知られています。
秋田県一の大河であり、流域面積でも全国１３番目に位置する「雄物川」からその名をいただいたわが町では、川を大事にし、川にこだわった町づくりを進めています。

国土交通省の協力を得て、河川敷を活用した両岸約 20 ヘクタールの河川公園が平成 12 年度に完成しました。
朝夕の散歩・ジョギングやグラウンドゴルフ、家族連れのキャンプやバーベキュー、幼稚園や小中学校の野外授業などで利用されるほか、“リバーフェスタ in 雄物川”などのイベントが開催されます。

河川公園にて魚のつかみ取り

町立民家苑・木戸五郎兵衛村

「町立民家苑・木戸五郎兵衛村」は明治時代から昭和初期に立てられた茅葺き家屋を復元したものです。そこに見られる農村文化を次世代に継承するとともに、新たな地域文化の発信基地を目指し整備されたものであります。

雄物川河畔の丘陵地に並び立つ 2 つの温泉施設「三吉山荘」と「えがおの丘」は豊富に湧き出る温泉で、雄大な自然と眼下に流れる雄物川を見渡すことができ、訪れる人々のリフレッシュゾーンとなっています。
また、ここでは秋になると町の特産品である松茸を使った料理を食べることができ、県内外から多くの人が訪れます。

新潟県

荒川町（あらかわまち）

風と緑と人、いきいき荒川（ふるさと）　荒川町

【データ】
- 人口：11,704 人　　世帯数：3,376 世帯
- 面積：36.71km^2
- 市町村の木：サザンカ
- 名産、特産物
  クロッカス、岩船産コシヒカリ、村上牛、サフラン酒
- 主な祭り、行事など
  あらかわ大祭（８月）
  各集落の伝統芸能・獅子舞(8 月)

・街の特長

清流荒川での鮎釣り(豊かな水量と本州屈指の水質)

あらかわ町営ゴルフ場（県内唯一の河川敷内ゴルフ場)

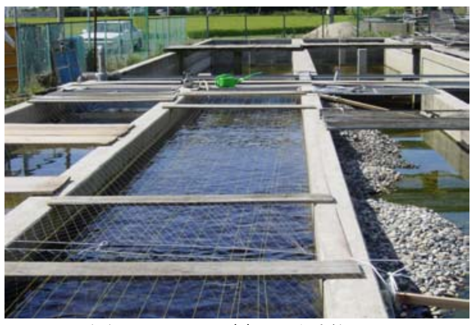
高坪山(登山コース)

クロッカス(日本一の生産量)

村上牛(荒川産)

伝統芸能(獅子舞)

・川を利用した住民の取り組み


サケ・マス等の孵化場

サケの孵化作業

鮎の放流

富山県

しょう　がわ　まち
庄　川　町

きらり庄川　ゆたかな自然　ゆめ未来

【データ】
・人口：7,268 人　　世帯数：2,037 世帯
・面積：30.77km^2
・市町村の花：山吹　　木：柚子
・名産、特産物
　　鮎、ゆず、木工製品、水稲種子
・主な祭り、行事など
　　庄川町観光祭　　（６月）
　　庄川水まつり　　（８月）
　　庄川ゆずまつり　（１１月）

　庄川町は、江戸時代より庄川上流や飛騨の山林伐採による木材運搬として、庄川の流れを利用した流送が盛んに行なわれてきました。その流送による材木の一大集散地として栄え、その後木材が豊富なところから、挽物（ひきもの）木地師が移住しロクロによる木工技術を伝播しました。また、昔から暴れ川だった庄川は、江戸時代前期に松川除（まつがいけ）と呼ばれる堤防の大工事が完成し、庄川の治水がなると共に開墾され、その頃から種田地区では、良質の水稲種子（種もみ）の生産地として知られ、現在では全国一の生産量を誇っています。

　町では、川との歴史的なつながりから生まれた庄川水まつり「流木乗り選手権大会」、挽物（ひきもの）木地を一同に展示販売する「木工まつり」、松川除（まつがいけ）の堤防をコースとする「庄川清流マラソン大会」、農家の田祭（たまつ）りから始まった庄川町観光祭「夜高行燈」などを開催し、町の活性化に力を注いでいます。また、今年は町制施行 50 周年の記念すべき年であり、記念事業として清流庄川で育った鮎をメインにした「庄川あゆまつり」を開催しました。

　今後とも、庄川が育んだ素晴らしい自然や景観・素材を後世に残すため、庄川との共生の中で、人間性豊かな活力ある町づくりを推進していきます。

岐阜県

いびがわちょう 揖斐川町

人と自然が健康でいきいきしたまち

【データ】
・人口：19,165 人　世帯数：5,472 世帯
・面積：46.32km^2
・市町村の花：サツキ　木：キンモクセイ
・ 名産、特産物
　美濃いび茶、いび米
・ 主な祭り、行事など
　揖斐祭り　（５月）
　いびがわの祭り　（８月）
　いびがわマラソン（１１月）

揖斐川全景

岐阜県の南西部に位置し、町の真ん中を流れる揖斐川の豊かな恵みを受けながら、古くから揖斐地域の交流の拠点として、川と共に発展してきたのが揖斐川町です。

揖斐峡

揖斐・関ヶ原・養老国定公園内にあるこの湖は、西平ダムの建設によってできた人造湖です。季節ごとに姿を変えるその美しさは何度でも訪れてみたくなります。

揖斐祭り

毎年５月に行われる三輪神社の例祭です。江戸時代に始まったと伝えられています。
華やかな軕と、そこで演じられる子供歌舞伎は見ものです。

いびがわマラソン

１１月上旬、町をあげて盛大に行われます。東海３県で始めて公認コースを使用したマラソン大会で、フルマラソンとハーフマラソンに7,000 人ほどのランナーが挑みます。
今年は１５回記念として趣向を凝らしたイベントを企画しています。

春日局公園

徳川三代将軍家光の乳母として、大奥で絶大な権勢をふるった春日局。
当時白樫城主であった斉藤利三の娘としてこの地で生まれたと伝えられています。

やな

８月から１０月にかけ天然アユを生け捕るための「やな」が設けられ、さまざまな鮎料理がたんのうできます。
清らかな流れの中で育った鮎の味を楽しんでください。

揖斐川本流クリーン大作戦

本町を中心に活動するＮＰＯ法人「いびがわミズみずエコステーション」と揖斐川中部漁業協同組合が主催し、住民らが河川敷の清掃作業を実施しています。

特産物
いび茶
いび米

静岡県

ふ　じ　かわちょう
富士川町

ぬくもり交流・やさしさ実感・ときめき発見
富　士　川　町

【データ】
・人口：17,492 人　 世帯数：5,311 世帯
・面積：30.92km^2
・市町村の花：ふよう　　木：まき
・名産、特産物
　　キウイ、しいたけ
・主な祭り、行事など
　　大観音祭　　　　　（３月）
　　ふじかわ夏まつり（８月）
　　キウイマラソン　（１１月）

＊　富士川楽座
「道の交流が人の交流を生みだします」
富士川楽座は、東名高速道路「富士川ＳＡ」と県道富士川身延線「道の駅」が施設を共有した多機能型複合施設です。
ここには、レストラン、バーチャルシアター、物産販売等質の高いサービスを提供しています。

＊　一里塚
江戸から 37 番目の一里塚です。ここでは、茶店があって名物の「栗の粉餅」が旅人を迎えました。

＊　野田山健康緑地公園
6,500 ㎡の平坦な芝生広場の中で、キャンプ、バーベキュー等楽しめます。

＊　富士川で遊ぼう（子供体験学習）
生涯学習の一環として富士川を利用した子供体験学習を毎年 7 月に行っています。

＊　富士川河川敷憩いの広場
10.2ha スポーツ広場では、野球、サッカー、テニス等が楽しめます。
富士山がバックスクリーンです。

静岡県

おおいがわちょう
大井川町

共に生きるまち 共に創るまち おおいがわ

～私たちの知恵と汗で未来を拓く～

【データ】
・人口：23,606 人　世帯数：6,792 世帯
・面積：24.54km^2
・市町村の花：すいせん　木：まき
・名産、特産物：桜えび、シラス、志太梨、トマト
・主な祭り、行事など
国の重要無形民俗文化財「藤守の田遊び」（3月）
吉永八幡宮大祭大名行列（3年に1回・9月）
踊夏祭<おどらっかさい>（7月）

当町は、大井川河口左岸に位置する、豊かな自然と豊富で良質な地下水に恵まれた町です。

一級河川「大井川」は、約１ｋｍの川幅ですが、水量が少ないこともあって河口から10数ｋｍにわたり、約 100ｍの高水敷が広がっています。平成 6 年の「全国川サミット in 大井川」を契機に始まった、大井川の河川敷のみを利用した全国初のフルマラソンコース「リバティ」の整備もほぼ完了し、平成 15 年の静岡国体では、デモンストレーション競技としてマラソンが開催されることとなっています。

大井川河口上空より撮影

また、当町は平成 11 年４月に「大井川町地域参加のまちづくり条例」が施行され、町内 50 のまちづくり委員会が地域住民の合意形成のもと、特色ある活動が展開され、住民主体のまちづくりが進められています。

大井川河川敷陸上競技場「リバティ」

昨年度から、「踊りがまちを揺らす　踊りがまちを変える」を合言葉に始まった「踊夏祭（おどらっかさい）」、砂浜の復活と海辺の賑わいを取り戻すため、50 年ぶりに復活した「トーロン（灯籠）」は、住民の手により盛大に行われています。

まちづくり活動風景

第２回　踊夏祭風景

５０年ぶりに復活したトーロン

大井川町名産品

桜えび

志太梨

三重県

宮川村（みやがわむら）

交流と共感による
日本で一番美しい村づくり

【データ】
・人口：3,985 人　　世帯数：1,594 世帯
・面積：307.54km^2
・村の花：ホンシャクナゲ　　木：杉
・名産、特産物
　ナチュラルウオーター「森の番人」、
　きゃらぶき、朴の木だんご
・主な祭り、行事など
　ふるさと宮川山村フェア（１１月）

台高山脈を源とし、伊勢湾に注ぐ清流「宮川」の最上流部に位置するのが宮川村です。
宮川の流れは春には桜、夏は新緑、秋には紅葉の彩りを育み、冬には大台ヶ原の雪解け水を約１００キロの道程を経て伊勢湾に運んでいます。

春夏秋冬、様々な姿を見せ私達を楽しませてくれる「宮川」が一番の賑わいを見せる季節が「夏」、６月１日の「鮎の解禁」がその始まりを告げる合図となります。村人の他、県内外から訪れる多くの人々が釣竿を垂れ、元気一杯泳ぐ姿があちらこちらで見られるようになります。

しかし、ほんの少しの心ない人の捨てるゴミが近年問題となってきているため、美しい自然環境を守ろうと、村では日本で一番厳しい環境条例を施行し、環境パトロールを実施するなど啓発に努めるとともに、毎年８月の第４日曜には村内全域で環境クリーン運動を行い、住民参加による環境活動を行っています。

また、宮川の最上流域に位置する村としてきれいな水を下流域に送り出すために、平成１２年度からは下水道と合併浄化槽による生活排水処理対策事業にも取組んでいます。

村の若者達が、「宮川」の水を地域資源として活用したいと取組んだ「森の番人」の製造販売も今年で９年目を迎えました。

水の流れ、水を育む森、今後も宮川村は、豊かな自然との共生を進め日本で一番美しい村づくりを目指します。

奈良県

とつかわむら
十津川村

やさしい福祉の村づくり
活力のある村づくり
知恵の豊かな村づくり

【データ】
・人口：4,910 人　世帯数：2,063 世帯
・面積：672.35km^2
・市町村の花：シャクナゲ　木：杉
・名産、特産物　ゆうべし、キノコ
・主な祭り、行事など
　シャクナゲ祭り（5月第２日曜日）
　日本一つり橋のゆれ太鼓（８月４日）
　玉置神社祭（１０月２４日）
　玉置神社祭（１０月２４日）

○十津川村の概要
十津川村の歴史は非常に古く、伝承によると神武天皇御東征の際に道案内に立った八咫烏が先祖ともいわれています。
本村の郷社として崇敬を集める玉置神社は崇神天皇の時代（ＢＣ３７ 頃）に創建されたとも伝えられています。
紀伊半島のほぼ中心に位置し和歌山、三重両県に接する奈良県最南部にあり、村の面積は約6 ７ ２ 平方キロメートルで、奈良県の5 分の1 を占める。
人口密度7 ．２ ／平方キロメートル。村の周囲は1 ０００ｍ級の山々が連なる森林と水資源に恵まれた日本一の面積を有する村です。
明治2 ２ 年の大水害で2 ６００名（１６８ 名が死亡）が北海道へ移住し、現在の新十津川町を築きました。
村では今「紀伊山地の霊場と参詣道」を平成1 ６ 年にユネスコの「世界遺産」となるよう取り組んでいます。

●名所

谷瀬のつり橋	“日本一のつり橋”。長さ2 ９７ｍ、高さ5 ４ｍの鉄線橋。
玉置山	標高1 ０７６ｍ。頂上からは太平洋が望める。頂上近くに玉置神社がある。
瀞八丁	奈良、和歌山、三重県にまたがる渓谷で、吉野熊野国立公園の代表的な景勝地。
釈迦ヶ岳	“日本百名山”。標高1 ７７９ｍ。修験道の山。
笹の滝	“日本の滝百選”。下流部は奈良県の「やまとの水」の指定地。
紀伊半島森林植物公園	「2 １ 世紀の森」　紀伊半島に自生する植物の見本園。 ５ 月には1 ２０種類、１０，０００本のシャクナゲが満開となる。

●観光

温　泉	奈良県内唯一の高温湧出温泉が3 カ所にある。（湯泉地温泉、十津川温泉、上湯温泉）
道の駅「十津川郷」	国道1 ６８ 号　村中央部にあり観光の拠点、観光客のオアシスとなっている。
歴史民族資料館	村中央部にあり村関連の史料等を展示。
昴の郷	蛇行河川をショートカットして広場をつくり第三セクターによる「ホテル昴」を経営している。
奥吉野発電所	村の北東部にあり関西電力㈱揚水発電所。（発電量1 ２０万キロワット）
旅館、民宿	旅館（1 ６ 軒）　民宿（2 ２ 軒）

●イベント

「シャクナゲ祭り」	５ 月第2 日曜日に開催。
「ゆれ太鼓」	毎年8 月4 日（はしの日）に行われる。日本一の「谷瀬のつり橋」の上で和太鼓を披露する。
「夏まつり」	毎年8 月1 ７ 日に昴の郷で開催される。村内各地区の盆踊り保存会（6 地区）による盆踊り大会。
「玉置祭り」	毎年1 ０ 月2 ４ 日に開催される。玉置神社の大祭。
「昴マラソン大会」	１ 月最終日曜に開催。

兵庫県

加古川市（かこがわし）

ひと·まち·自然がきらめく
清流文化都市　加古川

【データ】
・人　口：266,352 人
・世帯数：91,700 世帯
・面　積：138.51km^2
・市町村の花：ツツジ　　木：黒松
・名産、特産物
　　靴下、タオル、鉄鋼
・主な祭り、行事など
　　加古川まつり　　　　（　８月）
　　加古川ツーデーマーチ（１１月）
　　加古川マラソン　　　（１２月）

【ふるさと自慢】

・聖徳太子ゆかりの名刹・播磨の法隆寺「鶴林寺」
・加古川名物「かつ飯」

【川を利用したイベント】

秋を歩く「加古川ツーデーマーチ」

＜テーマ＞
『風の色、水の音、自然の香り
　　　　歩けば楽し播磨の道』

（平成１３年度は２日間で
　延べ 15, 000 人のウォーカーが参加）

河川敷を走る
　　「加古川マラソン」

加古川まつりの親水プログラム
　　「川と遊イング」

兵庫県

<ruby>揖保川町</ruby>（いぼがわちょう）

花と緑と川の町

【データ】
- 人口：13,107 人　　世帯数：3,840 世帯
- 面積：23.66km^2
- 町花：サルビア　　木：キンモクセイ
- 名産、特産物
  トマト、醤油、エアバッグ
- 主な祭り、行事など
  花と緑のフェスティバル（5月）
  揖保川いかだ下り大会　（7月）
  産業祭・大綱引き大会　（10 月）

揖保川町は兵庫県の南西部に位置し、JR 山陽本線・新幹線、山陽自動車道や国道２号など交通アクセスの利便性により、都市近郊型ベッドタウンとして躍進しています。

平成 11 年に完成した「ヤッホの森」の展望デッキからは町内が一望でき、揖保川の川面がキラリと光り、晴天時には、遠く明石海峡大橋も眺望でき、揖保川町の新名所となっています。

国土交通省による低水護岸整備を基に、500mトラック、サッカーフィールド、テニスコートなど、「きらめきスポーツ公園」面積約６万㎡を平成 10 年 4 月に整備し、人びとの健康づくりに努めています。

水辺の楽校プロジェクト事業により、多目的芝生広場やせせらぎ水路、全国でも珍しい水上ステージなど「揖保川せせらぎ公園（面積約 12 万㎡）」を平成 12 年５月に整備し、親水機能の向上を図っています。

河川敷公共用地が創出できたことに伴い、花壇管理や除草、ゴミ拾いなどの河川ボランティアを呼びかけ、現在、６団体約 400 余名もの賛同を得ることができました。

広大な河川敷の地域資源を活用して、2001 年から 2001 人による「500m大綱引き大会」を継続実施し、本町の活性化及び健康づくりなど、ハード面整備からソフト事業への展開を図り、川を活かしたまちづくりを進めています。

岡山県

かもがわちょう

加茂川町

ふるさとに出会えるまち
加　茂　川

【データ】
・人口：6,290 人　　世帯数：2,564 世帯
・面積：141,15km^2
・　市町村の花：モモ　木：スギ
　　鳥：ブッポウソウ
・　名産、特産物
　　果樹、花き、舞茸、加茂川地どり、
　　ブラウンスイスアイス・プリン
・　主な祭り、行事など
　　吉備高原夢花火大会（８月）
　　加茂大祭（１０月）
　　産業まつり（１１月）

加茂川町は、岡山県のちょうど真ん中に位置する高原のまちです。

単に地理的に中心ということばかりでなく、岡山県を代表する真心あふれる人づくりの中心地として、自信と誇りのもてる格調高い日本一の町づくりに挑戦しています。

町の主な産業は、水稲のほか果樹（桃）、花き（バラ等）、酪農、施設野菜など農業中心の町です。

町内を流れる川は、いずれも自然豊かな河川環境を残しており、大切な水資源、環境資源となっています。

鳴滝森林公園キャンプ場

加　茂　大　祭

毎年、町では私たちの暮らしに密着した「郷土の川」を守っていくために、河川の水質や水生生物の生息調査を行っています。

また、家庭からの雑排水等の流出が、河川の汚濁のもっとも大きな原因であることから家庭でできる浄化対策として、手作り石鹸やクリーンネットの使用推進、集落排水施設の整備や合併浄化槽の普及など生活排水の浄化整備を実施しています。

町の景勝地（県立自然公園に指定）では「宇甘渓」があり、河川や渓谷を保全するために、毎年ボランティア団体を中心としたイベントや清掃作業も実施しています。

新たに発足（3 年前）した「豊岡川の清流を守る会」では、毎年夏に都市住民を豊岡川へ招き、「ホタルを見る会」を行うなど、環境保護への「動き」が高まりつつあります。

宮崎県

きたがわちょう
北川町

ホタルの里　きたがわ

【データ】
・人口：4,779 人　　世帯数：1,514 世帯
・面積：279.91km^2
・市町村の花：つつじ　　木：かし
・　名産、特産物
　　鮎料理、猪料理、しきみ、北川焼
・　主な祭り、行事など
　　鏡山ｽｶｲｽﾎﾟｰﾂﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ（５月）
　　北川ホタルまつり　　（６月）
　　北川ふるさと夏まつり（８月）

北川町は、北川の本流「本川」、支流の「小川」そして、「祝子川」の３本の川を有する清流日本一の川の町です。

観光名所
・大崩山と祝子川渓谷
・祝子川温泉美人の湯
・西郷隆盛宿陣跡資料館
・香花谷観音滝
・落水の滝
・森谷観音滝

新しい川遊びへの挑戦として行われた、第１回ダービーダックレース in 北川。
3,000 個のおもちゃのアヒルを流しました。

５月下旬～６月中旬に行われるホタルまつり。
ホタルの乱舞を見るために、たくさんの人が訪れます。

８月に行われる北川川下り大会。
ゆったりとした流れに身を委ね、川を下っていきます。

住民の取り組みとして行われる河川一斉清掃。
毎年７月の最初の日曜日に町民総参加で行われます。

カ

東京都
かつしかく
葛飾区

水と緑ゆたかな心ふれあう
住みよいまち **葛飾**

【データ】
- 人　口：431,384 人
- 世帯数：185,971 世帯
- 面　積：34.84km^2
- 市町村の花：ハナショウブ
　　　木：シダレヤナギ
- 名産、特産物
　　新宿ネギ、江戸切子
- 主な祭り、行事など
　　・飾しょうぶまつり（６月）

柴又帝釈天（観光・名勝）

柴又帝釈天は山号を経栄山、寺号を題経寺といい、江戸の昔から知られた古刹ですが、今では山田洋次監督の寅さんシリーズで全国的に有名になりました。

平成９年秋、帝釈天の裏手、柴又公園内に「寅さん記念館」が完成し、今年７月に 160 万人を超えるなど、新しい観光スポットとして全国から大勢の寅さんファンが訪れています。

・飾しょうぶまつり（イベント）

江戸時代から花菖蒲の名所として知られる・飾。これも豊かな水の恵みのひとつです。

毎年６月に堀切菖蒲園と東京都立水元公園を会場に菖蒲まつりが行われ、堀切菖蒲園では約２００種６千株、水元公園では約１００種１万４千株の花菖蒲が咲き誇り、観光客の目を楽しませています。

みんなで掘った小川で生物調査（川を利用した住民・サークル活動）

土砂で埋められた農業用排水路を住民参加で河川水の流入するビオトープとして再生しました。

参加者の中から高校生や地域住民が自主的に「生き物調査団」を結成し、専門家を巻き込んで月１回の頻度で魚類調査を実施しました。

４０種の魚類が捕獲され、１地点としては都内第１位の種類を記録しています。

千葉県

まつど　し
松　戸　市

住んでよいまち・訪ねてよいまち・まつど
緑花清流によるふるさとづくり

【データ】
・人口：474,381 人　世帯数：195,222 世帯
・面積：61.33km²
・市の花：つつじ他　木：ユーカリ他
・特産物：梨、矢切ねぎ
・祭り、行事
　桜まつり（４月）・レンゲ祭り（４月）
　緑と花のフェスティバル（４月）
　花火大会（８月）・コスモス祭り（９月）
　松戸まつり（１０月）・七草マラソン（１月）

戸定邸・戸定歴史館

戸定邸は、江戸幕府第１５代将軍・徳川慶喜の実弟である徳川昭武が建てた邸宅で、質実剛健の水戸徳川家の遺風を今に伝えています。

ここには、徳川慶喜もたびたび訪れ、昭武と一緒に趣味の写真を楽しみました。

２人が撮った写真の数々から、当時の松戸をしのぶことができます。

矢切の渡し

伊藤左千夫の小説「野菊の墓」で政夫と民子の悲しい恋の舞台にもなりました。

川面を渡る手漕ぎの船の櫓の音やヒバリ、ユリカモメの声などは、柴又帝釈天界隈と合わせて残したい日本の音風景１００選に選ばれました。

江戸川松戸フラワーライン整備事業

江戸川河川敷にある国土交通省古ヶ崎浄化施設（地下式）の上部 19,100 ㎡を借りて春はレンゲ、秋はコスモスと年２回花畑を整備しています。

種まき、草刈り等の花畑管理はフラワーボランティアや河川愛護団体、地元町会、市などで組織する実行委員会が一般市民の参加を得ながら行っています。

２１世紀の森と広場

２１世紀に豊かな緑を残すため、十数年の歳月をかけて整備された自然尊重型の総合公園。

池のほとりにあるパークセンターは、みどりの情報発信基地として、市民の自然に関する好奇心にこたえています。

市川市 紋章

千 葉 県

市川市（いちかわし）

ともに築く　自然とやさしさがあふれる
文化のまち　いちかわ

【データ】　※平成14年8月1日現在

・人　口：461,028 人

・世帯数：202,871 世帯

・面　積：56.39 km^2

・市川市の花：バラ　　木：クロマツ

・特産物：梨、海苔、銅製品、行徳神輿

・主な祭：花火大会（8月）
市川市民まつり（11月）

○市川市の特徴

市川市は千葉県北西部に位置し、江戸川を隔てて東京都江戸川区、・飾区と相対してます。都心から２０ｋｍ圏内のためベットタウンとして発展してます。また、市川に人々が住み始めたのは、今から約２万年前のことといわれており、貝塚など歴史的遺産も多く、大学や高校などの教育施設、文化会館や各種博物館も整備され、古くから京葉地区の文教都市として発展してます。

北部には梨栽培などの農業が盛んで屋敷林などの緑も多く、南部は東京湾に臨み京葉工業地帯の一翼を担っているとともに新しい都会的な住宅都市が形成されています。ちなみに・・・市川市の中でも日本一？と自負する自慢は、梨と中央図書館です。

○市川市の四季

春

桜満開！里見公園

夏

夏のメイン！江戸川花火大会

秋

秋深まる！じゅんさい池公園

冬

雪舞い降りる！中山法華経寺

○市川市の取り組み

市川市では、平成１３年度に概ね 2025 年を目標とした長期的な将来展望について「新総合計画」を策定した。これにより、国際化、文化、防災、福祉、環境など行政運営を総合的・計画的に進める。

また、市川市では電子市役所に力をいれており、コンビニエンスストアに設置した情報端末や、家庭のパソコンからの市施設利用予約や情報検索ができるサービスなどＩＴ化を進めており、電子行政サービスにも積極的に取り組んでいます。

○江戸川をステージとした活動

江戸川・水フェスタ in いちかわ

平成１１年度より、沿川自治会や企業、団体を中心とした実行委員会を組織し、江戸川を舞台に総合的な夏のイベントを目指し開催！

Ｅボート対抗レース

エコ度の高いＥボートでトーナメント戦を行います。老若男女、白熱しました！

手作りイカダ競走

各チーム、工夫を凝らしたイカダで競走ならぬ競装！早さよりアピール度が肝心

ラブリバー　～花の広場～

江戸川の河川敷という、オープンスペースを活かし、市民が憩える花壇整備を行政が施し、市民がお世話をしています。

妙典花壇

妙典に住む若奥様達が「妙典花クラブ」を結成！スーパー堤防上の花壇で花を御世話してくれてます

大和田花壇

大和田では「さつき会」の御婦人方が慣れた手つきで花壇の手入れをしてくれてます

東京都
えどがわく
江戸川区

創造性豊かな文化はぐくむ
水辺と緑かがやく
安心と活力ある
生きる喜びを実感できる都市

【データ】
・人口：645,737 人　世帯数：279,918 世帯
・面積：49.09km^2
・市町村の花：ツツジ　　木：クスノキ
・名産、特産物
　　小松菜、金魚
・主な祭り、行事など
　　小岩菖蒲園まつり（6月）
　　江戸川区花火大会（8月）
　　江戸川区民まつり（10 月）

本区は東京都の東端部に位置し、東に江戸川、西には荒川がとうとうと流れる、大河川と海に囲まれた水辺豊かな街です。

本区では、早くからその特徴を活かしながら、水と緑豊かなまちづくりを積極的に進めてきました。新川では全国初の河川下駐車場が整備され、全国の先駆けとなった古川をはじめ、今では身近に自然に触れられる、23 路線もの親水公園・緑道が区内を縦横に流れ、「水と緑の遊水都市」として全国に誇り得る環境が着々と実現しつつあります。

江戸川の河川空間は魅力ある環境資源であり、広大な河川敷に野球・サッカー場等が数多く整備され、都市の貴重な空間として、多くの区民が利用しています。また、１万４千発の花火が真夏の夜を彩る花火大会、菖蒲園まつりなどのイベントの舞台にもなっています。

２．パンフレット等による広報

イベントの開催に際して、事前にポスターおよび案内チラシを作成し、それぞれ主に以下の場所等に掲示、もしくは配布した。

また、サミット当日は、開催概要をわかりやすくまとめたパンフレットを作成し、各自治体からの参加者および一般参加者の方々に配布した。

ポスターおよび案内チラシの主な掲示、配布場所

主な掲示・配布場所等	ポスター	チラシ
区掲示板	○	
区内駅スタンド	○	○
本庁舎	○	○
各事務所（５事務所）	○	○
区内施設（２４箇所）	○	○
図書館	○	○
小学校	○	
中学校	○	
国	○	○
・飾区	○	○
市川市	○	○
松戸市	○	○
参加自治体	○	○
都バス		○
京成バス	○	
区議会議員		○
協賛団体		○

ポスター（サイズ：515×363）

第11回 全国川サミットin江戸川
暮らしにとけ込む にぎわいの川
――都市の中の川を考える
2002.10.12[土] 江戸川区総合区民ホール
■午前の部［9時30分～］●江戸川を考えるワークショップ●演劇上演●親水まちづくりシンポジウム（日本建築学会）
■午後の部［13時～］●基調講演（世界水フォーラム事務局長尾田栄章）●意見発表●江戸川未来図創作
総合コーディネーター：玉井信行　コーディネーター：森 良　総合司会：須磨佳津江
主催：全国川サミット連絡協議会・江戸川区
後援：国土交通省江戸川工事事務所・東京都・葛飾区・松戸市・市川市・（財）東京都公園協会・第3回世界水フォーラム事務局
協賛：（財）河川環境管理財団・（社）関東建設弘済会・（社）日本建築学会
問い合わせ：第11回全国川サミットin江戸川実行委員会事務局（江戸川区土木部計画課内）
東京都江戸川区中央1-4-1 Tel.03-5662-8393 ホームページ http://www.city.edogawa.tokyo.jp/
11 JAPAN RIVER SUMMIT in EDOGAWA

チラシ表面（サイズ：Ａ４）

第11回全国川サミットin江戸川

暮らしにとけ込む にぎわいの川——都市のなかの川を考える

川サミットとは

河川の名前を自治体名とする全国の区市町村が集まり、未来に向けての「川と流域との係わり」や、「川との共生」を探り、川の素晴らしさを全国に向けて発信していく、年に1回の貴重な交流の場で、今回で11回目となります。

江戸川では今

7つの一級河川と東京湾に面し、河口部で低地に位置する江戸川区は、昔から度重なる水害に見舞われ、その脅威から克服する努力を積み重ねてきました。

そして今、区内を縦横に流れる親水公園等とともに、区の面積の2割を占める水辺空間は、まちの魅力を高める重要な景観要素としてだけでなく、様々に活用され、日々の暮らしの中に深く溶け込んでいます。

これからは、都市の中にあって身近な癒しの空間であるこの豊かな水辺を、欠けがえのない環境資源として、皆さんと一緒に一層利用を進め、交流を深めていくことにより、次の世代に伝えていくことが大切です。

今回の川サミットでは

あらゆる世代の方々が気軽に楽しみながら「川」について考えられる内容にしています。特にメインとなる「江戸川未来図」は、午前の部のワークショップの成果をもとに、会場の皆さん全体で創りあげていきます。それに向けて、現在、住民の皆さんによる様々なジャンルでの活動が江戸川で行われています。

このサミットを契機に、川を舞台にした活動がさらに高まり、ふれあいの輪がもっと広がっていくことを願っております。

多くの方々のご参加を心よりお待ちしています。

■問い合わせ
第11回全国川サミットin江戸川実行委員会事務局
（江戸川区土木部計画課内）
東京都江戸川区中央1-4-1 Tel. 03-5662-8393
http://www.city.edogawa.tokyo.jp/

お知らせ

［第3回世界水フォーラム］

2003年3月16日～23日

京都・滋賀・大阪を結んで開催

（事務局）
東京都千代田区麹町2-2-4麹町YTビル5F
Tel.03-5212-1645 http://www.worldwaterforum.org/jpn/

プログラム

午前の部〔9:30～〕
江戸川を考えるワークショップ

● ワークショップ分科会　　会場：各会議室

これまでの活動を通して、川のありかたを追求します

★流域の連携を考える ★江戸川の生き物考察 ★ビオトープをつくろう
★水上レクリエーションのすすめ ★環境学習における河川敷の活用（小中学校）
★誰もが利用できる川づくり（バリアフリー）

● 演劇上演　　会場：小ホール（5F）

笑いとともに、江戸川の歴史や名所を紹介します

［かっぱの恩返し］【劇団彩】

● 親水まちづくりシンポジウム【日本建築学会】　　会場：研修室（4F）

午後の部〔13:00～〕
全国川サミットin江戸川　　会場：太陽の間（2F）

総合司会：NHK「趣味の園芸」キャスター 須磨佳津江

● 開会

● 基調講演

「世界の川では今……」　　世界水フォーラム事務局長 尾田栄章

● 意見発表

★夏休み親子江戸川探検報告
★江戸川を考えるワークショップ発表

総合コーディネーター：金沢大学教授・東京大学名誉教授 玉井信行
コーディネーター：エコ・コミュニケイションセンター代表 森　良

● 江戸川未来図創作

会場の皆さん全員で、明日の江戸川を考えます

●閉会

夜間の部〔18:00～〕
交流会（予め申し込みが必要です。会費：2,000円）

●ゲスト：橘家圓蔵　葛西囃子保存会　他

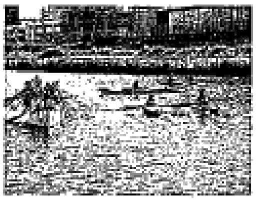
10日～12日
江戸川体験コーナー　　会場：展示ホール（1F）

★江戸川の生き物 ★川遊び ★カヌー ★江戸川工事事務所コーナー
★第3回世界水フォーラムコーナー　他

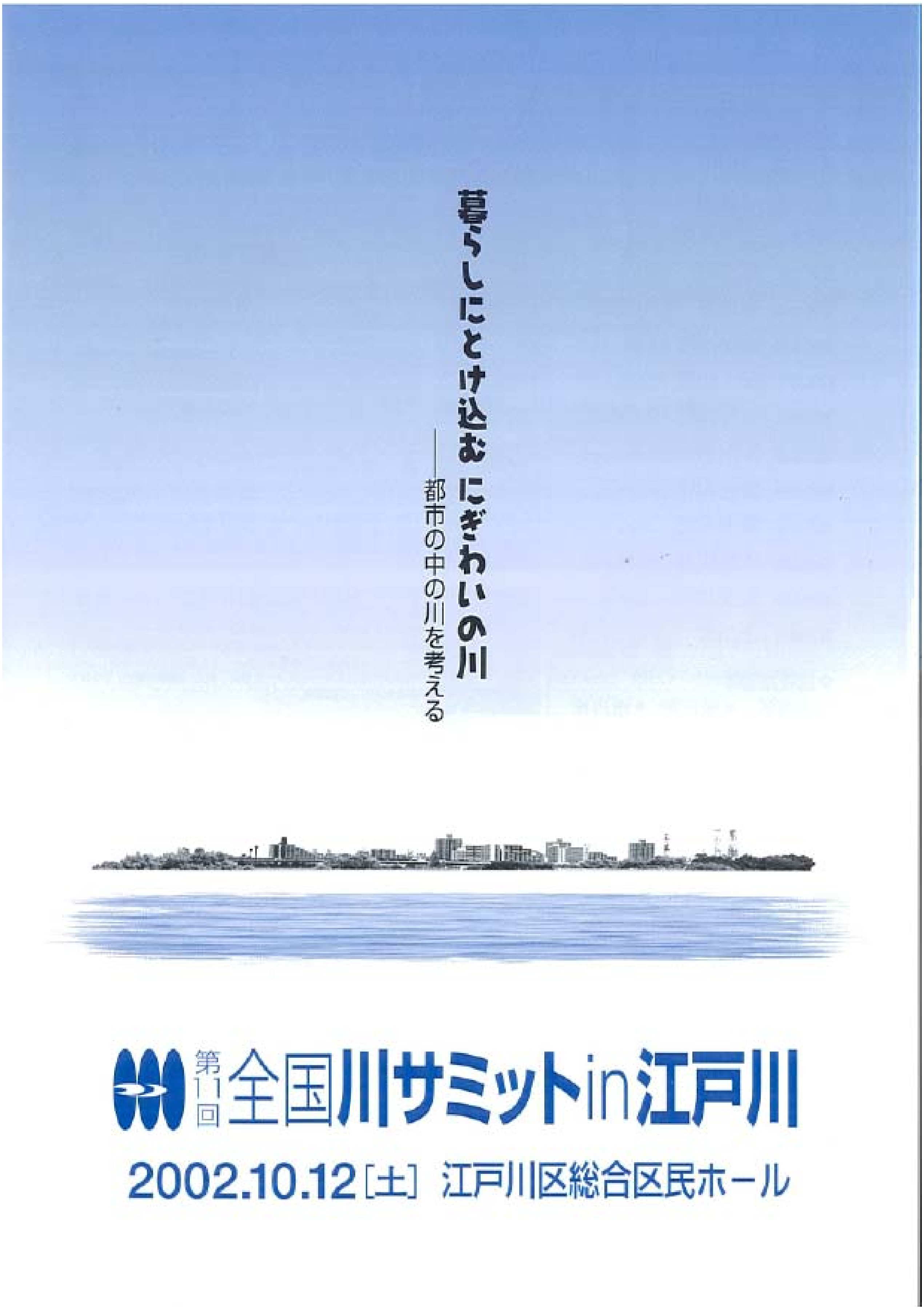
江戸川で遊ぶ仲間づくりの活動

生き物グループ

遊びグループ


カヌー・ボート

チラシ裏面（サイズ：Ａ４）



パンフレット表面（サイズ：Ａ３二つ折り）

11
JAPAN
RIVER
SUMMIT
in
EDOGAWA

編集・発行
第11回全国川サミットin江戸川実行委員会事務局（江戸川区土木部計画課内）
東京都江戸川区中央1-4-1　Tel. 03-5662-8393　ホームページ http://www.city.edogawa.tokyo.jp/

主催：全国川サミット連絡協議会・江戸川区
後援：国土交通省江戸川工事事務所・東京都・葛飾区・松戸市・市川市・（財）東京都公園協会・第3回世界水フォーラム事務局
協賛：（財）河川環境管理財団・（社）関東建設弘済会・（社）日本建築学会

パンフレット裏面（サイズ：Ａ３二つ折り）

11th JAPAN RIVER SUMMIT in EDOGAWA—PROGRAM

◆参加自治体

■北海道 鵡川町 〔むかわちょう〕
■秋田県 雄物川町 〔おものがわまち〕
■東京都 江戸川区 〔えどがわく〕
■新潟県 荒川町 〔あらかわまち〕
■富山県 庄川町 〔しょうがわまち〕
■岐阜県 揖斐川町 〔いびがわちょう〕
■静岡県 富士川町 〔ふじがわちょう〕
■静岡県 大井川町 〔おおいがわちょう〕
■三重県 宮川村 〔みやがわむら〕
■兵庫県 加古川市 〔かこがわし〕
■兵庫県 揖保川町 〔いぼがわちょう〕
■奈良県 十津川村 〔とつかわむら〕
■岡山県 加茂川町 〔かもがわちょう〕
■宮崎県 北川町 〔きたがわちょう〕

◆流域自治体

●葛飾区 ●松戸市 ●市川市

◆プロフィール

基調講演
尾田栄章〔おだひであき〕第3回世界水フォーラム事務局 事務局長
1941年奈良県生まれ。昭和42年建設省入省。平成7年建設省中部地方建設局長。平成8年建設省河川局長。平成10年退職。
現在2003年3月開催の「第3回世界水フォーラム」に向けて多忙な日々を送る一方で、「この川を春の小川に戻そう」とNPO渋谷川ルネッサンス代表としても活躍中

コメンテーター
玉井信行（金沢大学教授・東京大学名誉教授）
1941年愛知県生まれ。専門分野：河川工学、河川生態環境学
河川環境管理財団理事、河川技術検討委員会委員（国土交通省）、「川の自然再生」国際シンポジウム実行委員会委員長、第5回河川環境展実行委員会委員長、水門管理施設基本計画委員会委員長（東京都）など歴任。
著書：河川生態環境評価法(東京大学出版会)など。

コーディネーター
森　良（NPO法人エコ・コミュニケーションセンター代表）
江戸川区に生まれ育つ。江戸川や荒川、新中川でよく遊んだ。30過ぎてから子供たちの自然教室のボランティアを10年、環境教育のNPOを運営して10年、今後は持続可能なアジアと地域を担う人作りに振り向ける予定。現在、ECOM代表。学習院大学で非常勤講師。
著書：「地球となかよしはじめの一歩」(フレーベル館) など。

総合司会
須磨佳津江〔キャスター〕
東京女子大学卒業。日本放送協会(NHK)にアナウンサーとして入社。朝のニュースショーなど、報道番組を中心に担当し、結婚を機にフリーランスとなる。その後も「ニュースの窓」「テレマップ」など、NHKを中心としたキャスターを務め、現在「趣味の園芸」9年目キャスターとして活躍中。

◆プログラム

江戸川を考えるワークショップ

●9:30～ **ワークショップ開会あいさつ** 太陽の間（2F）
金沢大学教授・東京大学名誉教授 玉井信行

●10:00～ **ワークショップ分科会**

★ビオトープをつくろう	401会議室（4F）
★流域の連携を考える	402会議室（4F）
★江戸川生きもの考察	406会議室（4F）
★水上レクリエーションのすすめ（カヌー・ボート）	407会議室（4F）
★環境学習における河川敷の活用（小中学校）	303会議室（3F）
★だれもが利用できる川づくり（バリアフリー）	バンケットルーム・蓬莱（2F）

●10:20～ **演劇上演**（同時開催） 小ホール（5F）
「カッパの恩返し」【劇団彩】 笑いとともに、江戸川の歴史や名所を紹介。

●10:00～ **親水まちづくりシンポジウム**（同時開催） 研修室（4F）
(社)日本建築学会
講演内容 ▮親水施設と人間 ▮海浜利用と親水
▮まちづくりと親水 ▮これからの親水施設の展望

パンフレット中面左側（サイズ：Ａ３二つ折り）

11th JAPAN RIVER SUMMIT in EDOGAWA—PROGRAM

全国川サミットin江戸川　太陽の間（2F）

総合司会：須磨佳津江

●13:00～ 開会式

★オープニングビデオ「都市と川と人と…～遊水都市江戸川区～」
★参加自治体紹介
★会長挨拶　江戸川区長 多田正見
★来賓挨拶　国土交通省関東地方整備局長 渡辺和足
　東京都建設局長 小峰良介

●13:40～ 基調講演

「世界の川では今……」　第3回世界水フォーラム事務局 事務局長 尾田栄章

……………… 休憩 ………………

●14:30～ 意見発表

★夏休み親子江戸川探検報告
★江戸川を考えるワークショップ発表

●16:10～「江戸川未来図」創作

「こんな川にしたいな！」さあ、みんなで未来の江戸川をつくりましょう
コーディネーター：ECOM代表 森　良
コメンテイター：金沢大学教授・東京大学名誉教授 玉井信行

●17:15～ 閉会式

★サミット講評　流域自治体 他
★サミット宣言　江戸川区長 多田正見 他
★川サミット旗受渡　江戸川区→岡山県加茂川町（次回開催地）

交流会　桃源の間（2F）

●18:00～19:30　出演：葛西囃子/橋家圓蔵

江戸川体験コーナー ～われら江戸川に集う仲間～　展示ホール（1F）

●9:00～18:00

★生きものコーナー　★遊びコーナー　★環境学習コーナー
★江戸川区工事事務所コーナー　★第3回世界水フォーラム コーナー　他

パンフレット中面右側（サイズ：Ａ３二つ折り）

３．広報誌、新聞等の記事

サミットの開催にあたり、各新聞社や広報誌等に掲載されたサミットに関する記事を整理した。

朝日 14.2. 5

江戸川で川サミット

10月 20自治体が参加予定

一級河川の名前を自治体の名前にしている市区町村が集まる「全国川サミット」が、10月11日から13日まで江戸川区で開かれる。北海道から九州まで全国で51ある市区町村のうち、約20の自治体が参加する予定だ。シンポジウムや講演会などが行われ、「川と地域とのかかわり」をテーマに協議する。

サミットは92年に富山県庄川町で始まった。これまで北海道鵡川町、静岡県大井川町、兵庫県加古川市、三重県宮川村など10カ所で開いている。

江戸川区での開催は初めて。国や都のほか、葛飾区や千葉県松戸市、同県市川市など流域自治体とも協議し、4月に「実行委員会」を設立する。

大小さまざまな河川に囲まれた江戸川区。サミットでは、工場や家庭の排水で汚染された川を浄化し子どもたちが安全に遊べるように改良した「親水公園」を全国に先駆けて造ったことを訴える。広大な河川敷を整備し、野球場やサッカー場、菖蒲園などを造成したことも紹介する。

江戸川区は「参加する自治体から色々な意見を聞き、今後の河川利用に向けて生かしたい」としている。

朝日新聞（H14.2.5）

朝日　14.8.2

▽川サミット向け視察

江戸川区で1日、「全国川サミット」に向けて住民グループのリーダーなど15人が江戸川を船上視察し、意見交換を行った。今年の全国川サミットは、10月11、12の両日に同区で開催される。

朝日新聞（H14.8.2）

東都よみうり　14.8.9

全国川サミットin江戸川　10月開催

「全国川サミットin江戸川」が十月十一日から十三日まで、江戸川区で開かれる。

同サミットは、一級河川名と同じ名前の全国五十一の市区町村でつくる全国川サミット連絡協議会が毎年開催している。富山県庄川町での第一回以来今年で十一回目だが、首都圏および大都市部では初開催。

テーマは「暮らしにとけ込む、にぎわいの川～都市の中の川を考える」。地元の河川利用サークルや学校、江戸川流域の葛飾区や千葉県市川市、松戸市にも連携を呼びかけ、大都市の中での河川の役割を問い直す。

江戸川区総合区民ホール（同区船堀四丁目）をメーン会場に、ワークショップ、絵画や写真展、演劇グループによる江戸川の歴史などをテーマにした発表などが計画され、第二十五回「江戸川区民まつり」（十月十三日、都立篠崎公園で開催）も連携イベントと位置付けられている。

同区立上小岩第二小学校（同区北小岩八丁目、石田友法校長）の四年生（五十五人）は、同校近くを流れる江戸川をテーマにした「総合学習」に取り組んでおり、その研究成果を「サミット」で発表する予定だ。七月八日には、同区職員らの協力を得て、通常は立ち入り禁止の取水口付近でクロベンケイガニやウシガエルなど水生生物を捕獲したり、河川敷の植物や昆虫観察、水質調査を行った。

江戸川で水生生物を捕獲する上小岩第2小の児童。河川敷の植物や昆虫観察、水質調査の研究成果を「川サミット」で発表する予定だ

児童たちはすでに金町浄水場の見学や江戸川のスケッチなども行っており、今後も研究を重ねていく。

「サミット」に関する問い合わせは実行委員会準備室（同区土木部計画課内）☎5662・8393へ。

東都よみうり新聞（H14.8.9）

読売　14.10.4

川と同名の自治体集合！

江戸川で12日全国サミット

演劇や水生生物展示も

川の魅力を探る「全国川サミットin江戸川」が十二日、江戸川区総合区民ホール（船堀四）で開かれる。一級河川と同じ名前を持つ全国の自治体が参加するイベントで、今年で十一回目を迎えるが、関東地方での開催は初めて。今回は「都市を流れる川」をテーマに、江戸川の過去と現在を紹介する様々な催しを通じて、都市住民と河川のかかわり方を考える。

同サミットは十年前、富山県庄川町で初めて行われ、以後、地域を流れる一級河川の名称を自治体名としている市町村が持ち回りで開いてきた。これまでは〝町おこし〟を狙って地方で開催されることがほとんどだったが、江戸川区が主催する今回は、都市の川を題材に、その活用方法を考える場にしたのが大きな特徴だ。

同区内では、サミットで江戸川を多角的に紹介しようと、今年五月以降、地域住民が主体となって六つの分科会が発足。それぞれ「水上レクリエーション」や「ビオトープ作り」「生き物考察」などをテーマに活動を続けてきた。

サミット当日は、埼玉県滑川町や兵庫県加古川市など十四の自治体から、行政関係者らが参加。午前十時から「江戸川を考えるワークショップ」が開かれ、六つの分科会が、これまでの活動状況を報告するほか、江戸川の歴史や流域の名所を笑いとともに紹介する演劇「かっぱの恩返し」の上演や、江戸川に生息する魚や昆虫などの展示も予定されている。

午後は、ワークショップの成果が発表された後、参加者たちが意見を交換する。これを踏まえ、最後にサミット宣言「江戸川未来図」を採択。地域住民が交流を深め、その暮らしを豊かにしていくうえで、川が大きな役割を果たしていくことを参加者全員で再確認する予定だ。

読売新聞（14.10.4）

朝日　14.10.12

全国川サミット 江戸川区で開幕

全国の14自治体集合

一級河川の名前を自治体の名前にしている市区町村が集まる「全国川サミット」が11日から江戸川区で始まった。北海道鵡川町から宮崎県北川町まで14の自治体関係者が集まり、川と生きる地域の人たちとのかかわり方について話し合う。13日まで。

サミットは92年に富山県庄川町で始まり、兵庫県加古川市、三重県雲出川村など10カ所で開いており、江戸川区での開催は初めて。

この日は、参加者らが江戸川を小岩菖蒲園から葛西臨海公園まで船で水上視察。広大な河川敷を整備してできた親水公園や、護岸の様子を見学した。「江戸投網保存会」が、江戸時代からの伝統漁法の投網を披露するのも見た。

朝日新聞（14.10.12）

読売　14.10.13

川と共生目指して 江戸川でサミット

17区市町村参加

河川の名前と同じ自治体名の区市町村が全国から集まり、「川とのかかわり」や「川との共生」を探り、川の魅力を全国に発信しようという「全国川サミットin江戸川」が十二日、江戸川区総合区民ホール（船堀四）で開かれ、十七区市町村が参加した。

首都・東京での開催とあって、今回は、都市河川をいかに活用するかがテーマ。約千人が参加して、「環境学習における河川敷の活用」「川のバリアフリー化」など六つの分野に分かれて意見交換が行われ、最後は、「江戸川を舞台に、さらに活動を進め、交流の輪を広げる」などのサミット宣言を採択して閉幕した。

読売新聞（14.10.13）

What's New
自治体の動き

東京都江戸川区

都市河川と住民をテーマに「全国川サミットin江戸川」を開催

川の名前を自治体名とする全国の市区町村が集まり、「川との共生」などをテーマに考える「全国川サミットin江戸川」が10月12日、東京都江戸川区船堀にある江戸川区総合区民ホールで開催された。この催しは、全国川サミット連絡協議会と江戸川区の主催で、国土交通省江戸川工事事務所、東京都などが後援。今回が11回目で、関東での開催はこれが初めてとなった。

これまでに行われた全国川サミットは、開催場所が地方だったこともあって、川にまつわる観光やイベントによる町おこしがテーマになることが多かったが、今回は都市河川と住民のかかわりがテーマとなった。

参加したのは、北海道鵡川町、秋田県雄物川町、東京都江戸川区、新潟県荒川町、富山県庄川町、岐阜県揖斐川町、静岡県富士川町、同大井川町、三重県宮川村、兵庫県加古川市、同揖保川町、奈良県十津川村、岡山県加茂川町、宮崎県北川町と、江戸川流域の東京都葛飾区、千葉県市川市、同松戸市の計17市区町村。

午前の部の「江戸川を考えるワークショップ」では、「流域の連携を考える」「江戸川の生き物考察」「ビオトープをつくろう」など6つのテーマに分かれたワークショップが行われた。江戸川区が参加する区民などを募集、6月に6グループを発足させ、グループごとに江戸川の水生生物を捕まえたり、夏休みに親子でカヌーを使った江戸川の川下りなどを体験した。ワークショップでは、グループごとに成果を発表した。また、江戸川の歴史や名所を紹介する演劇「かっぱの恩返し」、「親水まちづくりシンポジウム」も開催された。

午後の部の「全国川サミットin江戸川」では、まず「世界の川では今……」と題して、元建設省河川局長で現在、世界水フォーラムの尾田栄章事務局長が講演。尾田さんは約600人の聴衆を前に、世界各地で川が氾濫したり、湖が干上がったりしている現状を紹介して、地球の水が極めて微妙なバランスの上に成り立っていることを訴えた。また、流域連携について、「上流域の人々と下流域の人々が、水の利用方法について十分に協議をすることが大切」と話した。さらに尾田さんは、規範面、開発面、文化面といったさまざまな角度から川と水について考える必要性を訴え、「水の問題は、教育の問題でもあるのです」と強調した。

最後に、午前中のワークショップの発表を踏まえながら、参加者全員で江戸川未来図を制作し、江戸川をより良い川にするための宣言を行って、サミットを締めくくった。

挨拶する多田正見江戸川区長

夏休みに親子で江戸川の川下りを体験したグループの発表

サミット宣言

私たちは、これまでの取り組みをもとに、より良い江戸川としていくために、以下のような川となることを目指し、宣言します。

一、多様な動植物が生息し、健康で自然環境豊かな川にします。
一、あらゆる人々が、気軽にこの広大な空間を共有でき、みんなが思いやりにあふれ、楽しく遊び、学べる川にします。
一、都会にあって、子供たちが「ふるさとの川」と胸を張って誇れ、次の世代へと受け継がれていく川にします。

そのために、私たちは、次の取り組みを行います。

一、江戸川を舞台に、さらに活動を進め、交流の輪を広げていきます。
一、住民と行政の信頼のパートナーシップを築きながら、より良いきれいな川づくりにつなげていきます。
一、来年もみんなで集まり、活動を盛り上げていきます。

2002年10月12日
第11回全国川サミットin江戸川
参加者一同

問い合わせ先

第11回全国川サミットin江戸川
実行委員会事務局(江戸川区土木部計画課内)

Tel	03-5662-8393
Fax	03-3652-9858
E-mail	—
URL	http://www.city.edogawa.tokyo.jp

11 JAPAN RIVER SUMMIT in EDOGAWA

第1284号　広報えどがわ　2002年（平成14年）10月1日

クローズアップ
区内の話題や出来事を紹介します

みんなでつくろう「江戸川未来図」！
全国川サミット in 江戸川

10月12日(土)9時30分から
総合区民ホール（参加無料）

「江戸川」は、私たち区民の貴重な財産です。河川敷で行われる花火大会・総合防災訓練、多くのスポーツ施設や公園緑地などは、この広大な空間を活用した江戸川区ならではのもので、区民の皆さんの様々な活動や憩いの場として、日々の暮らしの中に深く溶け込んでいます。
この大切な「江戸川」の魅力や将来について、区民と流域の区市町村が一緒に考える「第11回全国川サミット in 江戸川」が10月12日(土)に開催されます。
問合せ　土木部計画課（事務局）☎(5662)8393

川サミットとは

河川の名前を自治体名とする全国の区市町村が集まり、未来に向けての**「川と流域とのかかわり」**や**「川との共生」**を探り、川のすばらしさを全国に向けて発信していく大会です。

川を舞台にした活動のさらなる高まり

川下りって楽しいね！
「夏休み親子江戸川探検」より

今回の川サミットでは、あらゆる世代の方々が気軽に楽しみながら、「川」について考えられる内容になっています。
この川サミットをきっかけに、川を舞台にした様々な活動がさらに高まり、ふれあいの輪がもっと広がっていくことを願い、多くの方々のご参加をお待ちしています。

◎「江戸川未来図」は、みんなでつくる「江戸川」の将来像です。現在、「江戸川」を舞台に区民の皆さんによる様々な活動が行われています。ぜひ、川サミットに参加して、あなたの考える「江戸川」の将来像をお聞かせください。

ビオトープをつくろう

子どもたちが安全に水辺に親しむ環境づくり！
～「遊びグループ」の活動より～

江戸川の生きもの考察

魚・昆虫・草花など、たくさんの生きものがいる川づくり！～「生きものグループ」の活動より～

環境学習における河川敷の活用

川の自然を利用した環境学習に取り組み、自然の大切さを学ぶ！　～小学校の環境学習より～

だれもが利用できるバリアフリーの川づくり

だれもが気軽に利用できる条件整備を考える！
～障害者の皆さんによるバリアフリー体験～

※ビオトープ＝魚・鳥・トンボ・チョウなど様々な生きものが生息できる環境。

プログラム

午前の部（9時30分から）

江戸川を考えるワークショップ
テーマごとに川について考えよう！
★流域の連携を考える　～みんなで故郷と呼べる川にしよう～
★水上レクリエーションのすすめ　～カヌーやボートで楽しく遊ぼう～
★ビオトープをつくろう　★江戸川生きもの考察
★環境学習における河川敷の活用　～小・中学校～
★だれもが利用できる川づくり　～バリアフリー～

演劇「かっぱの恩返し」
笑いとともに「江戸川」の歴史を紹介！

親水まちづくりシンポジウム【日本建築学会の方々による】

午後の部（13時から）

基調講演
「世界の川では今……」～世界水フォーラム事務局長・尾田栄章～

意見発表
★夏休み親子江戸川探検報告
★江戸川を考えるワークショップの発表

■夏休み親子江戸川探検

江戸川未来図創作
「こんな川にしたいな！」～さあ、みんなで未来の江戸川をつくりましょう～

サミット宣言

◎川で活動するグループ紹介　◎参加自治体の紹介パネル・物産品展示

江戸川体験コーナー【10月10日(木)～12日(土)】展示ホール
★生きものコーナー（江戸川の生きもの）
★遊びのコーナー（川遊び・カヌーなど）ほか

広報えどがわ　No.1284（10/1）

４．アンケート調査

アンケート調査は、“夏休み親子江戸川探検”の参加者とサミット当日に会場に来られた方を対象として行った。

質問は、主に江戸川など川に対する印象や今回のイベントの感想等について聞き、その回答は今後の川づくりやイベント開催の際の参考とするものとした。

以下に、それぞれのアンケートの質問と回答を整理した。

1) 夏休み親子江戸川探検参加者アンケート結果

【大人の回答】

① イベントの内容について

Q1.「川くだり」の距離はいかがでしたか？

ア. 短い　８人
イ. ちょうど良い　２８人
ウ. 長い　０人
エ. その他

・もっとボート・カヌーを漕いで川を下りたかった。
・初日の午前中はちょうど良く、二日目は慣れたのでもう少しやりたかった。
・Ｅボートでノンストップで下った時は怖かったがカヌーで下ると 2km はちょうど良かった、もう少し長くても良かったかも・・・・
・もう少しカヌーに乗っていたかった。
・2km 交代でちょうど良かった。
・技術の差があるので、上達の早い人、遅い人、共に楽しめた。

Q2. 河川敷のキャンプはいかがでしたか？

・家族ごとにテントがあり快適でした。
・とても楽しかった、テントの張り方などいろいろ覚えられて良かった。
・常設のキャンプ場ができたら良い。
・人生の中で一番楽しかったキャンプでした、出来たら２泊したかったです。本当にありがとうございました。
・思っていたより快適に過ごせた。
・トイレの明かりが欲しかった。
・もっと多くの人が集まるように広報したほうが良いのでは？
・暑くもなく、寒くもなく、夜は気持ち良かった。
・トイレ、水道もあり、広々としていて心地よかった。
・最高でした！久しぶりに ″キャンプファイアー ″をして子供に戻り楽しかったです。しかし、朝、流しそうめんは・・・・楽しむには良いのですが。
・子供がテントで寝るのは、初めてでしたがとても楽しかったです。
・河川敷でキャンプをしても良いと思わなかったので、今後活用したい。

・思っていたよりすごく楽しかったです。
・都内で、しかも近くでキャンプが出来て、自然に触れられるチャンスがあり大変良かった。
・テントも新しく簡単に張れ、マットもふかふかで、とても快適でした。
・道ひとつ隔てただけで別世界でした。夜とても静かでした。
・普段スポーツ等で見る時と違う印象で、利用できる種類が増えて近所（面積）が広がった気がする。
・とても気持ちよく、普段体験できないことをやれてよかった。江戸川を身近に感じることができた。
・キャンプファイヤーが長かった。
・楽しかったです。・・・・３件

Q3．一泊二日の日程はいかがでしたか？

ア．短い　　　　　　　　１人
イ．ちょうど良い　　　３６人
ウ．長い　　　　　　　　０人

②　江戸川について

Q4．自然について

ア．少ない　　　　　　１７人
イ．ちょうど良い　　　１４人
ウ．多い　　　　　　　　３人
エ．その他

・もう少し時間をとって自然について学ぶことができればよかった。
・川がもう少しきれいだといいです。
・鳥など呼べる環境があって欲しい
・川から見る景色は一味違った
・岸がほとんどコンクリートなのは少し寂しい
・思っていたより自然が多かった
・人工的な景観が多いのは残念ですが、初めて川からの景色が見れて良かった。
・どの程度自然があればよいのか判らないけれど、都内としては多いほうではないかと思う。
・緑は多いが、上流はもう少し護岸整備をしても良いのでは
・コンクリートの護岸は面白みが乏しい
・あまり虫が好きではないので山奥は行きたくないので、ちょうど良かったです。
・もっと多くなるといいです。
・緑の空間は非常に良い
・場所によっては寂しいところもある。
・緑は多いし、川から見た景色も良かった。

・ゴミは多いし、魚も死んでいた。

Q5．水質について

ア．汚い　　　　　　　　　　　　１１人

イ．思ったよりきれい　　　　　　２８人

ウ．たいへんきれい　　　　　　　　０人

エ．その他

・川の意識を高めてもっときれいにしていきたい。

・もっと澄んだ水であると良い

・以前のイメージがあったので思っていたよりきれいだった。

・各自でも、川の水や海の水をきれいにするように心がけたい。

・まだまだきれいとは言えない

・水質というより、川及び岸辺のゴミの多さ

・１０ｃｍぐらい下でも全く見えなかったのでびっくりした

・もっときれいになって欲しい

・匂いがするかと思っていた、ゴミも思ったより少ない

・ゴミがたくさん浮いていて汚く感じた

・ゴミや流木が多い

Q6．江戸川で新しい発見はありましたか

・水辺の生き物探検ができるともっと良かった

・水辺の生き物や植物があって、水面から見て思ったより豊かだった

・芝生がきれい　　　　　２件

・公園がきれい

・江戸川が好きな人が多いこと

・川が思ったよりきれいで、釣り人が多かった

・楽しい仲間

・うなぎがいた

・小さな子供でも飽きずに長時間ボートが漕げた

・身近でこんなに楽しい時間が過ごせることの喜び、少し誇りに思えた

・エビやカニがいた

・橋にその名前が書かれていたこと。川辺のカニの穴など・・・

・カヌー・ボートから見た江戸川区が見られて良かった

・自然に触れられて良かった

・川がかなり深かった

・水が前よりきれいになったこと、水上に遊びは楽しいということ

・近い都内で自然回帰のチャンス

・水辺の生き物は思ったより豊か

・飲み水だということを再発見した

・このような集いの楽しさ

・ブッシュ（？）のような風景

・２日間いて土手や川を多くの人が、利用していることを知ることができた
・川からの景色

Q7.「あったらいいな」と思う施設はありますか？（木陰・水のみ場　など）
・充分でした
・木をもっと増やせたらいいと思う
・あづまや
・木陰の下のベンチ・・・・２件
・木陰が少なすぎる・・・・１４件
・カヌーの艇庫・・・・２件
・集いの場
・遊べる場所
・川沿いにイスが欲しい
・仮設でないトイレ、炊事場
・小船が着岸できる場所、これがあればカヌーやボートでの利用が増えてよい
・水のみ場・・・・３件
・トイレ・・・・９件
・シャワー・・・・８件
・売店・・・・３件
・自販機
・時計
・遊具
・キャンプ場・・・・３件
・バーベキューサイト
・バードサンクチュアリ
・ビオトープ公園
・至れり尽せりだったので、これ以上は何もありません

③　その他、感想などお聞かせください。
・来年も是非やって欲しい・・・・１３件
・今回は母子のみの参加でしたが、次回あったら家族全員で参加したいと思います。
・水質検査はためになった
・川の遊びをもっとやってください。
・子供が参加するイベントのときは、他の遊戯の為の船を入れないで欲しいです。
・子供たちがカヌーを好きなので、区にもカヌーがもっとあったらいいと思います。
・流しそうめんが冷えていてびっくりしました。
・竹の容器もお土産になり、至れり尽せりで言葉では言えないほど感謝します。
・スタッフの方も多く至れり尽せりで、竹の容器なども趣があり良かったです。
・カヌーの数が足りなかった。

・荒川に比べて、動力ボート（ジェットスキー含む）のマナーが非常に悪い。是非マリーナへの指導をお願いしたい。
・船着場のコンクリートがヌルヌルしていて滑りやすくて危なかった。・・・・４件
・区役所の方々の細かい心配りに驚きました。
・素敵なツアーをありがとうございました。
・子供たちも意欲的で生き生きしていて嬉しかったです。
・駐車場で手間取った
・江戸川区に住んでいてよかった。
・いつでも気軽に子供でも参加できるプログラムや、イベントを充実させて欲しい。
・午前中は波風が弱く、穏やかで水遊びに最適でした。
・こんなに安い金額で楽しませていただきありがとうございました。
・江戸川がこんなに自然があり、まだ自然を活かしきっていない。
・バーベキュー・そうめん・カレー共においしかったです。
・豊かな江戸川を守り育んでいきたいものです。
・期待していたのと比べ、５００％くらいの満足度で、楽しませていただきました。・・・２件
・区内に住んでいるのに、改めて少し江戸川のことがわかった。
・是非、カヌーの艇庫を作ってください。
・大変有意義な会に参加できて幸運でした。
・父親の参加が少なく、少し残念、日程が組めたら早めの募集をして欲しい。
・とても楽しかったです職員の皆様、大変お疲れ様でした。・・・・４件

【小人の回答】

① **イベントの内容について**

Q1.「川くだり」の距離はいかがでしたか？

ア．短い	１人
イ．ちょうど良い	１１人
ウ．長い	５人
エ．その他	

・波におされた
・ちょうど良く目的地に着き、大自然の江戸川区を見てよかった。
・途中で波がすごくて、漕ぐのが大変でした。
・楽しいけれど、キツかった。
・長すぎる
・２ｋｍづつ交代したとき乗れなかった人もいた。
・風が強かった
・半分でちょうどいい。

Q2．河川敷のキャンプはいかがでしたか？

・色々なゲームがあって楽しかった。
・寝袋が気持ちよかった。
・気持ちよくて面白かった
・楽しかった・・・・９件
・自然の中でキャンプして面白かった。
・夜とかも安心できたし、川の様子も良く分かってよかったです。
・面白かった
・トマトがおいしかった
・外だったので怖かったです。
・テントで寝るのは初めてで楽しかった。もっとテントでゴロゴロしたかった。
・キャンプでははじめてあった人と共同生活したけれど、結構新しい友達が出来てよかったと思います。
・バーベキューや流しそうめんもおいしかった。
・トイレが暗くて怖かった。
・もっとやりたかった
・夜眠れないと思ったけどよく眠れた。
・新しい友達ができてよかった。

Q3．一泊二日の日程はいかがでしたか？

ア．短い	１０人
イ．ちょうど良い	８人
ウ．長い	１人

② 江戸川について

Q4．自然について

ア．少ない	６人
イ．ちょうど良い	８人
ウ．多い	４人

エ．その他

・ゴミがたくさんあった
・虫など多かったけれど緑が少ない
・草はあるけど木が少ない
・潮風や虫、そして緑が多くて住みやすいです。江戸川を守る会があり、きちんとボランティアで江戸川が守られていると思った。
・思っていたより虫などがたくさんいた

Q5．水質について

ア．汚い	８人
イ．思ったよりきれい	１２人
ウ．たいへんきれい	０人

エ．その他

・パドルを入れたら少し見えたから
・周りから見るとちょっときれいだったけど、すくうと汚かった。
・ゴミが浮かんでいて汚かった。
・いつも見ている時はすごく汚いと思ったけど結構きれいだった、濁ってなければもっといいのに・・・
・少し前の江戸川のイメージより、川の色やにおいも無かった。
・少しゴミはあったけれど少しずつ進化していると思った。今後も少しのゴミを持ち帰ってきれいにしたいです。
・魚がいないっていうことは、水質？

Q6．江戸川で新しい発見はありましたか

・カニ
・橋がいっぱいあった
・さかな
・江戸川でカヌーに乗れるとは思わなかった。
・飲める水だということ
・魚が死んでいたこと、これは人間のせい？
・緑がいっぱい
・ゴミが多く、魚が死んでいた
・ゴミ、さかな、カモメ
・はねて元気よく泳ぐ魚
・カモメ、魚
・トンボがたくさんいました。
・死んでいる魚がいた・・・・２件

Q7.「あったらいいな」と思う施設はありますか？（木陰・水のみ場　など）

・水洗トイレ・・・・２件
・公園
・木陰・・・・３件
・カヌー
・シャワー・・・・２件
・遊具
・プール・・・・２件
・カヌーやボート乗り場
・虫を自由にとれる施設
・お風呂があるといいな
・涼しいところ
・歯を磨くところ
・テレビ

③　**その他、感想などお聞かせください。**

・来年も参加したい・・・・６件
・カヌーが面白かった・・・・２件
・江戸川の水の中に浮かんでいるゴミを減らしたい
・カヌーをはじめて乗ったとき、まわって全然進まなかったけど、慣れたらほめられて嬉しかった。
・楽しかったけどなんかちょっと、いやな気分にもなった。
・いろいろなゴミが多く、汚い感じがありました。
・キャンプは良かったです。
・とっても楽しかった・・・・２件
・ふねにいっぱい乗れて嬉しかった。
・キャンプファイヤーなど楽しかった

2)　全国川サミット in 江戸川参加者アンケート結果

Q1．お住まいは、どちらですか？

ア．江戸川区―48 名

イ．・飾区―８名
　　松戸市―３名
　　市川市―２名

ウ．その他―２４名

板橋区―２名	国立市―１名	横浜市―１名	船橋市―２名
清瀬市―１名	杉並区―１名	神奈川県―１名	大田区―１名
足立区―１名	江東区―２名	北区―１名	佐原市―１名
四街道市―１名	埼玉県―２名	愛知県―１名	奈良県―１名
宮崎県―２名	大井川町―２名		

Q2．川をテーマやフィールドにした活動について、お尋ねします。

２．１　何かの活動に参加したことがありますか？

ア．複数に参加している―２１名
イ．参加している　―　３０名
ウ．参加したことがあるが、やめた―３名
エ．参加したことがない―２３名

２．２　ア．とイ．を回答された方に、お尋ねします。

活動の対象としている河川名を教えてください

江戸川　旧中川　荒川　隅田川　左近川　新川　利根川　多摩川　小名木川
大横川　横十間川（江東区）　春木川　国分川（市川市）　長瀞　涸沼川(茨城)
大井川　天王川(静岡)　豊川　佐奈川(愛知)　十津川(奈良)　北川(宮崎)

２．３　活動の頻度と、その内容をお教えください。

○頻度
- ・日々活動している
- ・週１～２回
- ・毎週土、日
- ・月１回
- ・月２回
- ・２ヵ月に一度
- ・年４～５回
- ・年３回
- ・春から秋にかけて３～４回

○内容
- ・柴又エコロジー2000
- ・イベントボランティア
- ・ドラゴンボート
- ・河川敷整備についてのワークショップ
- ・江戸川カヌークラブ
- ・自主生き物調査団
- ・江戸川新八水路の生き物調査
- ・クリーンエイドあらかわ
- ・安波まつり(水上神楽ばやし)
- ・国分川調節池を考える
- ・地域の人達と協力し、水辺に親しむ為のきっかけ作りとしての、イベントや水辺づくり提案を行っている。
- ・川遊び
- ・バードウォッチング
- ・ビオトープ観察
- ・河川清掃
- ・ボートクラブ
- ・マラソン大会
- ・ホタル祭り
- ・学習活動
- ・川下り大会(イカダ)

２．４　ウ．とエ．を回答された方に、その理由をお尋ねします。(複数回答可)

○興味がない	０名
○面倒くさい	２名
○忙しい	１０名
○面白そうなものがない	０名
○探し方がわからない	８名
○仲間に入りにくい	３名

○その他
- ・川まで遠くて気軽に行けない
- ・どのような活動があるのかわからずリストが欲しい
- ・川の見えない街づくりが結果として市民を川から遠ざけている
- ・就職の為引っ越して活動できなくなった
- ・次回参加したい

Q3．自由意見欄
- ・これからもどんどん計画して頂きたい。
- ・サミットの成功を願う共に、よき昔の川になるよう地元の人々と協力して活動したい。

・新生会員で参加しているのですが、清掃後等、散歩をしたりしてみると「以前よりきれいになったなあ」と思うときがあります。
・川は本当に「生きた教材」ですね。今までは、ただ散歩をするだけでしたが、多勢で活動しているところに参加できたらもっと楽しいでしょうね。
・サミットに参加できて、本当に有意義な時間を持てました。
・川の近くに住んでいても、川に行くことがなかったです。こんなに素晴らしい江戸川があることを伝える大切さを感じました。
・川を遊び場所にするには、人工構造物を減らし出来るだけ自然に戻すことが望ましいと思います。人の目に触れる高さで川が見えていることが大切です。それには、街と川の間に高い建物がないことが条件です。川風が抜ける街にすれば人々は川を大事にします。
・今後も続けて欲しい。
・５１自治体が、全部参加するように努力して欲しい。
・川の源は澄みきったきれいな水ですが途中、道路、排水等により汚れ、人為的な要因は小さな不本意な行動、しかし、水は命の源、小さな行動の積み重ねが環境を変える。
・人それぞれが思い思いに楽しめる場所であって欲しい。護岸、河川敷は出来るだけ自然を残して欲しい。
・川は管理したり眺めるもので、生活や遊びの対象としての関係が薄いのではないか、水と共に生活できる、親しめる川のあり方を考える時期だと思う。
・色々な活動をまとめて出してもらえたと思う。
・河川環境豊かな川づくりを進めて行きたい。
・区民が多く参加して作り上げており、大変素晴らしかった。裏方の皆様大変ご苦労様でした。
・本日の受付の対応が非常に悪かった。
・上流に（大分県側）北川ダムがある。汚水と土砂吐き装置がなくダム湖には中深部でよどんでいる。ドレーンを設けて年数回の水替えを希望している。
・サミットについてのＨＰを充実させ、広く一般にアピールした方が良いと思う。
・子供が自由に親しめる川づくり（釣り、キャンプ、泳ぎ、ｅｔｃ）
・河川の浄化対策への取り組み等
・初めてサミットに参加し、いろいろな出会いがあり刺激になりました。みんなが川に興味を持ってくれ、可愛がってくれるといいですね。
・サミットは大変良いことだと思う。
・サミットは上手に運営されていました。
・川を考えるいい機会でした。江戸川の下流の・西で生まれ育ち山本周五郎の「青べカ物語」や寅さんのべカ舟に乗って浦安へ着いた等、江戸川を語るに有名な題材があります。新しい住民と旧住民が住む江戸川をもう一度見つめ直してみたい！「川は人の心をうつす鏡」人と川、川と心のネットワーク
・内容、規模共に大変すばらしいものでした。川について今後もっともっと考えていきたいと思いました。関係者の努力に感謝いたします。

・楽しいアイデアにあふれた企画でした。バリアフリー障害者と川はとてもよい試みでした。互いの活動がわかった内容だと思います。
・堤防は水害を防ぐ為の施設であることを考え直してもらいたい。大利根ゼキでの取水量が多いようだが、もう少し江戸川に流してもらい、河口の三番瀬の水質浄化に役立たせたい、川としての役目もあるのでは…
・このサミットのＰＲが少なかったのではないでしょうか？昨日このイベントがあることを知らされ、代理で参加しました。
・小学校の教師をしております。これからの総合的な学習へ活用できるヒントをたくさん頂きました。大変勉強させていただきありがとうございました。
・江戸川をポイントに様々な活動グループがあることがわかりました。
・行政は「川」をテーマにした都市のイメージアップに活用してみてはどうか。
・江戸川の河川敷をビオトープにする。運動場を一部やめて自然の池などを造る。
・話しを聞いて理解できた。川と一緒に遊ぶことが大切。
・川サミットを通じて地域や区の方と顔見知りになったり、植物、小動物などのことを指導受けられ大変うれしい。
・いろいろな活動があると知りました。きれいなみんなが安らぐ川であるといいと思います。
・初めてなのかスタッフの方があまりなれていない様子でした、旗と一緒にノウハウも次回の方に渡してください。自治体に川の名が付いていないところの人々にも、この場を提供したいと思いませんか？
・熱意に驚いた。しかしこうした熱意が未来に続けてもっていけるのだろうか？肩の力を抜いて自然体でもよい川づくりが出来るようになればいいと思った。
・意見発表、先生方のまとめ、わかりやすかった。
・住民が「川を良くしていきたい！川で楽しみたい！」という思いが伝わりました。
・全国の川と思ってきましたが、他の道府県の川の発表がなく少し残念だった。他の川のことも知りたい。
・全国から川の名がつく地名の代表者が集まって、環境について皆が自然を守っていくべきことを訴えられており、人間として私たちも心を一つにし協力していきたいと思います。
・川岸に釣り場が欲しい。いつでも止められる駐車場が欲しい。
・親しみやすい川にして欲しい。
・サミットで河川敷を利用するなど、河川を舞台にした内容も考えてはいかがか？このような内容では将来発展（継続）していくか不安
・江戸川沿川、全自治体も参加したほうが良かった。
・今後に期待します。
・シャワーや船を置く場所が欲しい。
・カヌーの種類と、もっと自由に利用できたらいいと思います。
・水遊び場を整備して欲しい。トイレや水飲み場も…
・川で遊んだ後つかえるシャワーやトイレ、そしてきれいな川
・いろいろな分野の活動者、利用者などの意見交換があまりされていないように感じた。今回を機会に交流、意見交換されると良いと感じた。

・このような催しを区民は知らないと思う。街中にスクリーンを設置し、道行く区民にも耳を傾けてもらう努力をすべきだと思う。
・江戸川区は川に囲まれ、水路的な川もあります。荒川と江戸川を自由に行き来できるようアクセス可能にしてもらいたい。
・地方自治体の自慢話やこういう風にしてみたらどうか、などの意見や経験談を聞きたかった。
・川は安全だとの認識→川と親しみやすくなる→江戸川＝里川との認識→川への思いやりが育つと思う(ゴミを捨てない、きれいにする)
・とにもかくにも川原をゴミ捨場にさせたくないので、市民共同で整理したく思っています。艇庫や乗り入れ、上陸する場所を是非つくってください。
・地方自治体の活動を聞きたかった。分科会の時間がもっと長いと良かった。
・今回のように様々な視点から考え、意見交換できる機会はとてもすばらしいと思いました。この場で出たアイデア、リクエストを是非反映して欲しいですね。
・川辺を自然のままにして、カヌーなどが何処でも乗れるようにして欲しい。カヌーやボートをおいて置ける場所を区が提供して欲しい。
・子供が自由に遊べる川になって欲しい。
・子供でも読みやすい時計を設置して欲しい。
・親水まちづくりシンポジウムで村川教授が川(河川敷)が人の精神状態にα波を増加させる話にとても興味を持ちました。幼い時から苦しく悩んでいるとき、よく江戸川に出かけてボーとして､精神的な回復を図るという経験をしてきたせいか､川の持つ力について今後も興味を持っていきたいと思った。
・いろいろな川の問題等を聞くことができ、とても勉強になりました。単に、川の汚染の問題なのかと思って参加しましたが、もっといろいろな問題や役割があって驚きました。長い目でよい方向になっていくと良いです。どこかでお手伝いができるよう、努力したいと思います。
・相模川の近くより参りました。多摩川と相模川の間に住んでいながら川に馴染むことが少なく残念に思いました。わが町でも是非活動を‥‥と願いました。
・各グループの発表はとても面白かった。｢江戸川｣一つとってもいろいろな見方で様々なアイデアが出てきたことにとても驚いた。しかしながら､｢みんなが楽しめる安全できれいな川にしたい｣という思いは一緒であることがわかった｡是非行政の皆さんには具体的な施策として住民と一緒にきれいな川、川づくりを実現して欲しいものです。
・河川敷には森がない、森を創生してください。